

2 包含層遺物

近世該当の包含層から出土した遺物は、磁器 100 点、陶器 682 点、古銭 4 点である。このうち、凶化した遺物を以下に掲載する。掲載に際しては、まず各遺物を用途により大別し、その後それらを器種毎に細分する手法をとった。

(1) 食膳具

食膳具として、碗 55 点、皿 19 点、蓋 3 点、土瓶 15 点、徳利 6 点がある。碗・皿は、磁器・陶器別にとりあげる。

ア 磁器碗 (第 147・148 図 1090~1108)

1100・1108 以外は透明釉がかかる。胎土の多くは白色で、1093・1094・1102 は灰白色、1096・1097 は黄白色、1100 は黄灰色、1101・1103 は灰色である。

1090~1093 は、18 世紀中頃の肥前磁器の丸碗である。1090 は口縁部片で、外面に青磁釉がかかる。1092 は、高台が高く、内底面に「長命富貴 金玉満堂」、外底面に「長命富貴」の文字が描かれる。1093 は口径 9.9cm、波佐見焼の口縁~胴部片である。外面に草花文を描く。

1094~1096 は、18 世紀後半頃の碗の口縁部である。1094・1095 は肥前磁器である。1094 は口径 11.0cm の底部近くまでの破片で、外面に楼閣山水紋が描かれている。1095 は外面に杉葉文、内面に圈線が描かれる。

1096 は薩摩磁器である。

1097~1102 は 18 世紀後半の筒形碗で、1100 以外は肥前磁器である。1097 は口縁部片で、1098・1099 はともに口径 8.0cm の口縁部から底部近くの破片である。1098 は器高 5.4cm で、外面に山水文、内面に四方禳文と圈線を描く。1099 は外面に蔓草文が描かれる。1100 は、残存部分の最大径 7.9cm の胴中央部で、内底に 2 条の圈線を描き、施釉されて灰白色を呈するが、外底に釉切れが 4 か所ある。1101・1102 は、外面に圈線を描く底部である。1101 は底径 5.0cm で、内外面ともに圈線が描かれる。1102 は底径 3.9cm、細く高い高台で、外面には圈線が描かれる。

1103~1108 は、19 世紀初めから前半の碗で、1103 は肥前、1104~1108 は薩摩の磁器である。

1103~1107 は端反碗である。1103~1106 は安定した高台の付く底部で、見込みに蛇の目釉剥ぎ (1103・1105~1107)、砂目 (1107) がある。1104 は外面に岩波文が描かれる。1107 は口径 10.6cm、器高 5.4cm、底径 3.8cm で、ほぼ完形である。外面には蔓草文が描かれる。

1108 は口径 6.9cm、口縁~底部近くの破片である。

イ 陶器碗

肥前陶器 4 点、薩摩焼 26 点、その他 6 点がある。

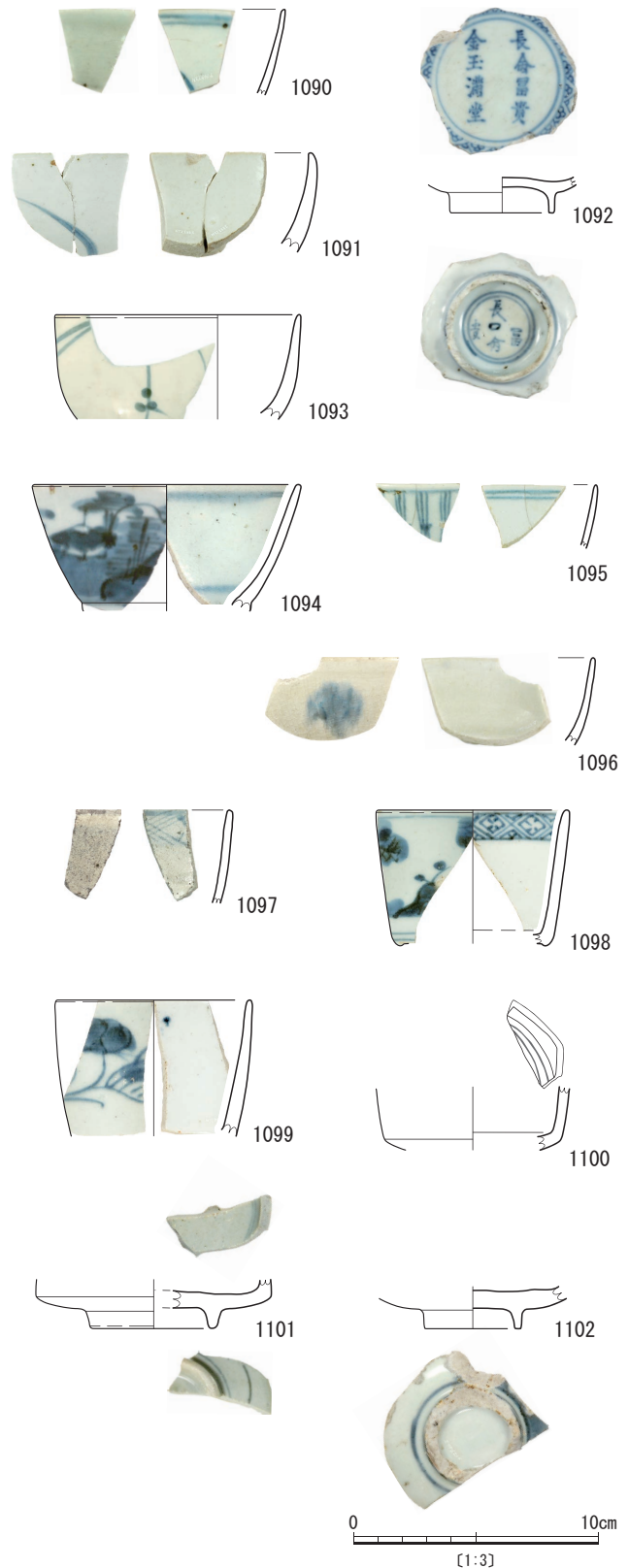
① 肥前陶器 (第 147 図 1109~1112)

1109~1112 は肥前陶器である。

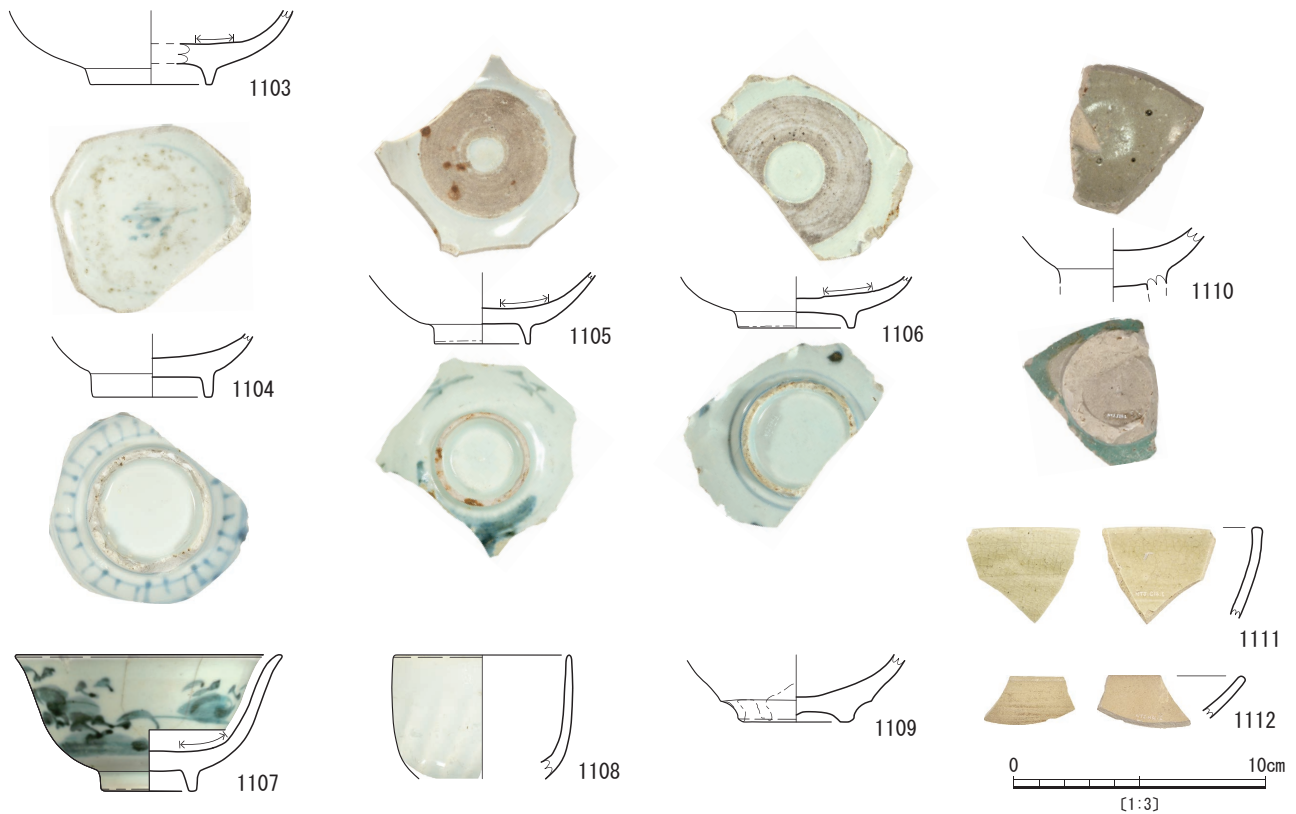
1109 は底径 4.8cm、16 世紀末から 17 世紀初頭の胴下部~高台部分で、外面下部のほとんどは露胎だが、上部は黄味を含む黒色釉が施され、下部には分厚く釉垂れが

みられる。内面は同じような釉がかかる。

1110 は 17 世紀後半から 18 世紀前半の内野山系碗の底部である。胎土は黄灰色を呈する。外底面は無釉、内



第 147 図 碗 (1)



第148図 碗(2)

面は透明釉，外面は銅緑釉がかかる。

1111・1112は口縁部片で，浅黄色の胎土に透明釉がかかる。1112は，皿の口縁部の可能性がある。

②薩摩焼(第149図1113~1138)

1113~1138は，龍門司系の碗で，胎土の粒子は細かい。

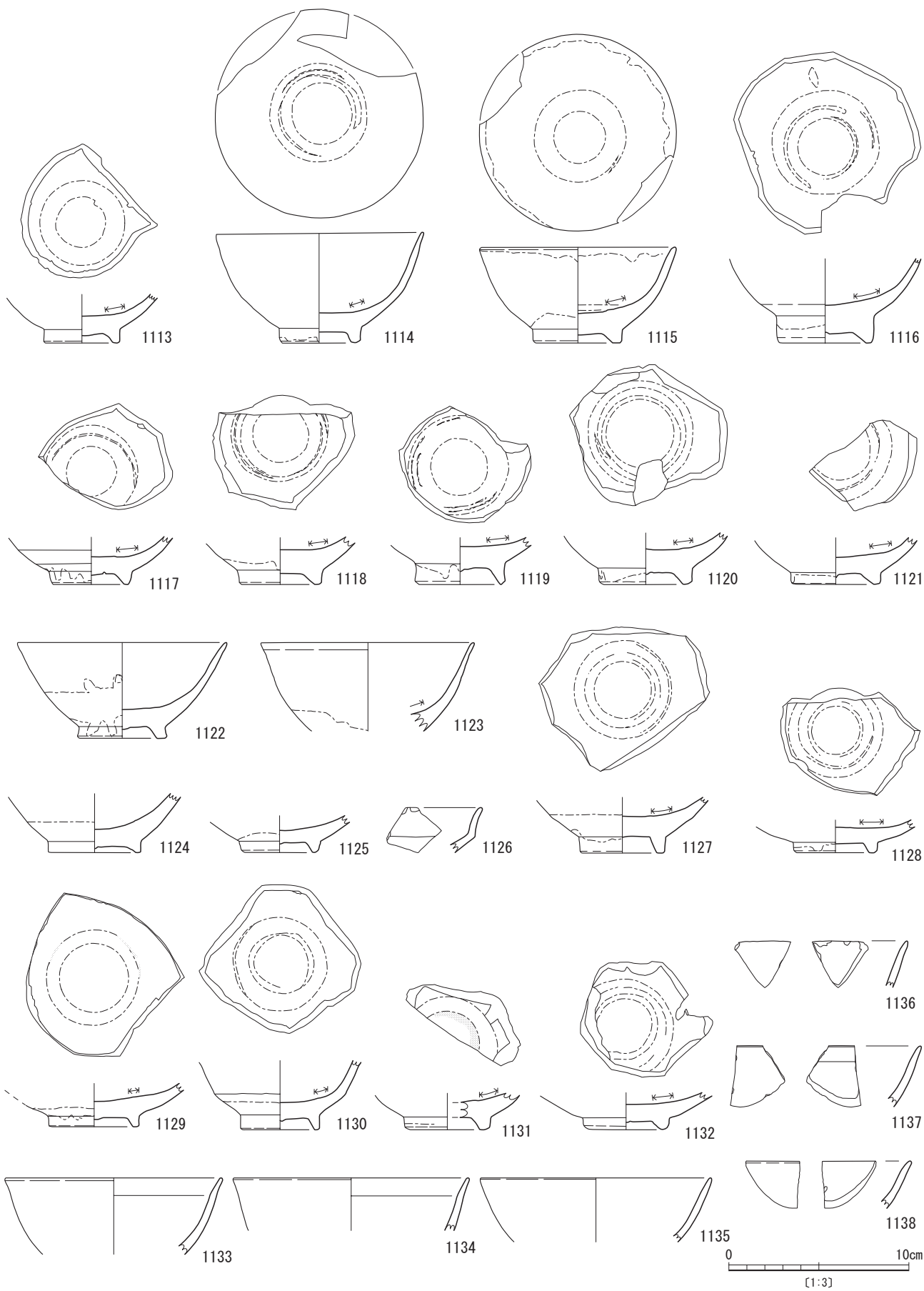
1114・1115はほぼ完形である。1114は，口径11.5cm，底径4.5cm，器高6.0cmで，分厚い底部から丸みを帯びて立ち上がり，口縁端部はとがり気味となる。畳付以外は鉄釉が施釉される。1115は，口径10.9cm，底径4.4cm，器高5.3cmで，1114と比べやや浅い器形だが，逆台形状の幅広の高台が付き，口縁端部は丸みをもっている。口縁部は内外とも厚く施釉される。1114・1115ともに，内底部分は蛇の目釉剥ぎである。胎土の色調は，1114がにぶい赤褐色で1115が黄灰色である。1114の外底面は露胎である。釉色は，1114は暗赤灰色，1115の口縁部は極暗赤褐色で鉄釉部分は赤黒色を呈する。

1113・1116~1121は胴から高台部分で，底径は，1116が5.4cm，1118が4.6cm，1119・1121が5.0cmである。1113は，底径4.2cmで外底面も施釉された古手である。1116の胎土は白色石を含む。色調は，1113は浅黄色，1116・1119・1120は赤褐色，1117・1121はにぶい褐色，1118は橙色である。1115~1121の高台は無釉で，1115・1124の畳付，1116・1131の高台~畳付，1118の外底面，1119の畳付~外底部，1120・1121の高台内と高台の一部は露胎である。施釉部分は，1113は赤褐色，1117は外面

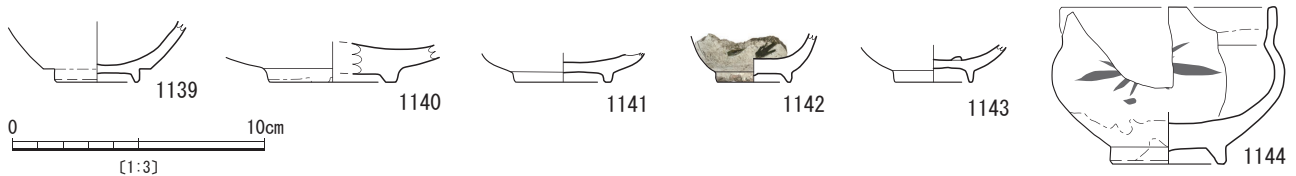
が黒色，内面中央は極暗赤褐色で鉄釉部分が赤黒色，1118は暗オリーブ灰色，1119は黒褐色，1120はオリーブ褐色，1121は灰赤色を呈する。1116~1121は見込みに蛇の目釉剥ぎがある。1117は，底径4.4cm，高台内の底面下部に切り込みがある。1118の内底は暗赤褐色に施釉される。1120は，底径5.2cmである。

1122~1128は，同じく龍門司系だが白化粧土の製品である。1122は，口径11.6cm，底径5.0cm，器高5.3cmのほぼ完形である。分厚い底部から外へ開きながら直線的に伸びる器形を呈し，口縁端部はとがり気味となる。外へ開く分厚い高台が付き。高台~畳付は露胎で，施釉部分は，内面が灰黄色，外面が一部に釉のムラがあり，下部は緑色が強い灰黄褐色を呈する。1123は口径11.8cmの口縁~胴部片で，やや丸みを帯びた器形を呈し，口縁端部はとがり気味となる。外面下部の釉色はにぶい黄褐色である。

1124・1125・1127は胴~高台部分である。1127の高台は逆台形を呈し高い。1124は底径5.1cm，高台は低いが幅は2.5~6.0mmと広狭が顕著である。畳付から底は露胎，外面下半は透明釉がかかり灰オリーブ色，上半は白色釉がかかり，境付近で釉垂れが数か所ある。1125は底径4.2cmで高台が低い。胴下部の一部と高台は露胎，施釉部は外面は灰オリーブ色を呈し，内面は4か所の砂目がある。1126は口径10.0cm，小碗の口縁~胴部である。胴部と口縁部の境には明瞭な屈曲部がある。1127は底径4.7cm，高台~外底部は露胎，内面及び外面上部は灰



第149图 碗(3)



第150図 坏・碗

色、外面下部は黒褐色に施釉される。1128は底径4.6cm、底部～高台部分で、高台内外は露胎、にぶい黄褐色に施釉される。胎土の色調は、1122・1123は赤褐色、1124は暗灰黄色、1125・1126は灰色、1128は浅黄色である。施釉部は、1122・1124の外面上部、1123の外面上部から内面、1125の内面、1126は灰白色を呈する。1122・1123・1127・1128は、見込みに蛇の目釉剥ぎがある。

1129～1132は、底部から高台部分で、見込みに蛇の目釉剥ぎがある。1129～1131は胴部で立ち上がる器形になる。1129は底径5.0cm、胎土は黄灰色、底部から高台部分は露胎で灰色、内外面は灰オリーブ色を呈し、見込みに砂目がある。1130は底径4.4cmで、腰折れがある。白色石を含む胎土は橙色、畳付から高台内面は露胎、化粧土と透明釉がかかり、外面下半はにぶい黄褐色、外面上半から内面は灰白色に施釉され、貫入がある。1131は底径4.7cm、胎土は赤褐色である。高台は露胎、施釉部は褐色を呈する。1132は底径4.8cm、胎土は灰白色である。畳付部分は露胎、施釉部は明オリーブ灰色を呈し、外底端に砂粒が付着する。皿の可能性もある。

1133～1138は、鉄釉が施されて黒褐色を呈する口縁部片である。丸みのある器形を呈し、口縁端部も細く丸みを帯びる。口径は12.0～13.1cmである。胎土の色調は、1133・1134が赤褐色、1135が明黄褐色、1136・1137が橙色、1138が白石を含み褐灰色である。

ウ 坏・碗 (第150図 1139～1144)

1139～1141は、産地不明の坏である。1139は底径3.4cm、胴～高台部分である。底部と高台は段となり、高台端部は三角形状である。灰白色の細かい胎土で、胴下半～高台は露胎、浅黄色釉がかかり貫入がある。1140は底径5.0cmの底部片で、分厚い底部に逆台形の低い高台が付く。胎土は黄白色、外底部は白濁した釉が部分的にかかる。1141は底径3.8cmの底部片で、胎土は灰色、底部は露胎、青磁釉がかかり、内面2か所にトチン痕がある。

1142・1143は底径3.0cmの小坏の底部である。絵唐津の1142は淡赤色の胎土である。産地不明の1143の胎土は黄白色で、透明釉がかかり、見込みに目痕が1か所残る。

1144は口径8.6cm、底径4.6cm、器高6.2cmのほぼ完形で、龍門司焼系薩摩焼の鉢状を呈する碗である。外面に楓文が描かれる。胎土はにぶい黄橙色土で、高台内は無釉、内外面に化粧土を施し、外面に透明釉がかかり、灰白色またはにぶい黄褐色、鉄絵は暗褐色を呈する。

エ 皿

磁器9点と陶器10点がある。

①磁器 (第151図 1145～1153)

1145～1153は、透明釉がかかった肥前系の磁器である。胎土は、白色・灰白色である。1145・1152の内面、1145・1148・1150の外面には圈線が描かれ、1146・1149・1152・1153の見込みには蛇の目釉剥ぎ痕がある。

1145～1151は、18世紀代の皿である。1145・1146は、波佐見焼の皿の口縁部で、内面に菊唐草文を描く。1146は底部近くまで残り、口径12.0cm、器高1.8cmで、外面に唐草文を描く。1147～1151は底部片で、1148・1149の底径は8.0cmである。1147は底径7.0cmで、畳付に釉剥ぎと砂目がある。1148は、内面に草花文状の文様を描く。1150・1151は大皿である。1150は底径11.0cmで劣化が著しい。1151は底径7.8cmで内面に十字四方襷文を描く。

1152・1153は碗の底部片で、低い高台が付き、内面には蛇の目釉剥ぎ痕がある。1152は底径4.6cm、1153は底径6.0cm。

②肥前系陶器 (第151図 1154～1163)

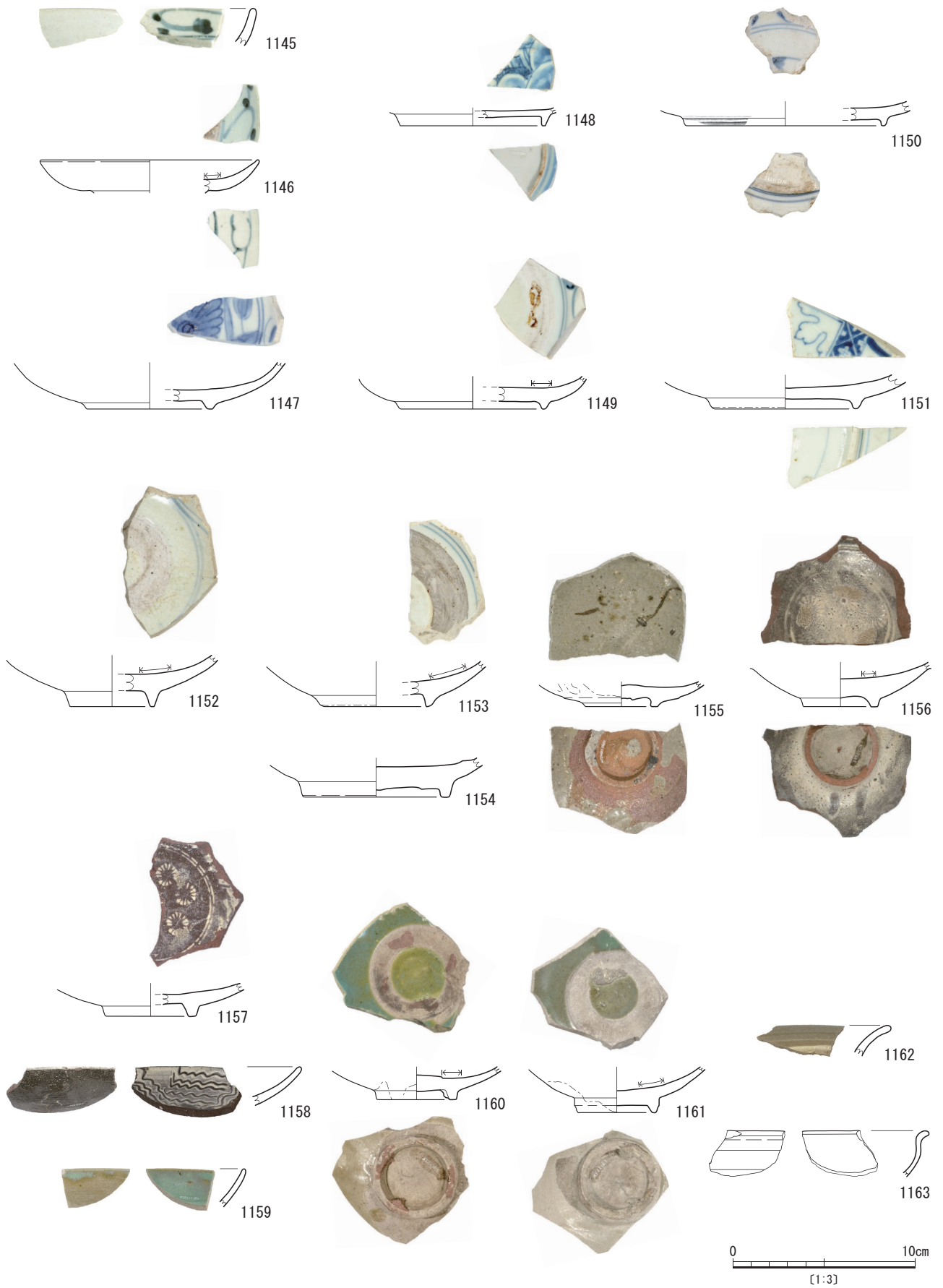
1154・1155は、16世紀末から17世紀初頭の唐津焼皿の底部である。1154は分厚い底部である。底径8.0cm、胎土は灰白色、外底面は部分的に透明釉がかかる。漳州窯の可能性もある。1155は底径4.0cm、胎土は灰色、外面下部は無釉部が目立ち、内面の一部に鉄釉がかかる。

1156・1157は、17世紀初頭から前半の三島手の唐津焼碗の底部で、見込みは2条圈線に囲まれた菊文のスタンプが押され、象嵌状を呈している。胎土は赤褐色である。1156は底径4.2cmで見込みに目痕が3か所あり、1157は底径5.0cmである。

1158は、唐津焼皿の口縁部片で、内面には櫛状の波状文が施される。暗赤褐色の胎土である。

1159～1161は、内野山系の陶器碗で、外面に透明釉がかかる。1159は口縁部片で、胎土は灰色、内面は銅緑釉をかけ分ける。1160・1161は底径4.5～4.6cmの底部で、胎土は黄灰色、外底面は無釉、内面には透明釉がかかり、見込みに蛇の目釉剥ぎがある。1160は、高台内に胎土目が見え、釉剥ぎの上にトチン痕が残る。

1162・1163は外反する碗の口縁部片で、胎土は、1162が黄褐色で1163が灰白色である。1163は、鉄釉が施され黒褐色を呈する。



第151图 皿

オ 蓋 (第 152 図 1164~1166)

1164 は倒坏状の蓋である。胎土は灰白色で、内面に透明釉、外面に青磁釉がかかる。1090 と施釉法が似ている。

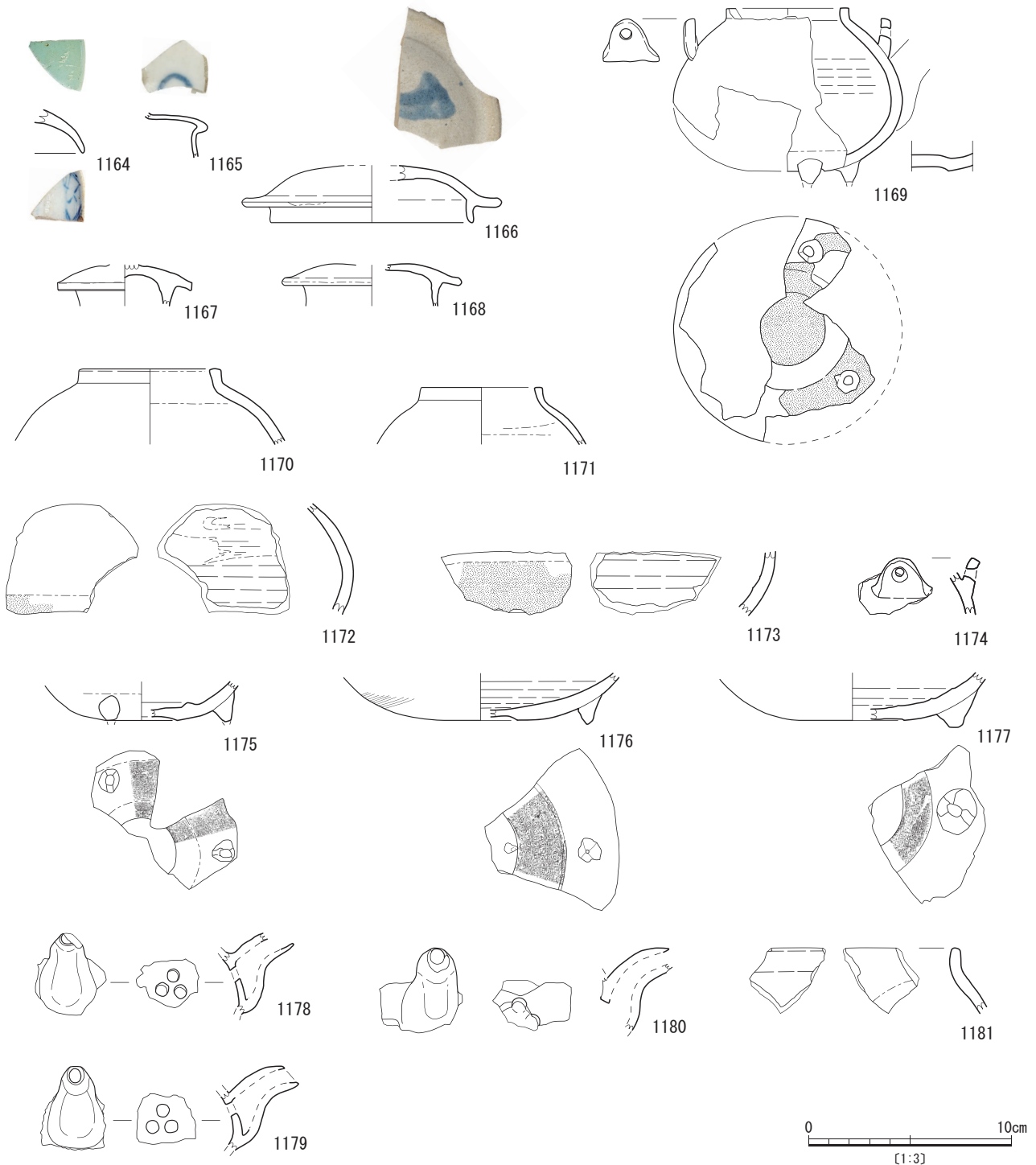
1165 は肥前系磁器の蓋で、天井部が外側へ張り出している。胎土は白色、透明釉がかかる。1166 は、陶器・磁器の区別が不明で、口径 10.0cm、器高 2.8cm、底径 12.8cm である。胎土は黄色、内面は無釉で、上面に文様がある。

カ 土瓶 (第 152 図 1167~1181)

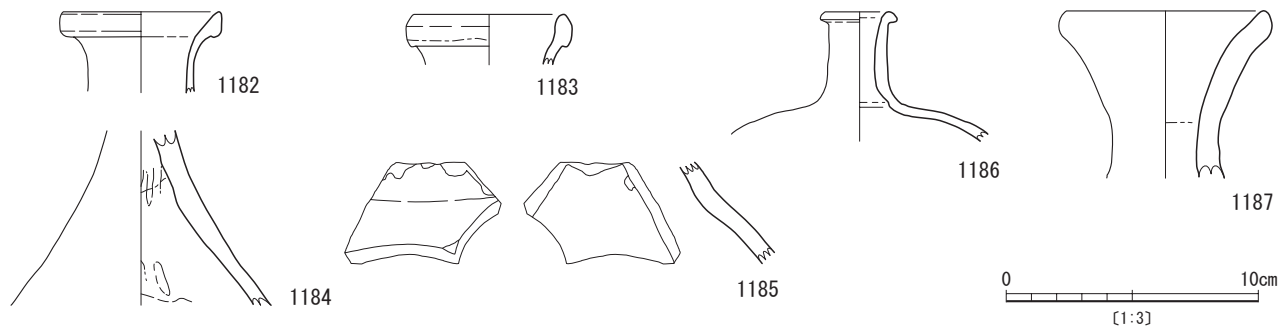
1167~1181 は、18 世紀後半から 19 世紀の苗代川系薩摩焼の土瓶である。石英・白石を胎土に含むものが多い。1173・1174・1178・1180 の胎土はにぶい褐色である。1167・1172・1175 の施釉部は黒褐色を呈する。

1167・1168 は上面のみ施釉された蓋で、胎土は、1167 が赤褐色で 1168 が灰色である。1168 は施釉部も灰色を呈する。

1169 は、口径 6.0cm、底径 3.6cm、器高 8.7cm の完形品



第 152 図 蓋・土瓶



第 153 図 徳利

で、胎土は褐色、外面胴部下位～底部は露胎だが煤が付着しているため黒褐色を呈する。口縁部は直に立ち上がり、胴部は丸みを帯びている。両側に把手が付き、片方に注ぎ口がある。底部には3か所に低い脚が付く。

1170・1171は口縁部片である。1170は口径7.0cm、胎土はにぶい赤褐色、内面は無釉、施釉部は極暗褐色を呈し、口唇部は釉剥ぎされる。1171は口径6.0cm、胎土はにぶい黄褐色、口唇部～内面上部は無釉、施釉部は暗褐色を呈する。

1172・1173は、丸みを帯びた胴部片である。1172は、胎土は赤褐色、外面下半に煤が付着する。1173は、施釉部は灰オリーブ色を呈し、腰部以下は無釉で煤が付着する。

1174は、孔を穿たれた耳部分である。

1175～1177は底部で、1175は脚が2本、1176・1177は脚が1本残る。1175・1176は底径3.6cmである。1175は、胎土が灰褐色、外面の腰部以下が無釉である。1176は、胎土が褐色、施釉部が暗灰黄色で外底面の窯道具跡と考えられる部分のみ黒褐色を呈する。1177は底径5.0cm、無釉で大きめの脚をもつ。

1178～1180は注ぎ口である。1178・1179は茶止め穴が三つあり、1180も残存形状から本来三つあったと考えられる。1178は施釉部が暗オリーブ褐色を呈する。1179は、胎土が暗褐色、施釉部が暗オリーブ灰色を呈する。1180は胎土がにぶい褐色を呈する。

1181は口縁部で、胎土は石英を含むにぶい褐灰色、内面下部は無釉、施釉部は灰褐色を呈する。注ぎ口内側が一つ穴で、三つの茶止め穴をもつ通常の土瓶とは用途が異なるか、土瓶に先行する鍋・釜からの派生なのか不明である。

キ 徳利 (第 153 図 1182～1187)

1182～1185は、17世紀後半から18世紀前半頃の苗代川系薩摩焼の徳利である。1182～1184は、堂平窯産の可能性が有る。

胎土は、石英・白石を含み、1182は暗赤灰色、1183・1185は灰色、1184は灰黄色である。いずれも鉄釉が施される。1182・1183はオリーブ黒色を呈する口縁部で、1182は口径6.4cmで17世紀後半頃、1183は口径6.6cm

で17世紀のものと考えられる。1184・1185は頸部～胴部の破片で、1184の内面下部は無釉、施釉部は黒褐色を呈し、1185の施釉部はオリーブ灰色を呈し、内面には鉄分と考えられる黒斑がみられる。

1186・1187は、1182～1185より新しい薩摩焼の口縁部である。1186は口径3.1cmの細首の口縁部で、端部は外へ広がっている。肩部は外へ張っている。胎土は石英を含む褐灰色、施釉部は暗赤褐色を呈する。1187は口径が8.4cm、外反する分厚い龍門司系薩摩焼で壺の可能性もある。胎土はにぶい褐色、内面は無釉、化粧土に透明釉が施されている。

(2) 貯蔵具

貯蔵具は、鉢・播鉢18点、蓋2点、壺・甕16点がある。

ア 鉢 (第 154 図 1188～1194)

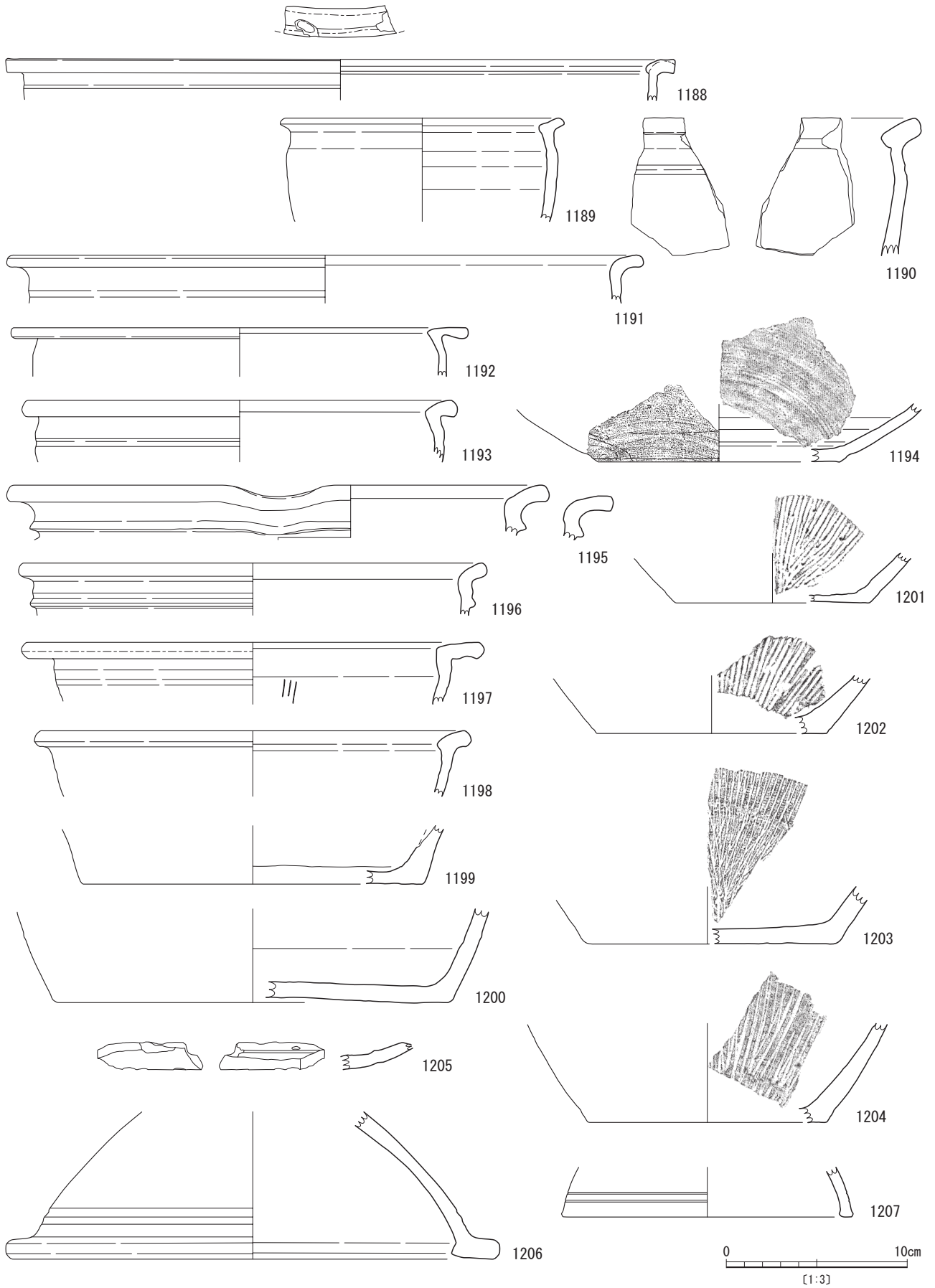
いずれも、苗代川系薩摩焼である。

1188～1190は、18世紀後半と考えられる片口鉢の口縁部片で、口唇部は無釉、施釉部はオリーブ黒色を呈する。胎土の色調は、1188・1189は暗褐色、1190は赤褐色である。1188は、口径37.7cmのL字状口縁で口唇部に貝目が残る。1189は、口径15.7cmで内側がやや下がる。1190は、1189よりもさらに内側が下がる口縁で、胎土に小礫・砂粒を含み、鉄釉を施される。

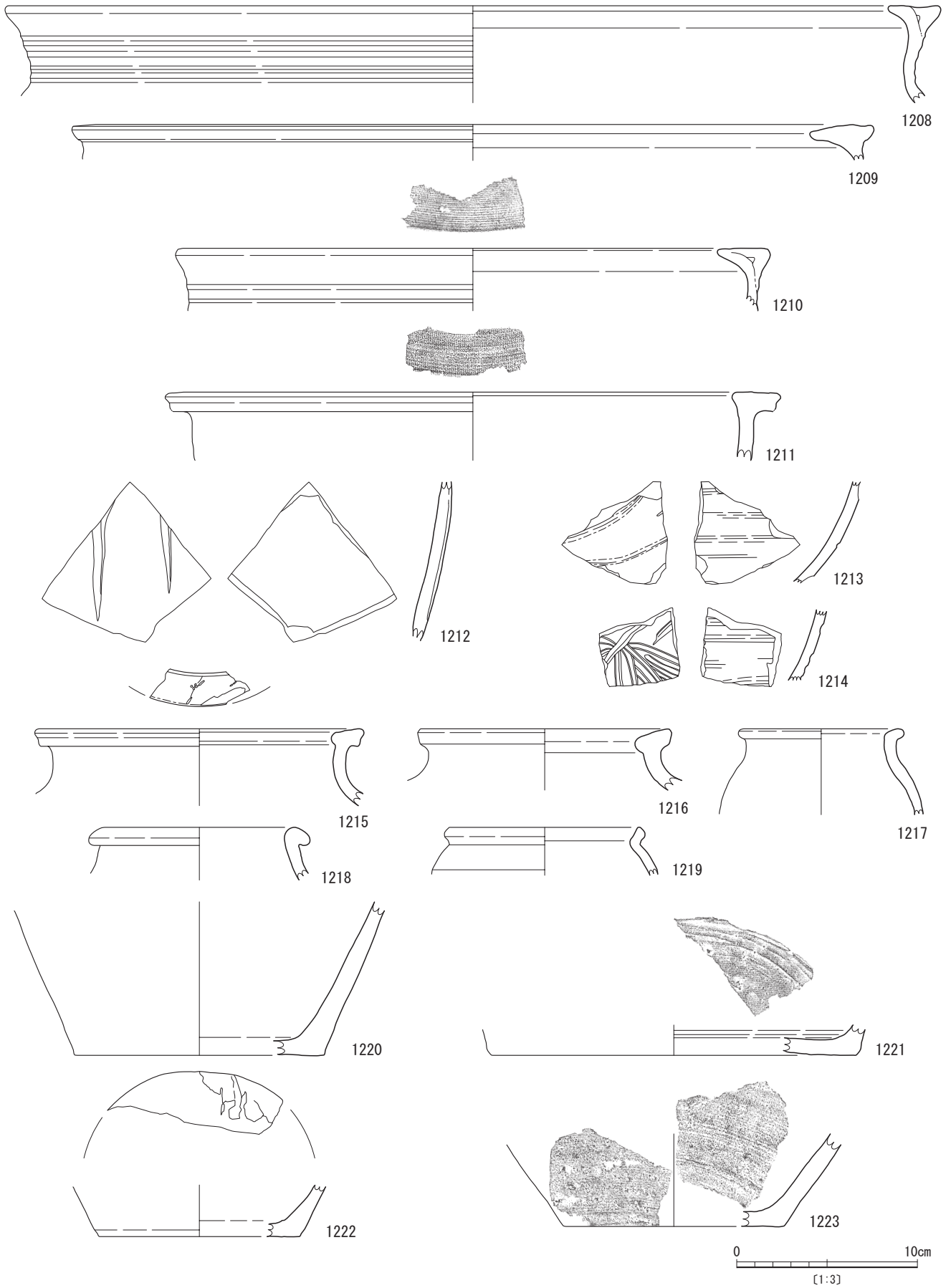
1191～1194は、施釉部がオリーブ黒色を呈する18世紀後半頃の鉢である。1191は丸みを帯びたL字状口縁、1192は鋤先状口縁、1193は端部の分厚いL字状口縁である。1191～1193は口唇部が無釉の口縁部、1194は底部である。胎土は、1192・1194は石英、1192は白石を含み、1191は暗褐色、1192～1194はにぶい赤褐色である。口径は、1191が35.1cm、1192が25.2cm、1193が24.0cmで鉄釉が施される。1194は、底径13.3cmの安定した平底で外底面から胴下部は無釉である。

イ 播鉢 (第 154 図 1195～1204)

1195～1198は、口縁部で内側がやや下がるL字状を呈する。いずれも胎土に石英を含み、口唇部は無釉である。口径は、1195は29.9cm、1196は25.8cm、1197は25.4cm、1198は24.0cmである。胎土の色調は、1195は赤褐色、1196は暗褐色、1197は灰黄褐色、1198は褐灰色である。



第154図 鉢・播鉢・蓋



第155图 甗·壶

注ぎ口をもつ 1195 の口縁内面は無釉である。1196 の内面上部は無釉である。1197 の内面に三条の摺目がある。1195・1197・1198 はオリーブ黒色、1196 は黒褐色に施釉される。

1199～1204 は安定した平底である。底径は、1199 が 18.8cm、1200 が 22.2cm、1203 が 14.6cm、1204 が 13.2cm、1202 が 12.6cm、1201 が 10.8cm で、1201～1204 は内面に摺目をもつ。胎土は、1199～1204 が石英、1203・1204 が白石を含む。色調は、1199 が灰褐色、1200・1202～1204 が赤褐色、1201 が褐灰色である。1203 の外底面は無釉、施釉部は 1200・1201・1203 がオリーブ黒色、1199・1202・1204 が黒褐色を呈し、1201 は部分的に剥落がみられる。

搦鉢は、ほかに、近世土坑墓 4 号の埋土から 1075 が出土している。

1205 は、器種・産地とも不明であるが、鉢の底部の可能性もある。中国釉薬を施されている可能性もあり、中世にさかのぼることも考えられる。

ウ 蓋 (第 154 図 1206・1207)

1206・1207 は苗代川系薩摩焼の器種不明の蓋である。1206 は底径 27.4cm の L 字状、1207 は底径 16.0cm で肥厚する。1206 は石英を含む褐色、1207 は砂粒を含む赤褐色で、口唇部は無釉となり、施釉部は、1206 は暗オリーブ褐色、1207 は鉄釉が施されオリーブ黒色を呈する。

1206 は鉢の可能性もある。

エ 甕 (第 155 図 1208～1214)

1208～1214 は、苗代川系薩摩焼の甕である。

1208～1211 は口縁部である。1208 は、口径 51.8cm と大型の資料で頸部から強く外反し口縁端部は内外に張り出している。外部に粘土を貼り付けている。1209 は、口径 44.4cm で 1208 と同じく内外に肥厚しているが、特に内側が鋭く突出している。1210 は、口径 32.8cm で内側へ強く突き出しているが、そこから粘土を外へ折り曲げている。1211 は、口径 34.0cm の L 字状に曲がる資料で口唇部には凹線が巡る。1210 と 1211 は天井部をハケ様の道具でナデている。

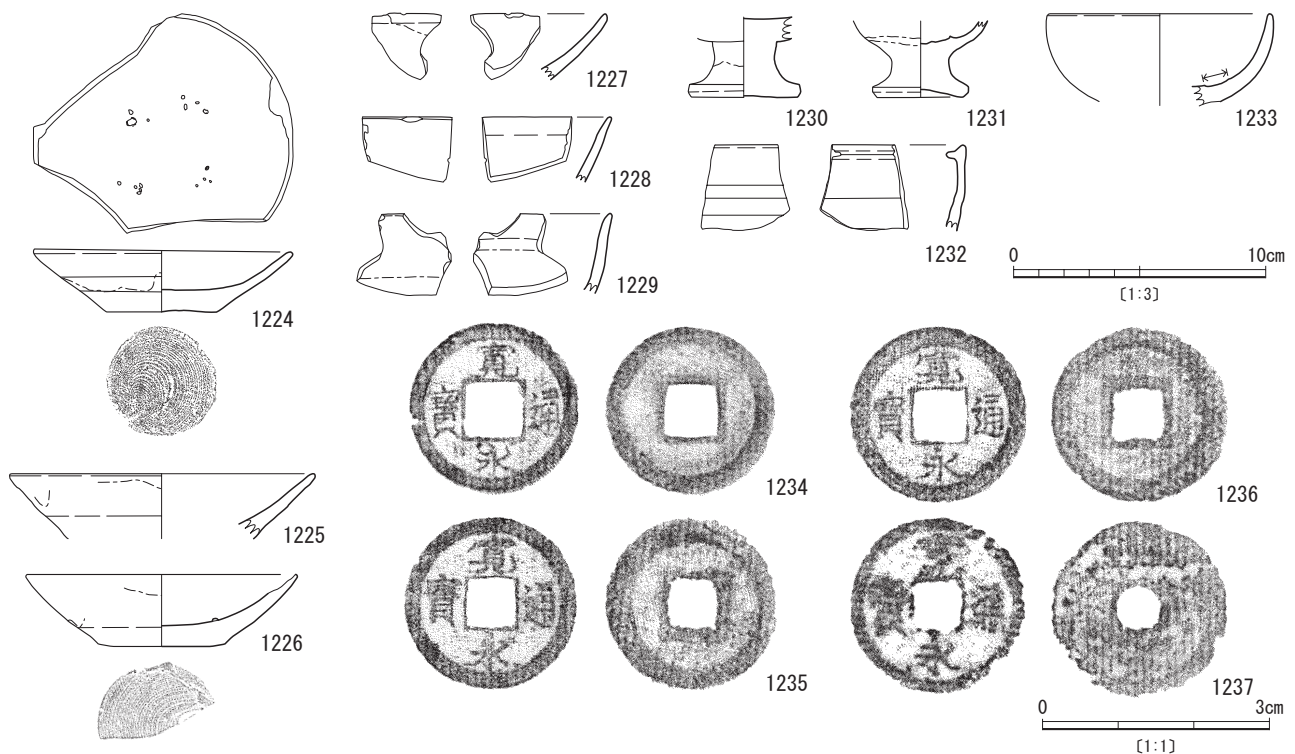
胎土には、1208 が白石、1210・1211 が石英を含む。色調は、1208・1210 が赤褐色、1209 が褐灰色、1211 がにぶい黄色で、1210・1211 の口唇は無釉である。1208 の施釉部は暗オリーブ褐色を呈する。1210 の施釉部は黒褐色を呈する。1211 の施釉部は灰オリーブ色を呈する。

1208・1209 は 18 世紀前半から中頃、1210 は 18 世紀代、1211 は 18 世紀後半から 19 世紀と考えられる。

1212～1214 は胴部片で、胎土は石英・白石を含む赤褐色、鉄釉部分がオリーブ黒色を呈し、外面に掻き落とし文を施す。1213 と 1214 は同一個体と考えられる。

オ 壺 (第 155 図 1215～1219)

1215～1219 は、苗代川系薩摩焼の壺口縁部である。1215・1216 は大型、1217～1219 は中小型である。1215・1216 は口縁端部が内外に張り出し、さらに 1215 の外面には凹線が施される。1217 は、緩やかな L 字状口縁でナデ肩状の器形を呈する。1218 は、口唇部が下がる。1219 は、くの字状口縁で胴部は外へ張る。口径は、1215 が



第 156 図 灯明皿・仏具・古銭

18.2cm, 1216 が 14.0cm, 1217 が 9.1cm, 1218 が 12.2cm, 1219 が 11.0cmである。

白石・石英などを胎土に含む。胎土の色調は、暗褐色、にぶい褐色、灰色、にぶい橙色、にぶい赤褐色である。1216・1217の口唇部と1218の内面は無釉、1218は鉄釉が施され、施釉部は、1215・1217はオリーブ黒色、1215の内面は灰白色、1216・1218は黒褐色、1219は暗褐色を呈し、1215・1216は口唇部に目痕が残る。1219の口縁部は、中世の中国製陶器壺の形状に似る。

カ 壺・甕の底部 (第155図 1220~1223)

1220~1223は、苗代川系薩摩焼の壺・甕の底部片だが、鉢の可能性もある。いずれも安定した平底である。1220は底径13.7cmで、底面に貝目痕をもつ。1221は底径20.0cmで、筒状に立ち上がる可能性がある。1222は底径11.0cm, 1223は底径12.2cmである。いずれも石英、1220は白石、1223は小礫を胎土に含む。胎土の色調は、褐灰色、暗灰黄色、にぶい赤褐色である。

施釉部分は、1220・1221はオリーブ黒色、1222は灰オリーブ色、1223はにぶい黄色を呈する。1220は外底面まで施釉された18世紀前半以前のもので、他は外底面が施釉されていないため、その後のものである。

(3) その他

他に灯明皿、仏具、古銭がある。

ア 灯明皿 (第156図 1224~1229)

1224~1229は、龍門司系薩摩焼の灯明皿である。1224~1227は、外面口縁付近から内面が施釉される。1224は、口径10.3cm, 器高2.5cm, 底径4.4cmで糸切り底、胎土は橙色、施釉部は灰オリーブ色を呈し、内底4か所に砂目がある。1226は、口径10.8cm, 器高2.8cm,

胎土は灰黄褐色、施釉部は暗オリーブ色を呈し、残存部に胡麻目痕3か所がみられ、本来は4か所あったと考えられる。糸切り底、胎土は黒褐色で施釉部はオリーブ褐色を呈する。

1228・1229の胎土は白石を含み、化粧土に褐釉を施す。胎土は、1228はにぶい褐色、1229はにぶい黄橙色である。

イ 仏具 (第156図 1230~1233)

1230~1232は龍門司系、1233は苗代川系薩摩焼である。

1230・1231は、高坏状仏飯具の下部から脚台部分で、胎土は細かい土で、脚台は露胎である。1230は底径4.4cmの浅い上げ底で、胎土は白石を含み、施釉部はオリーブ褐色を呈する。1231は底径3.8cmで、脚台はにぶい赤橙色で、外面上部は施釉されて灰白色を呈する。内面は赤褐色を呈し、胡麻目が付着している。

1232は、香炉の口縁部で、口唇から外面は鉄釉が施され黒褐色を呈している。1233は口径9.0cmの口縁部で、暗褐色に施釉され、見込みは蛇の目釉剥ぎ取りが行われている。古手の小塊の可能性もある。

胎土の色調は、1230がにぶい赤褐色、1231が赤橙色、1232・1233がにぶい黄橙色である。

ウ 古銭 (第156図 1234~1237)

古銭が4枚出土している。

1234はF-27区I層から、1235・1236はE-27区I層から出土した寛永通寶である。1237は、G-41区IIb層から出土した。一部の刻字が判読しがたく、形状も他の3点とやや異なるが、寛永通寶と思われ、古寛永の可能性もある。

第6表 中世遺構出土土器観察表

挿図番号	掲載番号	遺構番号	遺構番号(II)	層	取上番号	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整		色調		胎土					備考
											外内面	底面	外内面	内面	白石	茶石	灰石	黒石	雲母	
75	199	ST2	SK30	-	ST2-4	羽釜	完形	6.0	5.0	4.0	ヘラ ナデ	糸切 →ナデ	内:鈍い黄褐 外:明黄褐~黒						普	罅と口縁部欠損著 外面スス
76	202	ST3	SK59	①	16642	小皿	口~底	(8.8)	6.2	2.0	ナデ	糸切	灰白						普	
	203			①	16644	小皿	口~底	8.2	6.1	2.0	ナデ	糸切	浅黄橙						普	底部一部剥離 形状不整形
	204			①	16643	小皿	完形	8.8	6.6	1.5	ナデ	糸切	灰白						普	底部一部剥離 形状不整形
	205			①	16645	小皿	完形	8.9	5.8	1.5	ナデ	糸切	浅黄橙						普	内外剥離
	206			①	16646	坏	口~底	12.5	7.4	3.5	ナデ	糸切	灰白						良	内外剥離
207	①	-	坏	口~底	(13.0)	-	-	-	ナデ	-	灰白						良			
77	208	ST4	SK244	①	30046	小皿	口~底	8.5	6.6	1.5	ナデ	ヘラ切→ナデ →板状圧痕	浅黄						良	
	209			①	30045	小皿	口~底	8.8	7.5	1.2	ナデ	ヘラ切→ナデ	褐灰						良	
	210			①	30047	小皿	完形	9.0	6.8	1.5	ナデ	ヘラ切→ナデ	灰黄褐						良	
	211			①	30049	小皿	完形	8.3	7.2	1.1	ナデ	ヘラ切→ナデ →板状圧痕	淡黄~橙						良	鉄分やや多
	212			①	30048	小皿	口~底	8.8	6.8	1.5	ナデ	ヘラ切→ナデ	黄灰						良	
78	215	ST5	SK249	①	ST5-3	小皿	完形	9.4	7.7	1.5	ナデ	ヘラ切 →ハケナデ	明褐						良	
	216			①	ST5-5	小皿	完形	9.0	7.0	1.5	ナデ	ヘラ切→ナデ →板状圧痕	橙						良	見込み円状の溝
	217			①	ST5-6	小皿	完形	9.5	7.4	2.0	ナデ	ヘラ切→板状 圧痕→ナデ	橙						良	
	218			①	ST5-4	坏	口~底	(13.8)	(9.0)	2.1	ナデ	ヘラ切 →板状圧痕	橙~浅黄橙						良	
	219			①	ST5-2	坏	完形	15.1	11.5	2.2	ナデ	ヘラ切→板状 圧痕→ナデ	外:明褐 内:鈍い黄橙						良	
79	222	ST6	SK250	①	ST6-1	小皿	口~底	(10.0)	(8.0)	1.6	ナデ	ヘラ切→板状 圧痕→ナデ	暗灰黄						良	
	223			①	ST6-2,6	小皿	口~底	9.3	6.9	1.5	ナデ	雑なヘラ切	外:鈍い黄 内:黄灰						良	
	224			①	ST6-5	小皿	口~底	8.8	6.6	1.5	ナデ	糸切 →板状圧痕	鈍い黄						良	
	225			①	ST6-4	小皿	口~底	9.4	7.8	1.7	ナデ	ヘラ切 →板状圧痕	鈍い黄橙						良	
	226			①	ST6-3	坏	口~底	12.80	9.0	3.3	ナデ	ヘラ切	灰白						良	
83	236	P7	P1755	①	-	坏	底	-	8.0	-	ナデ	糸切	鈍い黄橙					良		
	237	P10	P1818	①	-	小皿	口~底	8.5	6.5	1.3	ナデ	糸切	淡赤橙					良		
	238	P11	P2276	①	-	坏	口~底	11.6	8.6	3.5	ナデ	不明	赤橙					普	外面剥離, 内外摩滅	

第7表 中世遺構出土国産陶器観察表

挿図番号	掲載番号	遺構番号	遺構番号(II)	層	取上番号	器種	部位	種別	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整		色調		胎土					備考	
												外面	内面	外面	内面	白石	茶石	灰石	黒石	黄白石		輝石
49	100	祭2	SK257	-	-	播鉢	完形	備前	31.4	14.4	12.1	横ナデ 底:ナデ	横ナデ	口:灰赤 胴:暗赤褐 底:明赤褐	極暗赤褐						良	10条単位で12組 口唇:一部自然釉
51	103	SD3	SD12	-	13740	鉢	口縁	東播系	-	-	-	横ナデ	横ナデ	口:やや光 沢のある黒 胴:灰色	灰						良	凹凸あり
54	115	SD5	SD13	-	-	鉢	底	東播系	(9.2)			ヘラナデ 底:糸切	ヘラナデ	灰	灰						良	内面使用痕
	116			①	17480	鉢	胴~ 底	東播系	(9.2)			ヘラ横ナデ 底:糸切	ヘラ横ナデ	褐灰	褐灰						良	
	118			①	37283	碗	胴~ 高台	近世 陶器	(4.4)			-	-	黒 高台:灰褐	黒							良
57	133	SD7	SD36	①	25362	鉢	口縁 ~胴	東播系	(29.6)			横ナデ	横ナデ	灰白	灰白						良	内外:施釉 高台:無釉
	134			①	25335	鉢	口縁	東播系	-	-	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	口:黒 胴:灰	灰						普	
	135			①	-	鉢	口縁	東播系	-	-	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	口:黒 胴:黄灰	黒						普	
	136			①	25332	鉢	口縁	東播系	-	-	-	横ナデ	横ナデ	口:暗青灰 胴:灰	灰						良	
	137			①	37247	鉢	底	東播系	-	9.6		ナデ	ナデ	黄灰	黄灰						良	
58	138	SD7	SD36	①	25293	廣口 壺	頸~ 胴	カムイ ヤキ	-	-	-	長格子タタ キ→横ナデ	格子当て具 →横ナデ	暗灰	灰						良	内部:暗赤褐
	139			①	28111	播鉢	口縁 ~胴	備前	(25.6)			ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	鈍い赤褐	鈍い赤 褐						良	掻き目6条
	140			①	25331	播鉢	口縁 ~胴	須志賀 系土器	(24.2)			横ハケナデ	横ハケナデ	灰白	灰白						良	口縁一部:黒褐
	141			①	27978	播鉢	口縁 ~胴	備前	-	-	-	横ナデ	横ナデ	暗赤褐	暗赤褐						良	掻き目7条 内面:浅黄色胡麻
	142			①	28021	播鉢	口縁 ~胴	備前	-	-	-	横ナデ	横ナデ	暗青灰	暗青灰						良	掻き目11条
143	①	28017	播鉢	口縁 ~胴	備前	(28.4)			横ナデ	横ナデ	口:暗赤褐 胴:黒褐	暗赤褐						良	内面:オリブ黄色胡 麻			

第7表 中世遺構出土国産陶器観察表

挿図番号	掲載番号	遺構番号	遺構番号(旧)	層	取上番号	器種	部位	種別	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整		色調		胎土					焼成	備考							
												外面	内面	外面	内面	白石	茶石	灰石	黒石	黄白石			石英	輝石					
58	144	SD7	SD36	①	25350	挿鉢	口縁~胴	備前	-	-	-	横ナデ	横ナデ	口:鈍い赤褐 胴:緑	橙	○	○	○	○	○	○	○	良						
	145			①, II	25322他	挿鉢	口縁~胴	備前	-	-	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	青褐	青灰	○	○	○	○	○	○	○	○	良	掻き目8条 使用痕				
	146			①	26888	挿鉢	口縁~胴	備前	-	-	-	横ナデ	横ナデ	灰赤	黄灰	○	○	○	○	○	○	○	○	○	良	外面:一部黄色胡麻 内面:胡麻			
	147			①	28024	挿鉢	胴~底	備前	-	-	(14.0)	横ナデ 底:ナデ	横ナデ	黄灰~灰黄	黄灰~ 灰黄	○	○	○	○	○	○	○	○	○	良	掻き目8条 使用痕			
60	159	SD8	SD35	④, II	25382他	鉢	口縁~底	東播系	(29.5)	9.0	9.9	横ナデ 底:糸切	ヘラ横ナデ	灰	灰	○	○	○	○	○	○	○	○	良	底部砂目痕				
64	164	SD12	SD31	①	22135	鉢	口縁~胴	東播系	-	-	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	口:暗灰色 胴:灰	灰	○	○	○	○	○	○	○	○	○	良				
65	170	SD14	SD17	②	19450	挿鉢	口縁~胴	備前	-	-	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	口:灰白 胴:褐灰	灰黄	○	○	○	○	○	○	○	○	○	良	掻き目4条幅広			
66	176	地1	SK251	①	33059	鉢	口縁	東播系	-	-	-	横ナデ	横ナデ	口:黒 胴:黄灰	黄灰	○	○	○	○	○	○	○	○	○	良				
69	183	地3	SK170	-	-	挿鉢	胴	備前	-	-	-	不明	不明	鈍い赤褐	鈍い赤褐	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	良	掻き目単位不明 外面施釉,胎土:灰		
71	187	火1	SK234	③	-	鉢	口縁~底	東播系	(29.3)	(15.0)	11.0	口縁:ナデ 縦ハケナデ	横:斜位 ハケナデ	灰白	灰白	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	普	内面~口縁付近:灰	
78	220	ST5	SK249	①	26617	鉢	胴~底	東播系	-	-	-	横ナデ	横ナデ	黄灰	黄灰	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	良	

第8表 中世遺構出土舶来産陶磁器観察表

挿図番号	掲載番号	遺構番号	遺構番号(旧)	層	取上番号	器種	部位	種別	法量(cm)	文様	胎土色調	釉薬色調	施釉範囲	焼成	産地	永吉分類	分類	備考
34	64	SI	SI21	下層	-	皿	口縁~胴	白磁	口径:10.0	-	灰白	灰白	胴下半無釉	良	-	白皿4類	森田D類	
	65			7594	碗	口縁	青磁	口径:18.0	-	灰白	淡緑	良	龍泉窯系	青碗6類	上田D-1類			
	66			-	碗	高台	青磁	底径:(5.4)	-	灰白	淡緑	高台内釉剥	良	龍泉窯系	青碗6類	上田D類		
36	74	SK3	SK192	①	25404	皿	口縁	白磁	-	-	灰白	灰白	胴下半無釉	良	-	白碗4類	Ⅲ類	
	75			25396	碗	口縁	青磁	-	外:雷文	灰白	明オリーフ灰	良	龍泉窯系	青碗5類	上田C-2類			
38	78	SK6	SK202	①	28154	坏	口縁~胴	白磁	-	-	灰白	灰白	胴下半無釉	良	-	白碗5類	森田D類	多角坏 内面貫入
40	81	SK12	SK302	①	-	碗	胴~高台	青磁	底径:6.0	見込:草花文	灰	オリーフ灰	外底,高台畳付一部無釉	良	龍泉窯系	青碗2類	1-2~4類	外底部砂目痕
43	82	SK25	SK178	-	22803	碗	胴	青磁	-	外:鎚蓮弁文	灰白	明緑灰	良	龍泉窯系	青碗3類	Ⅱ-b類		
47	86	祭1	SK149	①	23170	碗	口縁~胴	白磁	口径:(11.1)	-	灰白	灰白	胴下半無釉	良	-	白碗4類	Ⅲ類	
51	101	SD3	SD12	-	13737	碗	口縁	白磁	-	-	灰	灰白	良	-	白碗1類	I-4類		
	102			-	13735	碗	口縁	青磁	-	外:鎚蓮弁文	灰	灰オリーフ	良	龍泉窯系	青碗3類	Ⅱ-b類		
54	110	SD5	SD13	①, II b	37284他	碗	胴~高台	白磁	口径:(6.1)	-	灰白	灰白	胴下~高台無釉	良	-	白碗2類	V類	
	111			37289	碗	胴~高台	白磁	底径:(5.6)	見込:1条の界線	灰白	明緑灰	底~高台無釉	良	-	白碗4類	Ⅸ類		
	112			37282他	碗	胴~高台	青磁	底径:6.4	-	灰白	灰オリーフ	高台内無釉	良	龍泉窯系	青碗6類	上田D-2類	貫入	
	113			17475	碗	胴~高台	青磁	底径:5.8	-	灰	灰オリーフ	外底一部無釉	良	龍泉窯系	青碗6類	上田D-1類	焼台粘土付着	
	114			37289	碗	胴	青磁	-	内:花文	灰	オリーフ灰	良	龍泉窯系	青碗2類	I-4類			
55	119	SD6	SD37	Ⅲ b	30225	碗	口縁~胴	白磁	口径:(14.4)	-	灰白	灰白	良	-	白碗3類	Ⅶa類		
	120			37925他	碗	口縁~胴	白磁	口径:(18.0)	-	灰白	灰白	良	-	白碗2類	V-4類かⅦ類			
57	124	SD7	SD36	①	-	皿	底~高台	白磁	底径:3.9	-	淡黄	灰白	底~高台無釉	良	-	白皿5類	森田D類	貫入
	125			28055	皿	胴~高台	白磁	底径:3.6	-	白	明緑灰	底~高台無釉	良	-	白皿5類	森田D類	貫入	
	126			23086他	碗	胴~高台	青磁	底径:6.6	内:8区画・草花文,陽刻	黄灰	オリーフ灰	見込円形畳付~高台内釉剥	良	龍泉窯系	青碗6類	上田D-2類		
	127			25351	碗	胴~高台	青磁	底径:6.1	外:雷文帯 内:二重界線,草花文押印	黄灰~浅黄	灰オリーフ	高台内無釉	良	龍泉窯系	青碗3類	上田C-2類		
	128			28022	碗	底~高台	青磁	底径:6.0	見込:草花文印刷	灰	灰オリーフ	高台内~内無釉	良	龍泉窯系	青碗6類	Ⅳ-i類		
	129			26889	碗	胴~高台	青磁	底径:5.8	外:二重界線 見込:界線,草花文	灰	オリーフ灰	畳付~高台内無釉	良	龍泉窯系	青碗6類	上田D-2類	貫入 高台内砂目跡	
130	26910	碗	底~高台	青磁	底径:(7.2)	見込:不明文	灰白	緑灰	高台内無釉	良	龍泉窯系	青碗6類	Ⅳ-i類					

第8表 中世遺構出土舶来産陶磁器観察表

挿図 番号	掲載 番号	遺構 番号	遺構 番号 (旧)	層	取上 番号	器種	部位	種別	法量 (cm)	文様	胎土 色調	釉薬 色調	施釉範囲	焼成	産地	水吉 分類	分類	備考
57	131	SD7	SD36	①	27975	碗	胴～ 高台	青磁	底径:5.2	見込:界線	灰	灰オリーブ	胴付～高台内 釉剥	良	龍泉 窯系	青碗 6類	上田 D-2類	
	132			①	29425	盤	底～ 高台	青磁	-	内:連弁文	灰白	オリーブ灰	高台内釉剥	良	龍泉 窯系	-	-	貫入
60	155	SD8	SD35	⑤	25212	碗	口縁	白磁	口径:(16.0)	-	灰白	灰オリーブ		良	-	白碗 1類	IV類	
	156			⑤	25215	碗	口縁	白磁	-	-	鈍い橙	灰黄		良	-	白碗 1類	IV類	貫入
	157			④, II	26060 他	碗	底～ 高台	白磁	底径:(7.0)	見込:沈線	灰白	灰白	外面無釉	良	-	白碗 1類	IV類	
	158			⑤, II	25216	皿	口縁 ～ 高台	青磁	口径:(12.0) 底径:(5.4) 器高:3.3	内:三重沈線,片彫文 見込:片彫文	灰黄	オリーブ灰	高台内無釉	良	龍泉 窯系	青皿 1類	-	稜花皿 高台内砂粒付 着
65	166	SD13	SD23	①	19439	碗	口縁 ～ 胴	青磁	-	鍋連弁文	灰	灰オリーブ		良	龍泉 窯系	青碗 3類	II-b 類	
	168	SD14	SD17	①	19449	碗	口縁 ～ 胴	青磁	口径:(15.8)	-	灰	オリーブ灰		良	龍泉 窯系	青碗 6類	上田 D-2類	貫入
	169			①	18695	皿	胴～ 高台	白磁	底径:(6.0)	-	灰	灰	見込:幅広輪状 釉剥,胴下半～ 高台無釉	良	-	白皿 5類	森田 D類	
	172	SD15	SD18	覆土	-	碗	胴～ 高台	白磁	底径:(7.0)	見込:沈線	灰白	灰オリーブ	外面無釉	良	-	白碗 1類	IV類	
	173			②	19457	碗	口縁 ～ 胴	青磁	-	-	灰	オリーブ灰		良	龍泉 窯系	青碗 6類	上田 D-2類	
	174			①, II, IIa	18705 他	碗	口縁 ～ 高台	青磁	口径:(14.8) 口径:(6.0) 器高:6.6	見込:界線,蓮花文	灰黄 ～ 灰白	灰オリーブ	高台内無釉	良	龍泉 窯系	青碗 6類	上田 D-2類	
73	191	火2	SK185	②	29495	皿	ほぼ 完形	青磁	口径:11.1 底径:5.2 器高:3.2	口縁:二重界線	黄灰 高台内: 鈍い褐	暗オリーブ	外底・高台内 一部無釉	良	龍泉 窯系	青皿 1類	-	稜花皿
	192			①	29035	碗	口縁	青磁	口径:(10.0)	-	灰黄	オリーブ灰		良	龍泉 窯系	青碗 5類	上田 C類	
75	197	ST2	SK30	-	ST2-1	碗	完形	白磁	口径:17.1 底径:6.3 器高:6.5	-	灰白	灰オリーブ	胴下～高台内 無釉	良	-	白碗 2類	V-4 類	
	198			-	ST2-2	碗	ほぼ 完形	白磁	口径:16.5 底径:6.6 器高:6.3	-	浅黄橙	灰黄	見込:円状搔 取,胴部下～ 見込無釉	良	-	白碗 2類	V-4 類か VIII類	
	200			-	ST2-3	碗	胴	青磁	-	内外:櫛歯文	鈍い黄橙	黄褐	外面釉切	良	同安 窯系	青碗 1類	I-1b 類	内面貫入 福建産
82	230	P1	P206	①	-	甕	胴	陶器	-	内調整:同心円当て具 外調整:格子タタキ →ヘラ横ナデ	外面: 黒褐	内面:褐灰	外面無釉	良	-	-	-	中国製
	232	P3	P1015	①	-	碗	胴～ 高台	青磁	底径:5.6	外:界線1条 内底:草花文,界線	灰白	オリーブ灰	高台内無釉	良	龍泉 窯系	青碗 6類	上田 D-E類	貫入
83	234	P5	P2731	①	-	碗	口縁 ～ 胴	白磁	口径:11.8	-	灰白	灰白	口唇部搔取	良	-	白碗 4類	IX類	

※分類 森田分類は 森田勉「14～16世紀の白磁と分類と編年」『貿易陶磁研究NO.2』1982
 上田分類は 上田秀夫「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究NO.2』1982
 その他の分類は 大宰府教育委員会『大宰府条坊跡XV-陶磁器分類編-』2000
 をそれぞれ参考にした。(変更あり)

第9表 中世遺構出土石器・石製品観察表

挿図 番号	掲載 番号	遺構 番号	遺構 番号 (旧)	層	取上番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考	
28	61	SB6 (P2)	SB47 (P2)	I	-	石製品	4.0	3.4	1.2	17.4	滑石	バレン状	
34	68	S1	ST21	床直	7624	石製品	18.0	12.4	11.0	690.1	軽石		
	①				7136	磨石類	7.8	11.1	4.0	568.2	安山岩		
35	70	SK1	SK23	①	7336	石製品	(32.4)	15.5	13.3	2,012	軽石		
36	76	SK3	SK192	①	25403	石製品	13.6	8.9	9.3	591.4	軽石		
38	79	SK6	SK202	①	28151	石製品	12.2	12.1	8.9	415.3	軽石		
	104				①	13719	砥石	(8.5)	(8.9)	(6.9)	709.8	砂岩	
	105				①	13749	砥石	(11.4)	(13.1)	(8.1)	1,040	凝灰岩	
	106				①	13765	石製品	20.0	14.0	5.8	502.7	軽石	
54	117	SD5	SD13	①	37288	石製品	4.7	4.4	2.5	61.7	滑石		
	148				①	36576	砥石	(4.6)	3.0	1.6	35.8	砂岩	
59	149	SD7	SD36	①	37239	砥石	(6.3)	(3.1)	1.2	30.7	砂岩		
	150				①	27985	砥石	(13.5)	(8.8)	(3.2)	377.2	砂岩	
	151				①	29420	砥石	(8.3)	(14.0)	(8.6)	1,298	砂岩	
	152				①	29428	砥石	10.3	5.4	2.5	153.3	流紋岩	
	160				②	25192	砥石	6.5	4.5	1.4	55.7	真岩	
61	161	SD8	SD35	②	25194	砥石	(12.0)	(8.0)	(7.6)	1,011	砂岩		
	162				③・⑤	25198・ 25199・25203	茶臼	-	-	9.4	5,200	凝灰岩	推定直径34.0cm
	163				④	25200・25201	茶臼	-	-	12.2	2,600	凝灰岩	推定径20.7cm
	68				182	地2	SK148・ 186	-	-	石製品	14.0	15.7	11.0
69	185	地3	SK170	-	-	五輪塔(空輪)	12.5	14.7	13.3	2,300	凝灰岩		
71	188	火1	SK234	③	火1-No.55	石皿・台石	19.3	17.5	11.2	3,110	凝灰岩		
	189				③	火1-No.33	磨石	11.1	10.6	7.7	940.0	砂岩	
73	190	火2	SK30	②	28160	石皿・台石	29.0	25.6	8.7	8,700	砂岩		
78	221	ST5	SK249	-	ST5-No.7	玉状製品	1.2	1.3	0.9	2.0	水晶		
	227				IIa	18	石鍋	19.1	12.3	7.9	1,423	滑石	
81	228	SG 7	SG 7	-	IIb	五輪塔(火輪)	42.3	18.0	16.3	6,900	凝灰岩		
	229				-	五輪塔(地輪)	41	39	12.2		凝灰岩		
	82				233	P4	P2378	-	-	石製品	(9.4)	(7.0)	(10.5)
83	235	P6	P2805	-	37533	石製品	4.8	3.3	1.0	18.6	滑石	バレン状	
	239	P8 P9	P1903 P1919	-	-	石製品	29.1	23.0	12.3	12,300	花崗岩		

第10表 中世遺構出土金属製品観察表

挿図 番号	掲載 番号	遺構 番号	遺構 番号 (旧)	層	取上番号	器種	部位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
34	67	S1	ST21			刀子		左7.4 右7.3	1.6	0.3		2本癒着
37	77	SK5	SK196	①	-	刀子		22.5	2.6	0.7	105.3	
69	186	地3	SK170	①	22961	鉛玉					5.5	鉛99%, 鋼カブラ付
76	201	ST2	SK30	①		無名湖洲鏡	-	直径12.0				表に布痕・ベンガラ付着
77	213	ST4	SK244	①		鉄滓	-	6.0	6.0	3.5	12.4	
	214				①		鉄滓	-	8.0	4.5	4.5	23.7

第11表 中世遺構出土渡来銭観察表

挿図 番号	掲載 番号	遺構 番号	遺構 番号 (旧)	層	取上 番号	器種	分類	銭径 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	時期	背面	初鑄年	書体	備考	
48	87	祭2	SK257	①	-	渡来銭	開元通寶	24.6	1.4	2.5	唐	上月	621年	真書		
	88				①	-	渡来銭	治平元寶	24.6	1.4	2.3	北宋	-	1064年	真書	
	89				①	-	渡来銭	治平元寶	24.8	1.4	3.4	北宋	-	1064年	篆書	
49	90	祭2	SK257	①	-	渡来銭	開元通寶	23.8	1.4	2.2	唐	上月	621年	真書		
	91				①	-	渡来銭	咸平元寶	24.9	1.3	3.4	北宋	-	998年	真書	
	92				①	-	渡来銭	天聖元寶	24.6	1.4	2.9	北宋	-	1023年	篆書	
	93				①	-	渡来銭	皇宋通寶	24.9	1.2	3.1	北宋	-	1039年	篆書	
	94				①	-	渡来銭	開元通寶	24.0	1.5	3.6	唐	不明	621年	真書	
	95				①	-	渡来銭	不明	24.3	1.5	3.5	-	-	-	不明	
	96				①	-	渡来銭	軋徳元寶	23.2	1.3	1.6	前蜀	-	919年	真書	劣化
	97				①	-	渡来銭	天聖元寶	25.3	1.4	3.5	北宋	-	1023年	真書	
	98				①	-	渡来銭	洪武通寶	24.0	1.8	3.8	明	-	1368年	真書	
	99				①	-	渡来銭	咸元通寶	26.0	1.0	1.8					真書
82	231	P2	P2931	①	-	渡来銭	政和通寶				北宋	-	1111年	篆書		

第12表 中世の土師器観察表

挿入番号	掲載番号	出土区	層	取上番号	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整		色調	胎土					焼成	備考		
										外・内面	底面		白石	赤石	灰石	黒石	雲母			石英	
84	240	H29	II	24608 他	坏	口縁～底	(17.4)	(11.8)	2.6	ナデ	ヘラ切→ナデ	暗灰黄～黒褐	○	○		○	○	良			
	241	H31	II	28454 他	坏	口縁～底	(17.0)	(9.5)	3.0	ナデ	ヘラ切→ナデ	淡黄		○		○	○	良	緻密な土		
	242	G32	II, II b	36919 他	坏	口縁～底	(15.6)	8.8	3.2	ナデ	ヘラ切→板状 圧痕→ナデ	灰白		○		○	○	良	緻密な土		
	243	F30	II	-	坏	口縁～底	(15.8)	9.0	3.1	ナデ	ヘラ切→ナデ	橙		○		○	○	良	緻密な土		
	244	F31	II b	37128 他	坏	口縁～底	(15.8)	(8.6)	3.3	ナデ	ヘラ切→ナデ	内:浅黄橙 外:橙～浅黄橙				○	○	良	緻密な土		
	245	G・H30	II	24889 他	坏	口縁～底	(14.0)	(6.6)	3.2	ナデ	板状圧痕	内:褐灰 外:にぶい褐		○	○		○	○	良	締り良	
	246	D32	II b	16133 他	坏	口縁～底	(13.0)	(7.7)	2.9	ナデ	ヘラ切→ナデ	にぶい黄橙		○		○	○	良	口唇部面取り		
	247	J35	III a	-	坏	胴～底	-	(10.8)	-	ナデ	ヘラ切→ナデ	灰白			○		○	○	良	緻密な土	
	248	G31	II	27565	坏	胴～底	-	11.2	-	ナデ	雑なヘラ切 →ナデ	内:にぶい黄橙 外:橙		○		○	○	○	普	小礫含む,内外ス ス,締り弱	
	249	E・F 31・32	III	-	坏	胴～底	-	(12.0)	-	ナデ	ヘラ切→ナデ	内:褐灰 外:灰黄		○			○	○	良	内面黒色	
	250	F31	II b	38418	坏	胴～底	-	(9.0)	-	ナデ	ヘラ切→ナデ	内:浅黄橙 外:橙		○	○		○	○	良		
	251	J28・30	I, II	25478	坏	底	-	(10.3)	-	ナデ	ヘラ切→ナデ	内:橙 外:浅黄橙			○	○	○	○	普	小礫含む,締り弱	
	252	H30	II	24855	坏	口縁～底	(10.6)	(7.8)	2.6	ナデ	ヘラ切→ナデ	内:灰白 外:橙		○	○		○	○	良	外面一部橙色,緻密 な土,締り良	
	253	G29	II	23283 他	坏	口縁～底	(13.8)	(10.0)	3.2	ナデ	糸切	内:にぶい黄橙 外:黒褐～灰黄褐		○		○	○	○	良		
	254	H29	II	23377 他	坏	口縁～底	(14.0)	11.0	3.1	ナデ	糸切	にぶい黄		○	○		○	○	良	緻密な土,締り良	
	255	E31	II	-	坏	口縁～底	(13.0)	(8.4)	3.2	ナデ	糸切	にぶい橙		○	○			○	良	締り良	
	256	K29	II	23798	坏	口縁～底	(13.0)	(8.6)	3.3	ナデ	糸切	にぶい橙		○		○			良	焼成ムラ,締り良	
	257	K37	I	-	坏	口縁～底	(11.4)	(8.3)	3.4	ナデ	糸切	にぶい黄橙		○		○		○	良	締り良	
	258	I23	II b	22428	坏	口縁～底	(11.3)	7.3	3.4	内:ハケ ナデ	糸切→ナデ	灰黄		○			○	○	普		
	259	I・J30	II, II a, III	24208 他	坏	口縁～底	(10.8)	6.2	3.1	ナデ	糸切	内:にぶい橙 外:灰褐～黒褐		○		○	○	○	良	見込渦巻き状のナ デ	
	85	260	H36	III a	29060	坏	口縁～底	(12.0)	8.8	3.5	ナデ	糸切	褐			○	○	○	○	普	小礫含む,締りやや 弱
261		H36	III a	29059	坏	口縁～底	(11.7)	7.9	3.5	ナデか	糸切	淡黄		○	○		○	○	普	内外磨滅,小礫含む	
262		I29・30	II, II b	26625 他	坏	口縁～底	(12.0)	8.8	3.7	ナデ	糸切	にぶい黄橙		○		○	○	○	良	見込スス	
263		I29	II b	-	坏	口縁～底	(13.4)	(9.6)	3.1	ナデ	糸切か→ナデ	にぶい黄橙		○		○	○	○	良	一部比熱,小礫含む	
264		I28	I	-	坏	口縁～底	(11.2)	(6.6)	3.2	ナデ	糸切か	浅黄橙		○	○		○	○	普	内外磨滅	
265		F22	III a	22134	坏	口縁～底	(11.0)	(7.4)	3.0	ナデ	糸切か	にぶい橙		○	○		○	○	良		
266		J28	I	-	坏	口縁～底	(11.2)	(7.7)	3.2	ナデ	糸切	にぶい橙		○	○		○	○	良		
267		J38	III a	22979	坏	口縁～底	(11.2)	(7.6)	3.3	ナデ	糸切か	内:浅黄橙 外:にぶい黄橙		○	○			○	普	内外磨滅	
268		K28	I	-	坏	口縁～底	(11.6)	(7.3)	3.2	ナデ	糸切	橙		○	○		○	○	良		
269		K25	IV	22928	坏	口縁～底	(11.2)	(7.6)	3.1	ナデ	糸切か→ナデ	浅黄橙～にぶい橙		○	○		○	○	普	内外磨滅,小礫含む	
270		K37	I	-	坏	口縁～底	(10.6)	(7.5)	3.2	ナデ	糸切か→ナデ	橙		○	○		○	○	普	内外磨滅,薄クスス	
271		J28	I	-	坏	口縁～底	(11.4)	(8.8)	3.1	ナデ	糸切	にぶい黄橙		○		○	○	○	普		
272		I40.41	II	14585	坏	口縁～底	(11.0)	(6.8)	3.9	ナデ	糸切か→ナデ	浅黄橙		○	○		○	○	普	内外磨滅	
273		E25	II	-	坏	口縁～底	(10.8)	(8.0)	2.1	ナデ	糸切	内:浅黄橙 外:灰白		○	○		○	○	良		
274		E31	III a	16302	坏	胴～底	-	(9.6)	-	ナデ	糸切	内:にぶい黄橙 外:灰黄褐		○	○			○	○	良	
275		H29	II	26398	坏	胴～底	-	(10.0)	-	ナデ	糸切→ナデ	浅黄橙				○	○	○	普	内面剥離	
276		L37	II b	26761	坏	胴～底	-	(9.6)	-	ナデ	糸切	にぶい褐		○		○			普	焼成ムラ	
277		G31・32	I, II b	-	坏	口縁	(16.5)	-	-	ナデ	-	にぶい橙		○	○		○	○	良		
278	F31	II b	39633	坏	口縁	(15.6)	-	-	ナデ	-	内:浅黄 外:黒褐			○		○	○	良			
279	F31	II b	36867	坏	口縁	(14.0)	-	-	ナデ	-	浅黄橙			○		○	○	良			
280	H31	II	28525	坏	口縁～胴	(14.0)	-	-	ナデ	-	灰白			○		○	○	良			
86	281	H31	II	28513 他	坏	口縁	(15.0)	-	-	ナデ	-	にぶい黄橙		○		○	○	良			
	282	F32	II b	36611	坏	口縁～胴	(13.6)	-	-	ナデ	-	内:褐灰～にぶい黄 橙 外:褐灰		○	○			○	○	良	
	283	G31	II	27630	坏	口縁	(13.6)	-	-	ナデ	-	浅黄橙			○		○	○	良		
	284	F30	II	-	坏	口縁	(15.2)	-	-	ナデ	-	にぶい橙		○		○	○	○	良		
	285	G25	II	-	坏	口縁～胴	(12.4)	-	-	ナデ	-	にぶい橙		○		○	○	○	良		
	286	G31	II	27578	坏	口縁～胴	(13.4)	-	-	ナデ	-	浅黄橙		○		○	○	○	良		
	287	I29	II a	-	坏	口縁～胴	11.4	-	-	ナデ	-	にぶい橙		○		○	○	○	良	締りやや弱	
	288	F41	II b	11207	坏	口縁～胴	(13.5)	-	-	ナデ	-	淡黄				○	○	○	普	締りやや弱	
	289	G30・31	II	23933 他	坏	底～胴	-	(8.8)	-	ナデ	不明	にぶい橙		○	○		○	○	良		
	290	G43	II a	9024	坏	口縁～底	-	(8.0)	1.7	ナデ	板状圧痕 →ナデ	浅黄橙		○			○	○	良	内面スス	
291	L29	II	33891	坏	胴～底	-	(8.0)	2.5	ナデ	不明	浅黄橙			○		○		良	内外磨滅・スス, 緻密な土		
292	J28・29・ 30	II	24305 他	坏	胴～底	-	5.8	-	内:不明 外:ナデ	不明	にぶい黄橙		○		○	○	○	良			

第14表 東播系須恵器・カムイヤキ・備前焼・常滑焼・灰釉陶器観察表

挿図 番号	掲載 番号	出土区	層	取上 番号	器種	部位	種別	法量 (cm)	調整		色調		胎土						備考			
									外面	内面	外面	内面	白石	茶石	雲母	黄白石	石英	灰石		黒石	燧石	焼成
93	402	J29, K36	II, III	23641 他	鉢	口縁～ 胴	東播系	口径:(20.2)	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	灰 口縁:暗青灰	灰	○								良好	口縁釉で光沢あり
	403	J30	II	23661	鉢	口縁～ 胴	東播系	口径:(19.4)	横ナデ	丁寧な横ナデ	灰 口縁:暗灰	灰	○								普通	口唇釉で光沢あり, 軟質
	404	D32, G30	II	23979 他	鉢	口縁～ 胴	東播系	口径:(35.0)	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	灰 口縁:暗青灰	灰	○								良好	作りが薄い
	405	H30	II	26583	鉢	口縁～ 胴	東播系	-	横ナデ	横ナデ	黄灰 口縁:褐灰	黄灰	○								良好	作りが薄い
	406	G31	II	27484	鉢	口縁～ 胴	東播系	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	黄灰	黄灰	○								良好	
	407	J35	IIIa	36366	鉢	口縁～ 胴	東播系	口径:(26.6)	横ナデ	横ナデ	褐灰 口縁:黄灰	褐灰	○								良好	口縁釉で光沢あり
	408	D32・33, E32, H31	I, II, IIa・b, IIIa	11449 他	鉢	完形	東播系	口径:(26.2) 底径:(10.4) 器高:9.2	ハケ横ナデ	ハケ横ナデ	灰 口縁:暗灰	灰	○								良好	見込み使用痕
	409	E31	II	-	鉢	口縁～ 胴	東播系	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	灰 口縁:暗灰	灰	○								良好	
	410	I30	I	-	鉢	口縁～ 胴	東播系	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	灰 口縁:暗灰	灰	○								普通	内外面一部剥離, 小礫含む
	411	I31	II	28269	鉢	口縁～ 胴	東播系	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	灰	灰	○	○							良好	小礫含む
412	G30	II	23971	鉢	口縁～ 胴	東播系	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	灰 口縁:暗灰	灰	○	○							良好	口縁釉で光沢あり	
94	413	D32・33	II, IIa・b	15943 他	鉢	口縁～ 胴	東播系	口径:(28.8)	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	灰 口縁:暗灰	灰	○								良好	
	414	E27, F31	I, II	18830 他	鉢	口縁～ 胴	東播系	口径:(31.0)	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	褐灰 口縁:灰	褐灰	○								良好	小礫含む
	415	F32	I	-	鉢	口縁～ 胴	東播系	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	灰 口縁:暗灰	灰	○								良好	口縁釉で光沢あり
	416	E29・30	IIb, 攪乱	36452 他	鉢	口縁～ 胴	東播系	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	灰 口縁:暗灰	灰	○								良好	口縁釉で光沢あり
	417	D20	I	-	鉢	口縁～ 胴	東播系	-	横ナデ	横ナデ	灰 口縁:暗オリーブ灰	灰	○								良好	
	418	H30	II	24021	鉢	口縁～ 胴	東播系	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	灰 口縁:暗灰	灰	○								良好	口縁釉で光沢あり
	419	I30	II	24746 他	鉢	口縁	東播系	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	灰	灰	○	○							良好	
	420	E21	II	19571	鉢	口縁	東播系	-	横ナデ	横ナデ	青灰 口縁:青黒	青灰	○	○							良好	注口・口縁釉で光沢あり
	421	D30, E32	III, IIIa	16000 他	鉢	口縁～ 胴	東播系	口径:(24.0)	ヘラ横ナデ	ハケナデ	灰 口縁:暗灰	灰	○								良好	
	422	H22	IIa	18631	鉢	口縁～ 胴	東播系	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	灰 口縁:暗灰	灰	○								良好	注口・口縁は釉で光沢あり, 小礫含む
423	F30	II, IIa・b	37368 他	鉢	口縁～ 胴	東播系	口径:(37.6)	ハケ, ヘラナデ	ハケ, ヘラナデ	灰 口縁:暗灰	灰	○								良好	小礫含む	
95	424	F26	I, II, IIIa	18151 他	鉢	口縁～ 底	東播系	口径:(26.2) 底径:(11.6) 器高:8.2	ヘラ横ナデ 底:糸切 →ナデ	ヘラ横ナデ	灰 口縁:暗灰	灰	○	○							良好	小礫含む
	425	E・F31 G・H30	II, IIb	24811 他	鉢	口縁～ 胴	東播系	口径:(35.4)	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	青灰 口縁:暗青灰	青灰	○								良好	内外凹凸顕著, 内面下半部使用痕
	426	G・H31, I29, J30	I, II	24339 他	鉢	口縁～ 胴	東播系	口径:(33.8)	横ナデ	横ナデ	灰	灰	○								良好	小礫含む
	427	E・H31	II	-	鉢	口縁～ 胴	東播系	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	灰 口縁:暗灰	灰	○								良好	口縁釉で光沢あり
	428	D53	IIa	-	鉢	口縁～ 胴	東播系	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	灰 口縁:暗灰	灰	○	○							良好	
	429	G43	IIa	8999	鉢	口縁～ 胴	東播系	-	横ナデ	横ナデ	灰 口縁:暗灰	灰	○								良好	
	430	G43	IIa	9064 他	鉢	口縁～ 胴	東播系	-	横ナデ	横ナデ	青灰 口縁:暗灰	青灰	○	○							良好	
	431	G43	IIa	9093	鉢	口縁	東播系	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	灰	灰	○	○							良好	
96	432	E・F27	I, II, IIb	18111 他	鉢	完形	東播系	口径:25.0 底径:(9.6) 器高:8.6	胴:ヘラナデ 底:丁寧なナデ	ヘラナデ	浅黄橙	浅黄橙	○								普通	上半部4枚程度の積み上げ痕, 赤茶石含む
	433	H・I29	II	23348 他	鉢	口縁～ 胴	東播系	-	横ナデ	横ナデ	灰	灰	○								良好	口縁釉で光沢あり, 小礫含む
	434	E21	II	19552	鉢	口縁～ 胴	東播系	-	横ナデ	横ナデ	灰黄 口縁:黄灰	灰黄	○								普通	
	435	H30	II	24823	鉢	口縁	東播系	-	横ナデ	横ナデ	灰	灰	○								良好	
	436	G22, I25	IIa, IIIa	18622 他	鉢	口縁～ 胴	東播系	-	横ナデ	横ナデ	灰 口縁:オリーブ黒	灰	○								良好	口唇部欠, 口縁釉で光沢あり, 作りが薄い
	437	K28・L29	II	23824 他	鉢	口縁～ 胴	東播系	口径:(22.6)	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	灰 口縁:暗灰	灰	○								良好	
	438	F26	I	-	鉢	口縁～ 胴	東播系	-	横ナデ	横ナデ	青灰 口縁:暗青灰	青灰	○								普通	
	439	J38	IIb	22838	鉢	口縁～ 胴	東播系	-	横ナデ	横ナデ	灰 口縁:暗灰	灰	○								良好	口縁釉で光沢あり, 作りが薄い
	440	I30	II	24720	鉢	口縁～ 胴	東播系	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	褐灰 口縁:黒褐	褐灰	○								良好	

第14表 東播系須恵器・カムイヤキ・備前焼・常滑焼・灰釉陶器観察表

挿入 番号	掲載 番号	出土区	層	取上 番号	器種	部位	種別	法量 (cm)	調整		色調		胎土							備考			
									外面	内面	外面	内面	白 石	茶 石	雲 母	黄 白 石	石 英	灰 石	黒 石		燧 石	焼成	
96	441	H31, J29	II	23616 他	鉢	口縁 ~ 胴	東播系	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	灰 口縁:暗灰	灰	○								良好	口唇部磨耗	
	442	E28	IIIa	36431	鉢	口縁 ~ 胴	東播系	-	横ナデ	横ナデ	灰 口縁:黒褐	灰	○								良好	口縁袖で光沢あり	
	443	J-K29	II	23607 他	鉢	口縁	東播系	口径:25.0	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	灰 口縁:青灰	灰	○	○							良好		
	444	F-G30	II	23924 他	鉢	口縁 ~ 胴	東播系	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	灰白 口縁:一部黒 褐	灰白	○								不良	内面にコゲ、や や磨減、軟質	
	445	F31	IIb	36871	鉢	口縁 ~ 胴	東播系	-	横ナデ	横ナデ	褐灰 口縁:青灰	褐灰	○								良好		
	446	I29	II, IIb	23908 他	鉢	口縁 ~ 胴	東播系	口径:(35.8)	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	灰 口縁:暗灰	灰	○	○							良好	小礫含む	
	447	H31	II	28492	鉢	口縁 ~ 胴	東播系	-	横ナデ	横ナデ	灰白 口縁:暗青灰	灰白	○								普通	やや軟質	
	448	H31	II	28438	鉢	口縁 ~ 胴	東播系	-	横ナデ	横ナデ	灰白 口縁:灰	灰白	○	○							普通		
	449	I29	II	24654 他	鉢	口縁	東播系	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	灰 口縁:青黒	灰	○	○							良好	口縁袖で光沢あり、 小礫含む	
	450	H29-30	II	23336 他	鉢	口縁 ~ 胴	東播系	-	横ナデ	横ナデ	灰白 口縁:暗灰	灰白	○								普通	口縁袖でやや光 沢あり、 やや軟質	
	451	K29	II	25936	鉢	口縁	東播系	-	横ナデ	横ナデ	青黒	暗青灰	○								普通	内面剥離、瓦質	
	452	G43	IIa	9035	鉢	口縁 ~ 胴	東播系	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	灰白 口縁:黒褐	灰白	○	○							普通		
	453	D-E31	II, IIa	16034 他	鉢	口縁 ~ 胴	東播系	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	灰 口縁:暗灰	灰	○	○							普通		
	454	D-I32	II, IIIa	28273 他	鉢	口縁 ~ 胴	東播系	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	灰 口縁:暗青灰	灰	○								良好		
	455	J29-30	I, II	23667 他	鉢	口縁 ~ 胴	東播系	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	灰白 口縁:黄灰	灰白	○								普通		
	456	J28	II	24298	鉢	口縁 ~ 胴	東播系	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	灰白 口縁:灰	灰白	○								普通		
	457	I26	I	18069	鉢	口縁 ~ 胴	東播系	-	横ナデ	横ナデ	黄灰 口縁:青黒	黄灰	○								良好	小礫含む	
97	458	F30, I31	II, IIb	28270 他	鉢	胴~底	東播系	底径:10.0	横ナデ	横ナデ	灰白	灰白	○							良好	底面剥脱著しい		
	459	J33	I	-	鉢	胴~底	東播系	底径:(9.3)	ヘラ横ナデ 底:糸切 →ヘラナデ	ヘラ横ナデ	灰	灰	○	○							良好		
	460	I29-31	II	26380 他	鉢	胴~底	東播系	底径:(12.6)	ヘラ横ナデ 底:糸切 →ヘラナデ	ヘラ横ナデ	灰	灰	○	○							良好		
	461	I-J29	II, IIa	23618 他	鉢	胴~底	東播系	底径:(10.8)	ヘラ横ナデ 底:繊維状ハケ ナデ	ヘラ横ナデ	灰白	灰白	○								良好		
	462	I29	II	33903	鉢	胴~底	東播系	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	青灰	青灰	○								良好		
	463	I31	II	28162	鉢	胴~底	東播系	底径:(10.2)	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	灰白	灰白	○	○							良好	内面使用痕	
	464	I30, J29	II	23597 他	鉢	胴~底	東播系	底径:(14.8)	横ナデ	横ナデ	灰	灰	○								普通	内外磨耗顕著	
	465	I26	I	-	鉢	胴~底	東播系	-	ヘラナデ 底:糸切	ヘラナデ	灰	灰	○								普通	内面使用痕	
	466	G-I30	II	24929 他	鉢	胴~底	東播系	底径:10.2	ヘラ横ナデ 底:糸切	ヘラ横ナデ	灰	灰	○								良好	内面・底面使用 の為磨耗	
	467	E26-27	I, II	18379 他	鉢	胴~底	東播系	底径:13.0	ヘラ縦ナデ 底:糸切	ヘラ横ナデ	灰	灰	○								良好		
	468	I26	IIIa	-	鉢	胴~底	東播系	-	横ナデ	横ナデ	灰	灰	○								良好	内面使用痕	
	469	E21	II	19530	鉢	胴~底	東播系	-	ヘラ横ナデ 底:糸切	ヘラ横ナデ	褐灰	褐灰	○								良好	内面使用痕	
	470	J31, G30	II	24004 他	鉢	胴~底	東播系	底径:(9.8)	ヘラ横ナデ 底:糸切	ヘラ横ナデ	灰	灰	○								良好	底面擦痕、小礫 含む	
	471	D27	IIb	20649	鉢	底	東播系	-	ヘラナデ 底:糸切	ヘラナデ	灰白	灰白	○								普通	やや磨減、軟質	
	472	I30	II	24775	鉢	底	東播系	-	ヘラナデ 底:糸切 →棒状圧痕	ヘラナデ	黒褐	黒褐	○								良好	内側使用痕	
98	473	H31	II	28380 他	甕	口縁	東播系	口径:(21.6)	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	青黒	灰白 口縁:青 黒	○	○						○	普通	内面剥脱顕著、 瓦質か、軟質	
	474	J26	I	-	甕	肩	東播系	-	条痕タタキ 頸部:ナデ	同心円当具→ ヘラナデ	褐灰	褐灰	○							良好	内面剥脱顕著		
	475	D25	I	-	甕	胴	東播系	-	条痕タタキ	ヘラナデ	褐灰	褐灰	○							良好			
	476	H43	Ia	-	壺	胴	カムイ ヤキ	-	横ナデ	格子当具→横 ナデ	灰	灰	○	○							○	良好	器壁内部:暗赤 褐
	477	I30, J31	II	26672 他	壺	胴	カムイ ヤキ	-	長格子タタキ →ナデ	正格子当具→ 横ナデ	灰	灰	○								○	良好	器壁内部:暗赤 褐
	478	G41	II	-	壺	胴	カムイ ヤキ	-	長格子タタキ →ナデ	正格子当具→ 横ナデ	灰	灰	○								○	良好	器壁内部:暗赤 褐
	479	G41	IIa	9144	壺	胴	カムイ ヤキ	-	長方形タタキ →ナデ	格子当具→ナ デ	灰	灰	○	○							良好	器壁内部:暗赤 褐	
	480	E42	IIa	10069	壺	底	カムイ ヤキ	底径:(13.0)	ナデ	ナデ	灰	灰	○								○	良好	器壁内部:暗赤 褐

第14表 東播系須恵器・カムイヤキ・備前焼・常滑焼・灰釉陶器観察表

挿図 番号	掲載 番号	出土区	層	取上 番号	器種	部位	種別	法量 (cm)	調整		色調		胎土							備考					
									外面	内面	外面	内面	白石	茶石	雲母	黄白石	石英	灰石	黒石		燧石	焼成			
100	481	G25	IIIa	22120	播鉢	口縁～胴	備前	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	赤褐	赤灰	○	○								良好	胡麻, 1類		
	482	F30	I	-	播鉢	口縁	備前	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	暗青灰	暗青灰	○	○									良好	器壁内部: 暗赤褐, 胡麻, 1類	
	483	F31	I	-	播鉢	口縁～胴	備前	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	褐灰	褐灰 口縁: 黒	○	○			○	○					良好	2類	
	484	E26	I	-	播鉢	口縁～胴	備前	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	赤褐	赤褐	○		○	○								良好	2類
	485	G41	IIa	9136	播鉢	口縁	備前	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	灰赤	灰赤	○	○										良好	口縁に淡黄色胡麻, 小礫含, 2類
	486	K37	I	-	播鉢	口縁～胴	備前	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	褐灰	褐灰	○											良好	2類
	487	F28	I	-	播鉢	口縁～胴	備前	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	褐灰	灰赤	○							○				良好	小礫含, 3類
	488	D31	IIa	15963	播鉢	胴	備前	-	横ナデ	横ナデ	褐灰	褐灰	○					○						良好	白っぽい胡麻, 小礫含, 3類
	489	E26	I	18017	播鉢	口縁～胴	備前	-	横ナデ	横ナデ	橙 口縁: 灰赤	橙	○	○					○	○				良好	口縁外胡麻, 3類
	490	J38	I	-	播鉢	口縁～胴	備前	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	灰赤 口縁: 褐灰	灰赤	○	○										良好	口縁外胡麻, 使用痕, 4類
	491	J28	I	-	播鉢	口縁	備前	-	横ナデ	横ナデ	赤 口縁: 灰赤	灰赤	○					○						良好	内胡麻, 4類
	492	L35	I	-	播鉢	口縁	備前	-	横ナデ	横ナデ	赤褐	赤褐	○								○			良好	表面剥脱顕著, 5類
	493	H34	I	-	播鉢	口縁	備前	-	横ナデ	横ナデ	赤褐	赤褐	○	○										良好	外側欠損, 注口内側に胡麻, 5類
	494	K27	II	24128	壺	口縁～肩	備前	-	横ナデ	横ナデ	赤褐	赤褐	○	○										良好	肩部外胡麻
	495	I32	I	-	壺	胴～底	備前	底径: (11.5)	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	にぶい赤褐	灰褐	○						○	○				良好	底凹凸, 小礫含む
	496	G33	I	-	壺	胴～底	備前	-	ヘラ縦ナデ	ヘラ横ナデ	赤褐	褐灰		○					○	○				良好	外面と底に胡麻
	497	G22, J28	I, II	20900 他	壺	肩～胴	備前	最大径: (18.0)	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	暗灰, 灰褐	褐灰	○	○							○			良好	肩部に浅黄色の胡麻
	498	J33	I	-	甕	口縁	備前	-	横ナデ	横ナデ	暗赤褐 釉: オリーブ	にぶい 橙, 赤灰	○	○							○			良好	口縁自然釉で光沢あり
	499	J38	IIIa	-	鉢	口縁～胴	東播系	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	灰	灰	○	○							○	○		良好	口唇釉で光沢あり
	101	500	F21	I	-	壺	肩	常滑	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ→ 布目当具痕	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○					○				良好	胡麻, 501と同一個体
501		H26	I	18184	壺	肩	常滑	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ→ 布目当具痕	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○					○				良好	胡麻, 500と同一個体	
502		E21	II	19557	壺	胴～底	常滑	底径: (7.6)	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	灰	灰 釉: 淡黄	○	○							○		良好	内面自然灰釉	
503		J35	I	-	甕	口縁～胴	常滑	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	にぶい褐～暗赤褐 釉: 灰オリーブ	にぶい褐 ～暗赤褐 釉: 灰オリーブ	○	○										良好	内外厚い自然灰釉, 焼きぶくれ
504		E31	I	-	甕	口縁	常滑	-	横ナデ	横ナデ	灰 釉: 灰オリーブ	灰 釉: 灰オリーブ	○								○			良好	内外自然灰釉
505		E22	II	19619	甕	肩	常滑	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	褐灰・赤褐	褐灰・赤褐 釉: 暗オリーブ, 赤	○	○							○		良好	外厚い自然灰釉, 焼きぶくれ	
506		H27	I	-	甕	肩	常滑	-	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	暗赤 釉: 黄	褐灰	○										○	良好	外面自然灰釉, 小礫含む
507		D29, F28	I, II	17134 他	甕	胴～底	常滑	底径: (23.0)	ヘラ横ナデ	ヘラ横ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○							○			良好	内底灰白の胡麻
508		L29	II	33902	甕	胴～底	常滑	-	ヘラナデ 底: 繊維状圧痕	ヘラナデ	灰黄褐	明オリーブ 灰	○								○	○		良好	内面自然灰釉, 小礫含む
509		D20, E25, F21	I, II	17999 他	甕	胴～底	常滑	底径: (16.0)	ヘラナデ	ヘラナデ	にぶい褐～明黄褐	にぶい黄褐	○								○	○		良好	
510		E31, G30 H27・29 J27・29 K30 遺物集中 1号	I, II	23378 他	甕	胴下～底	常滑	底径: 16.0	ヘラ縦ナデ 底: 繊維痕	ヘラ横ナデ	褐灰	褐灰～浅黄	○	○										良好	
511		D18	II	18944	卸皿	口縁～胴	灰釉陶器	-	ヘラナデ	ヘラナデ	灰白 釉: オリーブ 灰	灰白 釉: オリーブ 灰	○											良好	内外薄い釉
512		I36	IIIa	-	卸皿	胴	灰釉陶器	-	ヘラナデ	ヘラナデ	灰白	灰白 釉: オリーブ 灰												良好	外面破損, 内面薄い釉
513	G27	I	17899	底卸皿	底	灰釉陶器	底径: 10.6	ヘラナデ→高 台内格子ヘラ 描き	ヘラナデ	褐灰 釉: オリーブ 灰	褐灰 釉: オリーブ 灰	○											良好	高台内は露胎, 4ヶ所に目痕, 小礫含む	

第15表 青磁・白磁・青白磁観察表

挿図 番号	掲載 番号	出土区	層	取上 番号	器種	部位	種別	法量 (cm)	文様	色調		施釉範囲	焼成	産地	永吉 分類	分類	備考
										胎土	釉色						
102	514	D31・32 E30・31・32 F31・32 H30・34, J28	I, II, III	23852 他	碗	口縁 ～底	青磁	口径:(17.0)	外:縦位櫛描文 内:弧状櫛描文、押圧 文	灰白	オリーブ黄	胴下半無釉	良好	同安 窯系	同碗 1類	I-1b類	
	515	D32	II b	16128	碗	口縁	青磁	-	-	灰	明オリーブ灰		良好	同安 窯系	同碗 1類	I類	
	516	G31	II	27532	碗	口縁	青磁	-	内:横位沈線文、櫛描 文	灰	オリーブ灰		良好	同安 窯系	同碗 1類	I-1a類	
	517	E22・31 F31, H30	II, II b, III a	19633 他	碗	口縁	青磁	-	-	灰	灰オリーブ		良好	同安 窯系	同碗 2類	II類	
	518	F30	II b	36535 他	碗	口縁	青磁	-	-	灰白	オリーブ灰		良好	同安 窯系	同碗 2類	II類	貫入
	519	D33, E31 F32, G30・31 H31	I, II, II a	24914 他	碗	口縁	青磁	口径:(17.0)	内:浅沈線2条	灰白	浅黄		良好	同安 窯系	同碗 2類	II類	貫入
	520	G31, L34	II, III a	27493 他	碗	口縁 ～底	青磁	口径:(15.6)	内:浅沈線1条	灰	暗オリーブ	胴下半無釉	良好	同安 窯系	同碗 2類	II類	貫入
	521	F29	II b	-	碗	口縁	青磁	-	外:横位沈線文	灰白	オリーブ灰		良好	同安 窯系	同碗 2類	II類	外反, 内面貫入
	522	D32・34 F31, K36	I, II	-	碗	口縁 ～胴	青磁	口径:(18.2)	外:斜位浅沈線文	灰白	オリーブ黄		良好	同安 窯系	同碗 2類	II類	4mm大の石英 質礫含む
	523	H29～31 I28～31 J28	I, II	24738 他	碗	口縁 ～底	青磁	口径:(18.1)	外:粗い櫛描文,界線 内:波状櫛描文	浅黄	にぶい黄	外面釉切	良好	同安 窯系	同碗 2類	III-1c類	見込み段有
	524	I33	I	-	碗	口縁	青磁	-	外:縦位櫛描 内:花文	灰白	灰オリーブ		良好	同安 窯系	同碗 2類	I-1cか III類	525と同一
	525	G31, H30	I, II	24849 他	碗	胴	青磁	-	外:縦位櫛描 内:花文	灰白	灰オリーブ		良好	同安 窯系	同碗 2類	I-1cか III類	524と同一
	526	H・J 31	I, II	28364 他	碗	胴	青磁	-	外:櫛描文	灰	オリーブ黄		良好	同安 窯系		I-1cか III-1類	
	527	G43	II a	9047	碗	胴下	青磁	-	外:横位平行線片彫	灰白	オリーブ黄	胴下部無釉	良好	同安 窯系		I-1cか III-1類	
	528	D42	I	-	皿	底	青磁	底径:(5.0)	-	灰	オリーブ灰	底部無釉	良好	同安 窯系		I-1a類	内貫入
	529	H29・30, I30	II	24793 他	皿	口縁 ～底	青磁	口径:(10.2) 底径:(4.8) 器高:1.9	内:櫛描文、ヘラ片彫文	灰白	灰オリーブ	底部無釉	良好	同安 窯系		I-1b類	
	530	G31	II	27660	皿	口縁	青磁	-	内:片彫文	灰	オリーブ灰		良好	同安 窯系		I-1b類	
	531	F43	II a	9825	皿	底	青磁	底径:(5.4)	内:櫛描文、ヘラ片彫文	灰白	明オリーブ灰	底部無釉	良好	同安 窯系		I-1b類	底に浅い穴
	532	F31	II b	36642	皿	口縁	青磁	口径:(10.4)	-	灰	明オリーブ灰		良好	同安 窯系		I-1b類	
	533	I30	II	24776	皿	口縁	青磁	口径:(10.0)	-	灰	オリーブ黄		良好	同安 窯系		I類	
534	K37	III a	24564	皿	口縁	青磁	口径:(13.6)	-	灰	明オリーブ灰		良好	同安 窯系		I類		
535	E41	I	-	大皿	口縁	青磁	-	-	灰白	オリーブ黄		良好	同安 窯系		I類	貫入	
103	536	F32	I	-	碗	口縁	青磁	口径:(16.4)	-	灰白	明緑灰 口縁:明るい明 緑灰		良好	龍泉 窯系	青碗 1類	I-1a類	
	537	E30, F31	I, II b	36633 他	碗	口縁	青磁	口径:(16.4)	-	灰白	明緑灰		良好	龍泉 窯系	青碗 1類	I-1a類	
	538	E24	攪乱	-	碗	口縁	青磁	口径:16cm?	-	灰白	明オリーブ灰		良好	龍泉 窯系	青碗 1類	I-1a類	
	539	F31	II b	36779	碗	口縁 ～胴	青磁	-	-	灰白	オリーブ黄 口縁:オリーブ 灰		良好	龍泉 窯系	青碗 1類	I-1a類	
	540	I29	II	23387	碗	口縁	青磁	-	-	灰白	灰オリーブ		良好	龍泉 窯系	青碗 1類	I-1a類	
	541	D31	III	15983	碗	口縁	青磁	-	-	にぶい赤 褐	黄褐		良好	龍泉 窯系	青碗 1類	I-1a類	
	542	D32	II	-	碗	口縁	青磁	-	-	灰	灰オリーブ 口縁:明青灰		良好	龍泉 窯系	青碗 1類	I-1a類	
	543	D33	II	-	碗	口縁	青磁	-	-	灰	灰オリーブ		良好	龍泉 窯系	青碗 1類	I-1a類	
	544	E32	II b	16149	碗	口縁	青磁	-	-	灰	緑灰 口縁:明るい		良好	龍泉 窯系	青碗 1類	I-1a類	
	545	G31, I38	I, II	27518 他	碗	底	青磁	底径:6.5	-	灰 底:橙	灰オリーブ	豊付～高台内無 釉,内外釉切多	良好	龍泉 窯系	青碗 1類	I-1a類	
	546	K29	I	-	碗	底	青磁	底径:(6.5)	-	灰白	灰	豊付～高台内無 釉,内外釉切多	良好	龍泉 窯系	青碗 1類	I-1a類	
	547	D29	II	17136	碗	底	青磁	底径:(6.4)	-	灰	暗オリーブ	高台～高台内無 釉	良好	龍泉 窯系	青碗 1類	I-1a類	貫入, 目痕

第15表 青磁・白磁・青白磁観察表

挿図 番号	掲載 番号	出土区	層	取上 番号	器種	部位	種別	法量 (cm)	文様	色調		施釉範囲	焼成	産地	永吉 分類	分類	備考
										胎土	釉色						
103	548	D32	II	-	碗	口縁	青磁	-	内:花文	灰白	灰オリーブ		良好	龍泉 窯系	青碗 2類	I-2類	
	549	E31・32, H39	II, IIa	11472 他	碗	口縁	青磁	-	内:片彫蓮華文	灰白	オリーブ灰		良好	龍泉 窯系	青碗 2類	I-2類	
	550	E31	II	-	碗	口縁	青磁	-	内:片彫蓮華文	灰	灰オリーブ		良好	龍泉 窯系	青碗 2類	I-2類	貫入
	551	E29, J31	II	36429 他	碗	口縁	青磁	-	内:片彫蓮華文	灰白	灰オリーブ		良好	龍泉 窯系	青碗 2類	I-2類	
	552	D32	II	-	碗	口縁	青磁	-	内:片彫蓮華文	灰白	灰オリーブ		良好	龍泉 窯系	青碗 2類	I-2類	貫入
	553	F32, G31	I	-	碗	口縁	青磁	-	内:片彫蓮華文	灰白	灰オリーブ		良好	龍泉 窯系	青碗 2類	I-2類	貫入
	554	G31, J29	II	24204 他	碗	胴	青磁	-	内:片彫と櫛描で蓮華 葉文	灰白	灰オリーブ		良好	龍泉 窯系	青碗 2類	I-2類	
	555	K30	I	-	碗	胴下	青磁	-	内:片彫キノコ状文	灰白	灰オリーブ		良好	龍泉 窯系	青碗 2類	I-2類	貫入
	556	G32・43	I	-	碗	胴	青磁	-	内:片彫と櫛描で蓮華 文	灰	灰オリーブ		良好	龍泉 窯系	青碗 2類	I-2類	貫入
	557	E24	IIa	20046	碗	底	青磁	底径:(6.2)	内:片彫と櫛描で蓮華 文	灰	灰オリーブ	高台内無釉	良好	龍泉 窯系	青碗 2類	I-2類	
	558	F30, G31, I31	II	29024 他	碗	胴~ 底	青磁	底径:5.8	内:浅い圈線, 片彫蓮華 文	灰	灰オリーブ	高台内無釉	良好	龍泉 窯系	青碗 2類	I-2類	貫入 見込み砂目
	559	E32, G31	I, IIa	11417 他	碗	口縁	青磁	口径:(17.2)	内:2本分割洗線, 片彫 飛雲文	灰白	灰白		良好	龍泉 窯系	青碗 2類	I-4類	
	560	G31	II	27679	碗	口縁	青磁	-	内:不明文	灰白	オリーブ灰, 口 縁:内外明青灰		良好	龍泉 窯系	青碗 2類	I-4類	
	561	I37	IIIa	24545	碗	底	青磁	底径:(5.6)	見込み:圈線, 片彫蓮華 文か片彫キノコ状文	灰白	灰オリーブ	高台内無釉	良好	龍泉 窯系	青碗 2類	I-2~4類	
	562	F27	I	17907	碗	底	青磁	底径:(6.2)	見込み:圈線, 片彫蓮華 文か片彫キノコ状文	灰	灰オリーブ	高台内無釉	良好	龍泉 窯系	青碗 2類	I-2~4類	
	563	I26	I	18197	碗	底	青磁	-	見込み:圈線, 片彫蓮華 文か片彫キノコ状文	灰	灰オリーブ	高台内無釉	良好	龍泉 窯系	青碗 2類	I-2~4類	
	564	E30	III	16019	碗	口縁	青磁	口径:(16.2)	-	灰赤	オリーブ黄		良好	龍泉 窯系	青碗 2類	I類か II類	
	565	F31	I, IIb	36653 他	碗	底~ 高台	青磁	底径:(5.4)	-	灰白	灰オリーブ	畳付~高台内無 釉	良好	龍泉 窯系	青碗 2類	I類か II類	貫入
	566	E21	I	-	碗	底~ 高台	青磁	底径:(5.2)	-	灰白	灰オリーブ	畳付~高台内無 釉	良好	龍泉 窯系	青碗 2類	I類か II類	畳付に砂
	567	J29	II	23614	碗	底~ 高台	青磁	底径:(5.2)	-	灰白	オリーブ灰	畳付~高台内無 釉	良好	龍泉 窯系	青碗 2類	I類か II類	
568	F32, H30	II, IIb	24050 他	碗	胴~ 高台	青磁	底径:(5.2)	-	灰	オリーブ灰	畳付~高台内無 釉	良好	龍泉 窯系	青碗 2類	I類	小碗?	
569	C27・28	I	-	碗	底	青磁	底径:(4.8)	見込み:幾何学文	灰白	オリーブ灰	畳付~高台内無 釉	良好	龍泉 窯系	青碗 2類	I類か II類		
104	570	D33	II	-	碗	口縁 ~ 胴	青磁	口径:(17.2)	外:片彫蓮弁文	赤褐	灰オリーブ		良好	龍泉 窯系	青碗 3類	II-a類	
	571	H30	II	24842	碗	口縁 ~ 胴	青磁	口径:(16.1)	外:片彫蓮弁文	灰	灰オリーブ		良好	龍泉 窯系	青碗 3類	II-a類	
	572	F32	II	-	碗	口縁 ~ 胴	青磁	-	外:片彫蓮弁文	灰	灰オリーブ		良好	龍泉 窯系	青碗 3類	II-a類	
	573	H30	II	24018	碗	口縁 ~ 胴	青磁	-	外:片彫蓮弁文	灰	オリーブ黄		良好	龍泉 窯系	青碗 3類	II-a類	
	574	H30	II	24038	碗	口縁 ~ 胴	青磁	-	外:片彫蓮弁文	灰	暗オリーブ		良好	龍泉 窯系	青碗 3類	II-a類	
	575	H41	攪乱	-	碗	胴	青磁	-	外:片彫蓮弁文	灰	灰白		良好	龍泉 窯系	青碗 3類	II-a類	
	576	G30	II	23951	碗	口縁	青磁	-	外:片彫蓮弁文	灰	灰オリーブ		良好	龍泉 窯系	青碗 3類	II-a類	
	577	G32	I	-	碗	胴	青磁	-	外:片彫蓮弁文	灰	オリーブ灰		良好	龍泉 窯系	青碗 3類	II-a類	
	578	E28・30	IIa・b	17918 他	碗	胴~ 底	青磁	底径:(5.8)	外:片彫蓮弁文	灰	暗オリーブ	高台内分的に無 釉	良好	龍泉 窯系	青碗 3類	II-a類	高台内砂目
	579	F23, J28	II, IIIa	22352 他	碗	胴~ 底	青磁	底径:5.4	外:片彫蓮弁文	灰	灰オリーブ	高台内分的に無 釉	良好	龍泉 窯系	青碗 3類	II-a類	高台内砂目
	580	F30	I	-	碗	底	青磁	底径:(5.1)	外:片彫蓮弁文	赤褐	灰オリーブ	高台無釉	良好	龍泉 窯系	青碗 3類	II-a類	
	581	E・J28	II, IIa	17919 他	碗	完形	青磁	口径:16.0 底径:5.0 器高:7.3	外:鎊蓮弁文 内:爪型様の文様 見込み:圈線, ヘラ描幾 何学文	灰	オリーブ灰	畳付~高台内無 釉	良好	龍泉 窯系	青碗 3類	II-b類	
	582	J30	II	23683	碗	口縁	青磁	口径:(16.4)	外:鎊蓮弁文	灰	オリーブ灰		良好	龍泉 窯系	青碗 3類	II-b類	
	583	H29	II	26434	碗	口縁 ~ 胴	青磁	口径:(15.4)	外:鎊蓮弁文	にぶい褐	灰オリーブ		良好	龍泉 窯系	青碗 3類	II-b類	
	584	I29	II	24639 他	碗	口縁 ~ 胴	青磁	口径:(16.2)	外:鎊蓮弁文	灰白	オリーブ灰		良好	龍泉 窯系	青碗 3類	II-b類	
	585	G30	II	23929	碗	口縁 ~ 胴	青磁	口径:(16.2)	外:鎊蓮弁文	灰白	明オリーブ灰		良好	龍泉 窯系	青碗 3類	II-b類	
	586	E・J30	II, IIb	23655 他	碗	口縁 ~ 胴	青磁	口径:(16.0)	外:鎊蓮弁文	灰白	明オリーブ灰		良好	龍泉 窯系	青碗 3類	II-b類	
	587	I29	II	26372	碗	口縁 ~ 胴	青磁	口径:(17.2)	外:鎊蓮弁文	灰	オリーブ灰		良好	龍泉 窯系	青碗 3類	II-b類	

第15表 青磁・白磁・青白磁観察表

挿図 番号	掲載 番号	出土区	層	取上 番号	器種	部位	種別	法量 (cm)	文様	色調		施釉範囲	焼成	産地	永吉 分類	分類	備考
										胎土	釉色						
104	588	H29	II	24611	碗	口縁	青磁	口径:(16.5)	外:鎗蓮弁文	灰	暗オリーブ		良好	龍泉 窯系	青碗 3類	II-b類	
	589	I36, J28	II, IIIa	23547 他	碗	口縁 ~胴	青磁	口径:(16.0)	外:鎗蓮弁文	灰	オリーブ灰		良好	龍泉 窯系	青碗 3類	II-b類	
	590	K25	II	23312	碗	口縁 ~胴	青磁	-	外:鎗蓮弁文	灰	オリーブ黄		良好	龍泉 窯系	青碗 3類	II-b類	
	591	F30	IIb	36542	碗	口縁 ~胴	青磁	-	外:鎗蓮弁文	灰	オリーブ灰		良好	龍泉 窯系	青碗 3類	II-b類	
	592	F41	IIb	-	碗	口縁	青磁	-	外:鎗蓮弁文	灰	明オリーブ灰		良好	龍泉 窯系	青碗 3類	II-b類	
	593	G30	II	23939	碗	口縁 ~胴	青磁	-	外:鎗蓮弁文	灰	明オリーブ灰		良好	龍泉 窯系	青碗 3類	II-b類	
	594	H21	II	21019	碗	口縁	青磁	-	外:鎗蓮弁文	灰	明オリーブ灰		良好	龍泉 窯系	青碗 3類	II-b類	
	595	I26	I	18758	碗	口縁 ~胴	青磁	-	外:鎗蓮弁文	灰	オリーブ灰		良好	龍泉 窯系	青碗 3類	II-b類	
	596	D32	II	-	碗	口縁 ~胴	青磁	-	外:鎗蓮弁文	灰	灰オリーブ		良好	龍泉 窯系	青碗 3類	II-b類	貫入
	597	F32, H29	II, IIb	23341 他	碗	胴 ~底	青磁	底径:6.0	外:鎗蓮弁文 見込み:八花文	灰	オリーブ灰	豊付~高台内無 釉	良好	龍泉 窯系	青碗 3類	II-b類	貫入
105	598	G24	II	-	碗	底	青磁	底径:5.4	見込み:圏線, 渦巻文	灰白	オリーブ灰	豊付~高台内無 釉	良好	龍泉 窯系	青碗 3類	II-b類	貫入 高台外砂目
	599	H30	II	24876	碗	胴 ~底	青磁	底径:5.8	外:鎗蓮弁文	灰	明緑灰	豊付~高台内無 釉	良好	龍泉 窯系	青碗 3類	II-b類	
	600	L38	II	-	碗	底	青磁	底径:5.7	-	灰白	灰オリーブ	豊付~高台内無 釉	良好	龍泉 窯系	青碗 3類	II類	
	601	F28	I	18770	碗	胴 ~底	青磁	底径:(5.6)	外:鎗蓮弁文 見込み:草花文	灰	緑灰		良好	龍泉 窯系	青碗 3類	II-c類	
	602	F21	II	18007	碗	底	青磁	底径:(5.0)	見込み:草花文	灰	オリーブ	豊付~高台内無 釉	良好	龍泉 窯系	青碗 3類	II-c類	貫入 高台砂目
	603	F27	II	-	碗	底 ~高台	青磁	底径:5.7	外:鎗蓮弁文 見込み:蓮花文	灰	オリーブ灰	豊付~高台内無 釉	良好	龍泉 窯系	青碗 3類	II-c類	高台砂目
	604	J31	I	-	碗	胴 ~底	青磁	底径:5.8	外:鎗蓮弁文 見込み:蓮花文	灰	灰オリーブ	豊付~高台内無 釉	良好	龍泉 窯系	青碗 3類	II-c類	貫入
	605	K30	II	-	碗	胴 ~底	青磁	底径:4.8	外:蓮弁文 見込み:魚と雲?	灰白	明オリーブ灰	高台内釉剥	良好	龍泉 窯系	青碗 4類	上田b-II 類	高台内砂目痕
	606	J28	I	-	碗	胴 ~底	青磁	底径:(5.4)	外:蓮弁文 見込み:圏線	灰白	オリーブ灰		良好	龍泉 窯系	青碗 4類	上田b-II 類	
	106	607	G22	IIa	18613	碗	口縁	青磁	-	外:蓮弁文	灰	オリーブ灰		良好	龍泉 窯系	青碗 4類	上田b-III 類
608		E42	IIa	-	碗	口縁	青磁	-	外:蓮弁文	灰黄	オリーブ灰		良好	龍泉 窯系	青碗 4類	上田b-III 類	
609		F-K30	II	27442 他	碗	口縁	青磁	-	外:蓮弁文	灰黄褐	オリーブ灰		良好	龍泉 窯系	青碗 4類	上田b-III 類	
610		H22	IIa	-	碗	口縁	青磁	-	外:蓮弁文	にぶい黄 橙	にぶい黄橙		良好	龍泉 窯系	青碗 4類	上田b-IV 類	
611		L29	I	-	碗	口縁	青磁	-	外:蓮弁文 内:櫛描文	灰	オリーブ灰		良好	龍泉 窯系	青碗 4類	上田b-IV 類	
612		K29	I	-	碗	口縁	青磁	口径:(14.0)	外:蓮弁文	橙	にぶい黄橙		良好	龍泉 窯系	青碗 4類	上田b-IV 類	
613		J28	I	-	碗	口縁	青磁	口径:(12.0)	外:蓮弁文	灰	オリーブ灰		良好	龍泉 窯系	青碗 4類	上田b-IV 類	
614		G32-41	I, IIa	-	碗	口縁	青磁	口径:(14.0)	外:蓮弁文	灰	オリーブ灰		良好	龍泉 窯系	青碗 4類	上田b-IV 類	
615		E41	IIa	-	碗	口縁	青磁	口径:(15.0)	外:蓮弁文	灰	オリーブ灰		良好	龍泉 窯系	青碗 4類	上田b-IV 類	気泡
616		F30	I	-	碗	口縁	青磁	口径:(15.0)	外:雷文帯 内:雲文か	灰白	緑灰		良好	龍泉 窯系	青碗 5類	上田C-II 類	
617		F41	Ia	-	碗	口縁	青磁	口径:(15.0)	外:雷文帯	灰白	オリーブ灰		良好	龍泉 窯系	青碗 5類	上田C-II 類	
618		F30	I	-	碗	口縁 ~胴	青磁	口径:(15.4)	外:雷文帯、ラマ式連 弁文	灰白	オリーブ灰		良好	龍泉 窯系	青碗 5類	上田C-II 類	
619		J30	I	-	碗	口縁	青磁	-	外:雷文帯	灰白	オリーブ灰		良好	龍泉 窯系	青碗 5類	上田C-II 類	
620		G32	I	-	碗	口縁	青磁	-	外:雷文帯か	灰白	オリーブ灰		良好	龍泉 窯系	青碗 5類	上田C-II 類?	
621		J31	I	-	碗	口縁	青磁	-	内:沈線文	灰白	灰オリーブ		良好	龍泉 窯系	青碗 5類	上田C類?	貫入
622	D32	IIa	15952	碗	胴	青磁	-	外:雷文帯、ラマ式連 弁文	灰白	オリーブ灰		良好	龍泉 窯系	青碗 5類	上田C-2 類		
623	F21	I	-	碗	胴	青磁	-	外:雷文帯、ラマ式連 弁文	灰白	オリーブ灰		良好	龍泉 窯系	青碗 5類	上田C-2 類?	外面貫入	
624	K29	I	-	碗	胴 ~底	青磁	底径:(6.1)	外:草花文 見込み:界線, 草花文	灰白	オリーブ灰	高台内釉剥	良好	龍泉 窯系	青碗 5類	上田C-2 類?		
625	L38	II	-	碗	胴 ~底	青磁	底径:(5.8)	外:草花文 内:圏線, スタンプ文	灰白 高台内: にぶい橙	オリーブ灰	高台内釉剥	良好	龍泉 窯系	青碗 5類	上田C-II 類?	高台内砂目痕	
107	626	I-J26-27	I	-	碗	口縁	青磁	口径:(15.0)	見込み:界線	灰白	オリーブ灰		良好	龍泉 窯系	青碗 6類	上田D-1 類	
	627	L28	I	-	皿	口縁	青磁	口径:(13.4)	-	灰白	明オリーブ灰		良好	龍泉 窯系	青碗 6類		内外貫入
	628	F30	I	-	碗	口縁	青磁	-	-	灰	明オリーブ灰		良好	龍泉 窯系	青碗 6類	上田D-1 類	内外貫入

第15表 青磁・白磁・青白磁観察表

挿図 番号	掲載 番号	出土区	層	取上 番号	器種	部位	種別	法量 (cm)	文様	色調		施釉範囲	焼成	産地	永吉 分類	分類	備考
										胎土	釉色						
107	629	I22	II	-	碗	口縁	青磁	-	-	灰	明オリブ灰		良好	龍泉 窯系	青碗 6類	上田D-1 類	内外貫入
	630	E32	I	-	碗	口縁	青磁	口径:(15.4)	外面:浅凹線1条	灰白	明オリブ灰		良好	龍泉 窯系	青碗 6類	上田D-1 かD-2類	1か所浅い段
	631	I43	IIb	15610	碗	口縁	青磁	口径:(18.4)	-	灰白	明オリブ灰		良好	龍泉 窯系	青碗 6類	上田D-1 類	
	632	J38	IIb	23031	碗	口縁	青磁	口径:(15.4)	-	灰白	オリブ灰		良好	龍泉 窯系	青碗 6類	上田D-2 類	
	633	J38	I	-	碗	口縁	青磁	口径:(16.0)	-	灰白	明オリブ灰		良好	龍泉 窯系	青碗 6類	上田D-2 類	内外貫入
	634	J28	I	-	碗	口縁	青磁	口径:(16.6)	-	灰	オリブ灰		良好	龍泉 窯系	青碗 6類	上田D-2 類	内外貫入
	635	E20	II	-	碗	口縁	青磁	口径:(16.6)	-	灰	オリブ灰		良好	龍泉 窯系	青碗 6類	上田D-2 類	内外貫入
	636	J38	IIIa	23120	碗	口縁	青磁	-	-	灰	灰オリブ		良好	龍泉 窯系	青碗 6類	上田D-2 類	外反 内外貫入
	637	G25	I	18756	碗	口縁	青磁	-	-	灰	オリブ灰		良好	龍泉 窯系	青碗 6類	上田D-2 類	内外貫入
	638	K37	IIb	-	碗	口縁	青磁	-	-	灰白	オリブ灰		良好	龍泉 窯系	青碗 6類	上田D-2 類	
	639	C27・28	I	-	碗	胴	青磁	-	内:印花文?	灰白	オリブ灰		良好	龍泉 窯系	青碗 6類	上田D-2 類?	
	640	J28	I	-	碗	口縁 ~胴	青磁	口径:(16.0)	-	灰白	明緑灰		良好	龍泉 窯系	青碗 6類	上田D-2 類	貫入
	641	J38	I	-	碗	底	青磁	底径:(5.4)	-	灰	オリブ灰		良好	龍泉 窯系	青碗 6類	上田D-1 かD-2類	
	642	D29	II	17137	碗	底	青磁	底径:(6.0)	-	灰白 高台:黒	オリブ灰	高台内挿取	良好	龍泉 窯系	青碗 6類	上田D-1 かD-2類	
	643	J38	I	-	碗	底	青磁	-	見込み:草花スタンプ 文	褐灰	オリブ灰	高台内挿取	良好	龍泉 窯系	青碗 6類	上田II~ IV類	内面貫入 高台欠損
	644	J32	I	-	碗	底	青磁	底径:(6.2)	見込み:草花スタンプ 文	灰白	オリブ灰	高台内釉剥	良好	龍泉 窯系	青碗 6類	上田DかE 類	
	645	H25, J28	I	-	碗	底	青磁	底径:(5.5)	見込み:圏線、草花ス タンプ文	灰白	明緑灰	畳付~高台内 一部無釉	良好	龍泉 窯系	青碗 6類	IV-イ類	
	646	J28	I	-	碗	底	青磁	底径:(5.6)	-	灰白	明オリブ灰	高台外~高台内 無釉	良好	龍泉 窯系	青碗 6類	IV-イ類	
	647	J38	IIIa	23109	碗	底	青磁	底径:6.2	内外:2本1組の縦沈線 見込み:草花スタンプ 文	灰	オリブ灰	高台内蛇の目状 釉剥	良好	龍泉 窯系	青碗 6類	IV類?	
	648	F29	IIb	36398	碗	底	青磁	底径:(6.0)	見込み:草花スタンプ 文	灰白	明オリブ灰	畳付~高台内 無釉	良好	龍泉 窯系	青碗 6類	IV-イ類	
	649	H21, K29	I, II	23809	碗	底	青磁	底径:5.2	見込み:草花スタンプ 文	灰白	オリブ灰	畳付~高台内 無釉	良好	龍泉 窯系	青碗 6類	IV-イ類	
650	J38	IIb	23030	皿?	底	青磁	底径:(6.6)	-	灰	オリブ灰		良好	龍泉 窯系	青碗 6類	上田2~4 群		
651	E23	I	-	碗	底	青磁	底径:(5.0)	-	灰白 高台:橙	オリブ灰	畳付釉剥	良好	龍泉 窯系	青碗 6類	III類	貫入	
108	652	K28	I	-	碗	底	青磁	底径:(9.4)	見込み:貼付蓮花文	にぶい黄 橙	オリブ灰	畳付~高台内 無釉	良好	龍泉 窯系	青碗 7類	IV類	
109	653	J29	I	-	皿	口縁	青磁	口径:(13.0)	-	灰	オリブ黄 口唇:浅黄		良好	龍泉 窯系	青皿 1類	IV類?	
	654	G21	IIa	18585	皿	口縁	青磁	口径:(12.0)	-	灰~黄橙	黄灰		良好	龍泉 窯系	青皿 1類		
	655	F21	I	-	皿	口縁	青磁	口径:(12.0)	-	灰	オリブ灰 口唇:灰色		良好	龍泉 窯系	青皿 1類		貫入
	656	K28	II	23821	皿	口縁 ~胴	青磁	口径:(13.1)	-	灰	灰オリブ		良好	龍泉 窯系	青皿 1類		
	657	E21	II	19550	皿	口縁	青磁	口径:(13.0)	-	灰	オリブ灰		良好	龍泉 窯系	青皿 1類		貫入
	658	H21	IIa	18650	皿	口縁 ~胴	青磁	口径:(11.6)	-	灰	オリブ		良好	龍泉 窯系	青皿 1類		光沢なし
	659	H26	I	18260	皿	口縁 ~胴	青磁	口径:(13.2)	-	灰	灰オリブ		良好	龍泉 窯系	青皿 1類		貫入
	660	E21	II	19558	皿	口縁 ~底	青磁	-	-	灰	オリブ灰	高台内無釉	良好	龍泉 窯系	青皿 1類		貫入
	661	F21	II	18000	皿	口縁	青磁	-	-	灰	オリブ灰		良好	龍泉 窯系	青皿 1類		
	662	I26	I	-	皿	口縁 ~底	青磁	口径:12.3 底径:5.7 器高:3.1	内:圏線、蓮花文 見込み:圏線、桜花文と 「寿」字	灰	オリブ灰	高台内無釉	良好	龍泉 窯系	青皿 1類		桜花皿
	663	D20	II	-	皿	口縁	青磁	口径:(11.9)	内口縁:沈線2条	灰	オリブ灰		良好	龍泉 窯系	青皿 1類		貫入、桜花皿
	664	G40	IIa	9178	皿	口縁 ~胴	青磁	-	外:幾何学文 内:圏線2条、草花文	灰白	オリブ灰		良好	龍泉 窯系	青皿 1類	III類	内面貫入、桜 花皿
	665	G43	I	-	皿	口縁	青磁	口径:(11.8)	内口縁:沈線2条	灰	灰オリブ		良好	龍泉 窯系	青皿 1類		貫入、内面砂 目、桜花皿
666	G24	II	22143	皿	口縁	青磁	-	内口縁:沈線2条	灰	オリブ灰		良好	龍泉 窯系	青皿 1類		貫入、桜花皿	
667	D41	IIa	-	皿	口縁	青磁	-	内口縁:沈線2条	灰	オリブ灰		良好	龍泉 窯系	青皿 1類		貫入、桜花皿	
668	G41	I	-	皿	口縁	青磁	-	-	灰	オリブ灰		良好	龍泉 窯系	青皿 1類		貫入、口縁砂 粒、桜花皿	

第15表 青磁・白磁・青白磁観察表

挿図 番号	掲載 番号	出土区	層	取上 番号	器種	部位	種別	法量 (cm)	文様	色調		施釉範囲	焼成	産地	永吉 分類	分類	備考
										胎土	釉色						
109	669	D20	I	-	皿	口縁	青磁	-	内:沈線1条	灰	オリーブ灰		良好	龍泉 窯系	青皿 1類		稜花皿
	670	E42	II a	-	皿	口縁	青磁	-	内:沈線2~3条	灰	オリーブ灰		良好	龍泉 窯系	青皿 1類		稜花皿
	671	K37	II b	-	皿	口縁	青磁	口径:(11.0)	外:蓮弁文 内:片彫文	灰白	明オリーブ灰		良好	龍泉 窯系	青皿 2類		碁笥底?
	672	E21	II	17977	皿	口縁	青磁	口径:(12.0)	外:蓮弁文 内:片彫文	灰白	オリーブ灰		良好	龍泉 窯系	青皿 2類		碁笥底?
	673	F43	II a	-	皿	口縁	青磁	口径:(9.4)	-	灰	オリーブ灰		良好	龍泉 窯系	青皿 2類		
	674	H30	II	24051	皿	口縁	青磁	口径:(10.4)	-	灰白	明オリーブ灰		良好	龍泉 窯系	青皿 2類		
	675	C12	I	-	皿	底	青磁	底径:(7.5)	見込み:圏線,草花文	灰白	オリーブ灰	高台内一部無釉	良好	龍泉 窯系			
	676	E24	I	-	皿	底	青磁	底径:(6.2)	見込み:花スタンプ文	灰	暗オリーブ	畳付~高台内無釉	良好	龍泉 窯系			
	677	J29	I	-	皿	底	青磁	-	-	灰	明オリーブ灰	見込み輪状釉剥, 外胴下~高台内 無釉	良好	龍泉 窯系			
	678	K37	I	-	皿	底	青磁	底径:(6.0)	-	灰白	灰白	見込み輪状釉剥, 畳付~高台内無 釉	良好	龍泉 窯系			
	679	L28	I	-	皿	底	青磁	底径:(7.6)	-	灰白	オリーブ灰	見込み輪状釉剥, 高台内無釉	良好	龍泉 窯系			
	680	J28	I	-	皿	底	青磁	底径:4.6	-	灰白	浅黄	見込み輪状釉剥, 畳付釉剥	良好	龍泉 窯系			
	110	681	I40	I	-	皿	底	青磁	底径:4.8	外:縦沈線 見込み:菊花文	灰白	明緑灰色 外:オリーブ灰	畳付~高台内一 部無釉	良好	龍泉 窯系		
682		H21	II a	18676	坏	口縁 ~胴	青磁	口径:(13.0)	外:片彫蓮弁文	灰	明オリーブ灰		良好	龍泉 窯系		IV類	口縁外反
683		I29	II	23401	小碗	口縁	青磁	-	-	灰白	オリーブ灰		良好	龍泉 窯系		I-1類	
684		F32	I	-	小碗	口縁	青磁	-	口縁:縦位凹み1条	灰白	オリーブ灰		良好	龍泉 窯系			碁笥底? 外貫入
685		F23	II	21957	小碗	底	青磁	底径:3.0	-	灰白	明オリーブ灰	外面胴下~底無 釉	良好	龍泉 窯系			碁笥底 内面貫入
686		D27	I	18105	盤	口縁	青磁	-	-	灰色	オリーブ灰		良好	龍泉 窯系		IV類以降	貫入
687		J26・27	I	-	碗	胴下 半~高台	青磁	底径:5.6	見込み:浅い花弁スタ ンプ文	灰色	オリーブ灰	胴下半~高台内 無釉	良好	磁瀬 窯系			
112	688	F30	I	-	坏	胴~ 底	青磁	底径:(4.4)	-	灰白	明オリーブ灰		良好	朝鮮 陶磁			見込み砂目 高台砂付着 李朝陶器?
	689	J28	I	-	碗	胴~ 底	青磁	底径:4.4	-	黄灰	オリーブ灰	外面無釉	良好	朝鮮 陶磁			外:にぶい黄 褐,高台砂目 李朝陶器?
	690	F31, H30	I, II	27556 他	碗	口縁 ~底	白磁	口径:(16.0) 底径:(6.8) 器高:6.5	-	灰白	灰白	胴下半~高台内 無釉	良好		白碗 1類	IV-1	
	691	C27・28, G25	I	20376 他	碗	口縁 ~底	白磁	口径:(16.8) 底径:(7.2) 器高:6.5	-	灰白	灰白	胴下半~高台内 無釉	良好		白碗 1類	IV類	
	692	D36, H31 J29・30 L29, SD36	①II	23721 他	碗	口縁 ~底	白磁	口径:(17.5) 底径:7.0 器高:6.6	-	灰白	灰白	胴下半~高台内 無釉	良好		白碗 1類	IV類	
	693	I29	II	24681	碗	口縁	白磁	口径:(17.0)	-	灰白	灰白		良好		白碗 1類	IV類	
	694	I29	II, II a	26370 他	碗	口縁 ~胴	白磁	口径:(17.0)	-	灰白	灰白		良好		白碗 1類	IV類	
	695	H29	II	23380 他	碗	口縁	白磁	口径:(16.0)	-	灰白	灰白		良好		白碗 1類	IV類	
	696	L35	III a	-	碗	口縁	白磁	口径:(17.6)	-	灰白	灰白		良好		白碗 1類	IV類	
	697	G22	II a	18593	碗	口縁	白磁	-	-	灰白	灰白		良好		白碗 1類	IV類	
	698	F30	I, II	27462 他	碗	口縁 ~胴	白磁	口径:(16.2)	-	灰白	灰白		良好		白碗 1類	IV類	
	699	G31, H30	II	24062 他	碗	口縁	白磁	口径:(16.8)	-	灰白	灰白	胴下半無釉	良好		白碗 1類	IV類	
	700	J30, K29	I, II	25242 他	碗	口縁 ~胴	白磁	口径:(18.4)	-	灰白	灰白	胴下半無釉	良好		白碗 1類	IV類	
701	E31	III	16025	碗	口縁 ~胴	白磁	口径:(16.0)	-	灰白	灰オリーブ	胴下半無釉,口縁 部半に無釉	良好		白碗 1類	IV類		
702	J29	II	25525	碗	底	白磁	底径:5.3	-	灰白	オリーブ	外面無釉	良好	広東	白碗 1類	II-4類か	内面重焼痕 目痕	
703	K30	II	30043	碗	底	白磁	底径:(5.6)	-	灰白	灰オリーブ	外面無釉	良好	広東	白碗 1類	II-4類か		
704	G30, J29	II	23925 他	碗	口縁 ~胴	白磁	口径:(18.0)	-	灰白	灰白	胴下半無釉	良好		白碗 1類	IV類		

第 15 表 青磁・白磁・青白磁観察表

挿図 番号	掲載 番号	出土区	層	取上 番号	器種	部位	種別	法量 (cm)	文様	色調		施釉範囲	焼成	産地	永吉 分類	分類	備考
										胎土	釉色						
112	705	G32, I29-30	II, IIb	23909 他	碗	口縁	白磁	-	-	灰白	灰白	胴下半無釉	良好		白碗 1類	IV類	
	706	G30-31	II	23961 他	碗	口縁 ~胴	白磁	-	-	灰白	灰白	胴下半無釉	良好		白碗 1類	IV類	
113	707	E21-22	II	19551 他	碗	口縁	白磁	口径:(16.7)	-	灰白	灰白		良好		白碗 1類	IV類	
	708	F31, G32	IIb	36725 他	碗	口縁 ~胴	白磁	口径:(16.2)	-	灰白	灰白	胴下半無釉	良好		白碗 1類	IV類	
	709	J26	I	-	碗	口縁 ~胴	白磁	口径:(16.2)	-	灰白	灰白		良好		白碗 1類	IV類	
	710	K35	IIIa	34023	碗	口縁 ~胴	白磁	口径:(16.5)	-	灰白	灰白		良好		白碗 1類	IV類	
	711	I30, J29	II	23625 他	碗	口縁 ~胴	白磁	口径:(16.2)	-	灰白	灰白	胴下半無釉	良好		白碗 1類	IV類	
	712	F32, G31	I, II	27624 他	碗	口縁 ~胴	白磁	口径:(16.6)	-	灰白	灰白	胴下半無釉	良好		白碗 1類	IV類	
	713	H31, J28 K29	II	25065 他	碗	口縁 ~胴	白磁	口径:(16.0)	-	灰白	灰白		良好		白碗 1類	IV類	
	714	F32, G30-31	II, IIb	23922 他	碗	口縁 ~胴	白磁	口径:(16.5)	-	灰白	灰白	胴下半無釉	良好		白碗 1類	IV類	
	715	D20, I30 J29	I, II	21096 他	碗	口縁 ~胴	白磁	口径:(16.4)	-	浅黄	灰白	胴下半無釉	良好		白碗 1類	IV類	
	716	I31	II	28275	碗	口縁	白磁	口径:(16.6)	-	灰白	灰白		良好		白碗 1類	IV類	
	717	F31-32	IIb	36708 他	碗	口縁	白磁	口径:(17.0)	-	浅黄	灰白		良好		白碗 1類	IV類	
	718	G43	IIb	10699	碗	口縁 ~胴	白磁	口径:(18.1)	-	灰白	浅黄		良好		白碗 1類	IV類	
	719	F32	IIa	11392	碗	口縁 ~胴	白磁	口径:(15.4)	-	灰白	灰白	胴下半無釉	良好		白碗 1類	IV類	
	720	E32	IIIa	16205	碗	口縁	白磁	口径:(14.2)	-	灰白	灰白	胴下半無釉	良好		白碗 1類	IV類	
	721	D32	II	-	碗	底	白磁	底径:7.2	-	灰白	灰白	外面無釉	良好		白碗 1類	IV類	
	722	G31, J30	II	25122 他	碗	底	白磁	底径:6.7	見込み:沈線	灰白	灰白	内面釉剥, 外面無釉	良好		白碗 1類	IV類	
	723	E33, G41	II, IIb	15923 他	碗	底	白磁	底径:6.8	見込み:沈線	灰白	灰黄	外面無釉	普通		白碗 1類	IV類	
	724	K28	II	23826	碗	底	白磁	底径:6.4	-	灰白	浅黄	外面無釉	普通		白碗 1類	IV類	
	725	E27, G31-32	I, II, IIb, III	18336 他	碗 胴~底	白磁	底径:7.6	見込み:沈線	-	淡黄	灰白	胴下半~高台内無釉	良好		白碗 1類	IV類	
	726	F32, G31	IIb	39208 他	碗	底	白磁	底径:7.0	見込み:沈線	灰白	灰白	胴下半~高台内無釉	良好		白碗 1類	IV類	
727	F27	II	18861	碗	底	白磁	底径:6.5	見込み:沈線	灰白	灰白	外面無釉	良好		白碗 1類	IV類		
728	F31, G40	IIb	14571 他	碗	底	白磁	底径:6.9	見込み:沈線	灰白	灰白	高台無釉	良好		白碗 1類	IV類		
729	H43	IIa-b	11924 他	碗	底	白磁	底径:6.8	見込み:沈線	灰白	灰白	胴下半~高台内無釉	良好		白碗 1類	IV類		
730	F30-31	I, IIb	37388 他	碗	底	白磁	底径:5.6	見込み:沈線	灰白	灰白	胴下半~高台内無釉, 内面一部釉切	良好		白碗 1類	IV類		
731	J30	II	25129	碗	底	白磁	底径:7.0	見込み:沈線	灰白	灰白	胴下半~高台内無釉	良好		白碗 1類	IV類		
732	G33	I	-	碗	底	白磁	底径:6.4	見込み:沈線	灰白	灰白	胴下半~高台内無釉	良好		白碗 1類	IV類		
733	D32	II	-	碗	底	白磁	底径:(7.5)	見込み:沈線	灰白	灰白	外面無釉	良好		白碗 1類	IV類		
734	G31, J28	II	25224 他	碗 胴~底	白磁	底径:(6.7)	見込み:沈線	-	灰白	灰白	胴下半~高台内無釉	良好		白碗 1類	IV類		
735	D30, E30-31	IIa-b	16033 他	碗	底	白磁	底径:(6.8)	-	灰白	灰白	外面無釉	良好		白碗 1類	IV類		
736	F32, H30-31	II, IIb	24052 他	碗	底	白磁	底径:6.5	見込み:沈線	灰白	灰白	胴下半~高台内無釉	良好		白碗 1類	IV類		
114	737	F31 G31-32 I30	I, II, IIb	24116 他	碗	口縁 ~底	白磁	口径:(16.4) 底径:(6.0) 器高:6.5	内口縁・見込み:沈線	灰白	灰白	胴下半~高台内無釉	良好		白碗 2類	V-4a類	
	738	J35	II	36262	碗	完形	白磁	口径:17.6 底径:6.0 器高:7.4	見込み:沈線	淡黄	浅黄	胴下半~高台内無釉, 見込一部無釉	良好		白碗 2類	V-4a類	貫入
	739	F31 G30-31 H29-30-31	I, II, IIb	24852 他	碗	口縁 ~底	白磁	口径:17.2 底径:6.0 器高:6.5	見込み:沈線	灰白	灰白	胴下半~高台内無釉	良好		白碗 2類	V-4類	
	740	I29	II	26350	碗	口縁 ~胴	白磁	口径:(16.4)	見込み:沈線	灰白	灰白	胴下半無釉	良好		白碗 2類	V-4a類	内外面気泡
	741	H31, I30	II	26670 他	碗	口縁 ~胴	白磁	口径:(16.4)	内口縁:沈線	灰白	灰白		良好		白碗 2類	V-4a類	外面気泡
	742	G-H30	II	24800 他	碗	口縁	白磁	口径:(16.5)	見込み:沈線	灰白	灰白		良好		白碗 2類	V-4a類	
	743	G-J30	II	23659 他	碗	口縁 ~胴	白磁	口径:(16.0)	内口縁・見込み:沈線	灰白	灰白	胴下半無釉	良好		白碗 2類	V-4類办	

第15表 青磁・白磁・青白磁観察表

挿図 番号	掲載 番号	出土区	層	取上 番号	器種	部位	種別	法量 (cm)	文様	色調		施釉範囲	焼成	産地	永吉 分類	分類	備考
										胎土	釉色						
114	744	G31・32	I, II	28609 他	碗	口縁	白磁	口径:(16.4)	-	灰	オリーブ灰	胴下半無釉	良好		白碗 2類	V-4類	775と同一
	745	E32, F31	IIb	15890 他	碗	胴～ 底	白磁	底径:(6.0)	見込み:沈線	灰	オリーブ灰	胴下～高台無釉, 見込み部無釉	良好		白碗 2類	V-4類	774と同一
	746	K28・30・32	II	23769 他	碗	口縁 ～胴	白磁	口径:(17.4)	見込み:沈線	灰白	明オリーブ灰	胴下部無釉	良好		白碗 2類	V-4類	
	747	G31, J30	II	27490 他	碗	口縁 ～胴	白磁	口径:(18.6)	見込み:沈線	灰白	灰白	胴下部無釉	良好		白碗 2類	V-4類	
	748	J29・30	II	23596 他	碗	口縁 ～胴	白磁	口径:(17.1)	内:櫛描文	灰黄	灰オリーブ		普通		白碗 2類	V-4類か VII類	
	749	F31・32, K29	II, II a・b	23797 他	碗	口縁	白磁	-	内:櫛描文	灰白	浅黄		普通		白碗 2類	V-4b類	貫入
	750	H30	II	24797	碗	口縁	白磁	-	-	灰白	灰白		良好		白碗 2類	V-4類	
	751	F31, G30	II, IIb	-	碗	胴	白磁	-	内:櫛目文 見込み:沈線	灰白	灰白	胴下部～高台内 無釉	良好		白碗 2類	V類	
	752	K30	II	25249	碗	胴	白磁	-	内:櫛目文 見込み:沈線	灰白	灰白	高台無釉	良好		白碗 2類	V類	外面気泡
	753	L35	I	-	碗	底	白磁	底径:(6.2)	-	灰白	明オリーブ灰	胴下部～高台内 無釉	良好		白碗 2類	V類	
	754	J26	II	-	碗	底	白磁	-	-	灰黄	灰黄	高台無釉	普通		白碗 2類	V類	貫入, 被熱で 一部黒色化
	755	F31, J29	II, IIb	24306 他	碗	底	白磁	底径:(6.0)	-	灰白	灰白	胴下半～高台内 無釉	良好		白碗 2類	V類	
	756	I30・31, J30	I, II	28243 他	碗	胴～ 底	白磁	底径:(6.3)	見込み:沈線	灰白	灰白	胴下半～高台内 無釉	良好		白碗 2類	V類	
	757	G41, J34	I, IIa	9170 他	碗	底	白磁	底径:(5.5)	見込み:沈線	灰白	灰白	胴下半～高台内 無釉	良好		白碗 2類	V類	外面気泡
115	758	G31 H30・31 J29	II, IIb	24851 他	碗	口縁	白磁	口径:(17.0)	-	にぶい黄	灰白		良好		白碗 2類	V-4類か VIII類	貫入
	759	F30, G31・32 I30	I, II, IIb	36475 他	碗	口縁 ～胴	白磁	口径:(17.0)	-	灰白	灰白		良好		白碗 2類	V-4類か VIII類	
	760	F31・32	I	-	碗	口縁 ～胴	白磁	口径:(17.0)	見込み:沈線	灰白	灰白	胴下部無釉	良好		白碗 2類	V-4類か VIII類	外面気泡
	761	F・G32, I30	II, IIb	24086 他	碗	口縁	白磁	口径:(16.8)	-	灰黄	灰黄	胴下部無釉	良好		白碗 2類	V-4類か VIII類	貫入 外面気泡
	762	I29 J・K29・30	II, IIa	23762 他	碗	口縁	白磁	口径:(17.0)	内:沈線	灰白	灰白		良好		白碗 2類	V-4類か VIII類	
	763	E31	IIIa	16300	碗	口縁	白磁	口径:(17.2)	-	灰白	上部:灰白 下部:灰 口縁:灰白		良好		白碗 2類	V-4類か VIII類	外面気泡
	764	F31	IIb	37225	碗	口縁	白磁	口径:(18.8)	内:沈線	灰白	灰白		良好		白碗 2類	V-4類か VIII類	
	765	I31	II	28281	碗	口縁	白磁	口径:(15.2)	内:沈線	灰白	灰オリーブ		良好		白碗 2類	V-4類か VIII類	
	766	E30	IIb	36439	碗	口縁 ～胴	白磁	口径:(16.0)	内:沈線	灰白	灰白		良好		白碗 2類	V-4類か VIII類	
	767	K37	I, IIIa	24563	碗	口縁	白磁	口径:(16.2)	-	灰白	灰白		良好		白碗 2類	V-4類か VIII類	外面気泡
	768	F31	II	-	碗	口縁	白磁	口径:(16.0)	-	灰白	灰オリーブ		良好		白碗 2類	V-4類か VIII類	貫入 外面気泡
	769	F・G30	II, IIb	27466 他	碗	口縁	白磁	-	見込み:沈線	灰白	灰白	胴下部無釉	良好		白碗 2類	V-4類か VIII類	
	770	F31, I30	II, IIb	24119 他	碗	口縁	白磁	-	-	灰白	灰白	胴下部無釉	良好		白碗 2類	V-4類か VIII類	
	771	G30	II	23943	碗	口縁	白磁	-	内:沈線	灰白	灰白		良好		白碗 2類	V-4a類 かVIII類	
	772	J30, L35	III, IIIa	-	碗	口縁 ～胴	白磁	口径:(16.0)	内:沈線	灰白	灰白		良好		白碗 2類	V-4類か VIII類	外面気泡
	773	H31	II	-	碗	口縁 ～胴	白磁	-	内:沈線	灰白	灰白		良好		白碗 2類	V-4類か VIII類	外面気泡
	774	E・F31	I, IIIa	-	碗	口縁	白磁	口径:(17.0)	-	灰白	灰白		良好		白碗 2類	V-4類か VIII類	外面気泡
	775	F31	IIb	36794	碗	口縁	白磁	口径:(15.5)	-	灰オリーブ	灰白		良好		白碗 2類	V-4類か VIII類	
	776	H30, I29	II, IIa	24806 他	碗	口縁 ～胴	白磁	口径:(16.0)	見込み:内:沈線	灰白	灰白		良好		白碗 2類	V-4類か VIII類	気泡・貫入
	777	F32	IIb	36673	碗	口縁	白磁	口径:(16.6)	内:沈線	灰白	灰オリーブ		良好		白碗 2類	V-4類か VIII類	
778	F31	IIb	36793	碗	口縁	白磁	口径:(16.0)	-	灰白	灰オリーブ		良好		白碗 2類	V-4類か VIII類		
779	E32	IIIb	16489	碗	口縁	白磁	口径:(15.8)	内:沈線	灰白	灰白		良好		白碗 2類	V-4類か VIII類	外面気泡	
780	I30	II	26619	碗	口縁	白磁	口径:(16.0)	内:沈線	灰	灰		良好		白碗 2類	V-4類か VIII類		
781	F30, J29・30	II, IIb, III	24190 他	碗	口縁 ～胴	白磁	口径:(16.0)	内:沈線	灰白	灰白		良好		白碗 2類	V-4類か VIII類		
782	E30	IIb	36453	碗か 皿	口縁	白磁	-	-	灰白	灰オリーブ		良好		白碗 2類	V-2か II, III類		

第15表 青磁・白磁・青白磁観察表

挿図 番号	掲載 番号	出土区	層	取上 番号	器種	部位	種別	法量 (cm)	文様	色調		施釉範囲	焼成	産地	永吉 分類	分類	備考	
										胎土	釉色							
116	783	F30, J29	II, IIb	23648 他	碗	口縁	白磁	口径:(14.4)	内:沈線	灰白	灰白		良好		白碗 3類	VII-a類	貫入	
	784	J29, K30	II	23736 他	碗	口縁	白磁	口径:(16.0)	内:沈線	灰白	灰白		良好		白碗 3類	VII-a類	786と同一?	
	785	G43	IIa	9065	碗	口縁 ~ 胴	白磁	-	-	灰白	灰白~オリ ブ黄		良好		白碗 3類	VII-a類		
	786	J30	I	-	碗	口縁	白磁	口径:(16.0)	内:沈線	灰白	灰白		良好		白碗 3類	VII-a類	784と同一?	
	787	C27・28	II	-	碗	口縁	白磁	口径:(17.6)	-	灰白	灰白		良好		白碗 3類	VII-a類	外面気泡	
	788	H30, I31	II	24058 他	碗	口縁 ~ 胴	白磁	口径:(17.4)	外:二重圏線 内:草花文	灰白	オリブ黄		良好		白碗 3類	VII-b類	稜花碗? 内面目痕	
	789	H29	II	23358	碗	口縁 ~ 胴	白磁	-	内:草花文	灰白	灰白		良好		白碗 3類	VII-b類	790と同一	
	790	I・J31	I, II	28301 他	碗	口縁 ~ 胴	白磁	-	内:草花文	灰白	灰白		良好		白碗 3類	VII-b類	789と同一	
	791	E・F31	II, IIb	27684 他	碗	底	白磁	底径:(4.8)	-	浅黄	浅黄	胴下半~高台内 無釉	普通		白碗 3類	VII類	外面鉄分付着	
	792	H30	II	24888 他	碗	口縁	白磁	-	-	灰黄	灰白~灰オ リーブ	胴下部無釉	普通		白碗 3類	VIII-2類?	貫入, 気泡	
	793	G30・31	II	26524 他	碗	口縁	白磁	口径:(15.0)	-	灰黄	灰	胴下部無釉, 見込 み掻取	良好		白碗 3類	VIII-2類?	貫入, 高台剥 離	
	794	D32	IIb	15945	碗	口縁	白磁	口径:(15.5)	-	灰	灰オリーブ~ 灰白	胴下部無釉, 見込 み掻取	良好		白碗 3類	VIII-2類?		
	795	F・G31	II, IIb	28602 他	碗	口縁 ~ 胴	白磁	口径:(15.0)	-	灰	灰白		良好		白碗 3類	VIII-2類?		
	796	E30, F31	IIb	37449 他	碗	口縁	白磁	口径:(16.0)	内:沈線	灰白	灰白	胴下部は無釉	良好		白碗 3類	VIII-2類?		
	797	J38	IIIa	23088 他	皿	胴~ 高台	白磁	底径:5.9	-	灰白		豊付~高台内無 釉			白碗 3類		貫入, 断面に 砂(被熱?)	
	798	J30, K29	II	28137 他	碗	底	白磁	底径:(6.3)	見込み:沈線	灰黄	明緑灰	見込み輪状釉剥, 胴下部~高台内 無釉	良好		白碗 3類	VIII類	見込み重焼痕	
	799	J30	II	24098	碗	胴~ 底	白磁	底径:(6.7)	-	灰白	灰白	見込み輪状釉剥, 外面無釉	良好		白碗 3類	VIII類	見込み重焼痕	
	800	E21	II	19566	碗	口縁	白磁	口径:(14.0)	外:二重界線	灰白	灰白		良好		白碗 4類	IX類	口壳:浅黄	
	801	J30	II	23712	碗	口縁 ~ 胴	白磁	-	-	灰白	灰白		良好		白碗 4類	IX類	口壳:灰黄	
	802	K29	II	23788	碗	口縁	白磁	口径:(14.6)	内:沈線	灰白	灰白		良好		白碗 4類	IX類	口壳:浅黄	
	803	D21	II	19753	碗	口縁	白磁	口径:(11.8)	-	灰白	灰白		良好		白碗 4類	IX類	口壳:灰黄, スス	
	804	D32	IIIa	-	碗	口縁	白磁	口径:(11.2)	-	灰白	明オリーブ灰		良好		白碗 4類	IX類	口壳:灰白, スス	
	117	805	I30, J31	II	24742 他	皿	口縁	白磁	口径:(10.4)	-	灰白	オリブ黄	胴下半無釉	良好	広東	白皿 1類	VI-1A類	
		806	K29	II	25937	皿	口縁 ~ 胴	白磁	口径:(11.6)	-	灰白	灰白		良好		白皿 1類	森田D類	貫入
		807	J28	I	-	皿	口縁 ~ 胴	白磁	口径:(11.6)	-	灰白	灰白	胴下部無釉	良好		白皿 2類		貫入
		808	I40	Ia	-	皿	口縁 ~ 胴	白磁	-	-	灰白	灰白	胴下部無釉	良好		白皿 2類		
809		F30	I	-	皿	口縁 ~ 底	白磁	-	-	灰白	明緑灰	内外口縁付近施 釉	やや 良好		白皿 2類		貫入, スス	
810		F31	I	-	皿か	底	白磁	底径:(8.4)	-	灰白	灰白	内口縁~外面施 釉	やや 良好		白皿 3類		貫入, スス	
811		H30・33	I, II	24843 他	皿	口縁	白磁	口径:(10.8)	-	灰白	灰白	胴下半無釉	良好		白皿 3類	II類?		
812		F41	IIb	-	皿	口縁	白磁	口径:(11.4)	-	灰白	灰白		良好		白皿 3類	森田D類		
813		G22	IIa	18592	皿	口縁	白磁	口径:(9.6)	-	灰白	灰白	胴下部無釉	良好		白皿 3類	森田D類		
814		G31	II	27610	皿	口縁	白磁	口径:(9.4)	-	灰白	灰オリーブ		良好		白皿 4類	II類かIII 類		
815		I30	II	26646	皿	口縁	白磁	口径:(10.8)	内面:沈線	にぶい黄 橙~灰黄	灰白		普通		白皿 4類	II類かIII 類	貫入	
816		I30	II	24694	皿	底	白磁	底径:(4.6)	-	灰白	灰白	見込み輪状釉剥, 外面無釉	良好		白皿 4類	II類かIII 類	見込み目跡	
817		E・F・G31, H30	I, II, IIa	16044 他	皿	口縁 ~ 底	白磁	口径:(10.4) 底径:5.4 器高:2.2	-	灰白	灰白	胴下半~高台内 無釉	良好		白皿 4類	III-2類	内面胡麻	
818		F31	IIb	-	皿	口縁	白磁	口径:(11.0)	内面:圏線	灰白	灰白		良好		白皿 4類	III-2類	内面胡麻	
819		I29, K30	II, IIa	25256 他	皿	口縁 ~ 胴	白磁	口径:(10.0)	-	灰白	灰白		良好		白皿 4類	III類		
820		I30, J29	I, II	26650 他	皿	口縁	白磁	口径:(10.0)	内面:圏線	灰白	明オリーブ灰	見込み釉剥, 胴下 部無釉	良好		白皿 4類	III類		
821		I30	II	24090 他	皿	口縁	白磁	口径:(10.0)	-	灰白	灰白	見込み釉剥, 胴下 部無釉	良好		白皿 4類	III類		
822		L27	I	-	皿	口縁	白磁	口径:(12.0)	-	灰白	灰白	見込み釉剥, 胴下 部無釉	良好		白皿 4類	III類	貫入	

第15表 青磁・白磁・青白磁観察表

挿図 番号	掲載 番号	出土区	層	取上 番号	器種	部位	種別	法量 (cm)	文様	色調		施釉範囲	焼成	産地	永吉 分類	分類	備考	
										胎土	釉色							
117	823	G41	II a	9171	皿	口縁 ~胴	白磁	口径:(10.6)	-	灰黄	灰白	見込み釉剥, 胴下 部無釉	良好		白皿 4類	III類		
	824	J29	II	24196	皿	口縁	白磁	口径:(10.0)	見込み:沈線	オリーブ 黒	灰白	見込み釉剥, 胴下 部無釉	良好		白皿 4類	III類	貫入	
	825	D32	II	-	皿	底	白磁	底径:(5.0)	-	灰白	灰白	見込み輪状釉剥, 外面無釉	良好		白皿 4類	III類	内外重焼痕	
	826	I30・31	II	24722 他	皿	口縁	白磁	口径:(11.4)	内面沈線	灰白	灰白	見込み釉剥, 胴下 部無釉	良好		白皿 4類			
	827	I30, J29	II	23795 他	皿	口縁 ~胴	白磁	-	-	灰白	灰白	見込み釉剥, 胴下 部無釉	良好		白皿 4類			
	828	G30	II	23926 他	皿	底	白磁	底径:(4.6)	-	灰白	灰白	見込み輪状釉剥, 胴下部~高台内 無釉	良好		白皿 4類		見込み重焼の 砂, 貫入	
	829	F30・31・ 32, G30・ 31, H30	I, II, II b	23923 他	皿	口縁 ~底	白磁	口径:10.3 底径:2.6 器高:2.6	-	灰黄	オリーブ	胴下部~底部無 釉	良好	広東	白皿 5類	IV-1A類		
	830	D33	II	-	皿	口縁	白磁	-	見込み:草花文	灰	オリーブ黄		良好	広東	白皿 5類	IV-1A類	貫入	
	831	G30	II	23914	皿	胴~ 底	白磁	底径:(4.0)	見込み:沈線	灰白	オリーブ黄	胴下部~底部無 釉	良好	広東	白皿 5類	IV-1A類		
	832	I30, J31	I, II	24753 他	皿	胴~ 底	白磁	底径:3.4	-	灰白	オリーブ黄	胴下部~底部無 釉	良好	広東	白皿 5類	IV-1A類		
	833	F31	II b	36848	皿	底	白磁	底径:(3.2)	-		オリーブ黄	底部無釉	良好	広東	白皿 5類	IV-1A類		
	834	G31	II	27629	皿	口縁 ~胴	白磁	口径:(10.3)	-	灰白	オリーブ黄	胴下部無釉	良好	広東	白皿 6類	IV-1A類	薄釉	
	835	E21	II	19555	皿	底	白磁	底径:(5.4)	内面:草花文	灰・淡黄	灰オリーブ	底部無釉	良好	広東	白皿 6類	VII-II b類	内面に貫入	
	836	I41	II a	9201	碗	口縁 ~底	白磁	口径:(10.8)	見込み:沈線	灰白	灰	口縁釉剥	良好		白皿 7類	IX-1b, c 類	口禿:灰白	
	837	K29	I	-	碗	口縁	白磁	口径:(9.6)	見込み:沈線	灰白	灰白	口縁釉剥	良好		白皿 7類	IX類	口禿:灰黄	
	838	E22	II	19615	碗	口縁	白磁	口径:(8.4)	-	灰白	灰白	口縁釉剥, 胴下部 無釉	良好		白皿 7類	IX類	口禿:灰白	
	839	F31・32	I, II b	-	碗	口縁	白磁	口径:(10.6)	-	灰白	灰白	口縁釉剥	良好		白皿 7類	IX類	口禿:明黄褐	
	840	F31	II b	37180	碗	口縁	白磁	口径:(10.6)	-	灰白	灰オリーブ	口縁釉剥	良好		白皿 7類	IX類	口禿:灰白	
	841	E30	I	-	碗	口縁	白磁	口径:(11.8)	-	灰白	灰オリーブ	口縁釉剥	良好		白皿 7類	IX類	口禿:浅黄	
	842	F30	II b	36495	碗	口縁	白磁	口径:(11.6)	-	灰白	灰オリーブ	口縁釉剥	良好		白皿 7類	IX類	口禿:灰白	
	843	F31・32	II b	36768 他	碗	口縁	白磁	口径:(12.0)	-	灰白	灰白	口縁釉剥	良好		白皿 7類	IX類	口禿:明黄褐	
	844	F31	II b	36782	碗	底	白磁	底径:(6.0)	-	灰白	灰白	全面施釉	良好		白皿 7類	IX類		
	845	D31	II b	16159	皿	底	白磁	底径:(5.6)	-	灰白	灰白	底部無釉	良好		白皿 7類	IX-2類	底部目痕	
	118	846	G21	II a	18586	坏	口縁 ~底	白磁	口径:(8.8) 底径:(6.0) 器高:2.1	胴下部:突線	灰白	白	底部中央無釉	良好		白皿 8類	森田B類	
		847	E29	II b	36419	皿	口縁	白磁	口径:(9.4)	-	灰黄	灰白	胴下部一部無釉	良好		白皿 9類	森田D類	貫入
848		K37	II a	23241	皿	口縁	白磁	口径:(9.2)	-	灰黄	灰白	胴下部無釉	良好		白皿 9類	森田D類	貫入, 外面重焼痕	
849		L28	I	-	皿	口縁 ~胴	白磁	口径:(10.4)	-	暗灰黄	灰白	胴下部無釉	良好		白皿 9類	森田D類		
850		G22	II a	18600	皿	口縁	白磁	口径:(11.4)	-	灰白	灰白		良好		白皿 9類	森田D類	貫入	
851		J38	I	-	皿	口縁	白磁	-	-	灰黄	灰白	胴下部無釉	良好		白皿 9類	森田D類	貫入	
852		E41	I a	-	皿	口縁 ~胴	白磁	-	-	灰白	灰白	胴下半無釉	普通		白皿 9類	森田D類	貫入	
853		G33	I	-	皿	口縁 ~胴	白磁	口径:(12.7)	-	灰	灰白		良好		白皿 9類	森田D類		
854		J38	III a	22985	皿	口縁	白磁	口径:(10.9)	-	灰白	灰白		良好		白皿 9類	森田D類	貫入	
855		F32	II b	-	皿	口縁 ~底	白磁	口径:(9.0) 底径:(4.0) 器高:2.8	-	灰白	灰白	見込み輪状釉剥, 胴下半~高台内 無釉	良好		白皿 9類	森田D類	見込み砂目	
856		G31	II b	37035	皿	口縁	白磁	口径:(10.0)	内外:沈線	灰白	灰オリーブ	見込み釉剥, 胴下 半無釉	良好		白皿 9類	森田D類	外面スス	
857		H30・J29	II	23622 他	皿	口縁 ~底	白磁	口径:(10.7) 底径:(4.7) 器高:2.8	-	灰	灰オリーブ	見込み釉剥, 胴下 半無釉	良好		白皿 9類	森田D類	見込み・高台 重焼跡, 白泥, 外口縁付近小 窪付着	
858		J28	II	-	皿	口縁	白磁	口径:(10.4)	-	灰白	灰オリーブ		良好		白皿 9類	森田D類		
859		J28	I	-	皿	口縁	白磁	口径:(12.0)	内:圈線	白	灰白		良好		白皿 9類	森田D類	貫入	
860	J30	II	25170	皿	口縁 ~底	白磁	口径:10.6 底径:4.4 器高:2.9	-	浅黄	明オリーブ灰	見込み輪状搔取, 胴下半~高台内 無釉	良好		白皿 9類	森田D類	見込み・畳付 付近重焼跡, 白泥		

第15表 青磁・白磁・青白磁観察表

挿図 番号	掲載 番号	出土区	層	取上 番号	器種	部位	種別	法量 (cm)	文様	色調		施釉範囲	焼成	産地	永吉 分類	分類	備考	
										胎土	釉色							
118	861	D32	II	-	皿	底	白磁	底径:3.7	-	灰黄	灰白	胴下部~高台内 無釉	良好		白皿 9類	森田D類	貫入	
	862	J38	IIb	23004	皿	底	白磁	底径:3.8	-	灰白	灰白	胴下部~高台内 無釉	良好		白皿 9類	森田D類	貫入	
	863	D27	I	-	皿	底	白磁	底径:4.7	内:沈線	浅黄	灰白	見込み輪状釉剥, 胴下半~高台内 無釉	良好		白皿 9類	森田D類	貫入	
	864	K28	I	-	皿	底	白磁	底径:(4.4)	-	灰黄	灰白	胴下部~高台内 無釉	良好		白皿 9類	森田D類	貫入	
	865	I43	IIb	15611	皿	底	白磁	底径:4.0	-	灰黄	灰白	胴下部~高台内 無釉	良好		白皿 9類	森田D類	貫入	
	866	J38	I	-	皿	底	白磁	底径:3.4	-	灰白	灰白	胴下部~高台内 無釉	良好		白皿 9類	森田D類		
	867	I31	II	28161	皿	底	白磁	底径:(4.8)	-	灰白	灰白	胴下部~高台内 無釉	良好		白皿 9類	森田D類	貫入	
	868	E42	IIa	10039	坏	底	白磁	底径:4.0	-	灰白	灰白	胴下部~高台内 無釉	良好		白皿 9類	森田D類	目跡4か所 割高台	
	869	H22	II	-	不明	底	白磁	底径:4.4	-	灰白	灰白	胴下部~高台内 無釉	良好		白皿 9類		目跡2か所 割高台	
	870	K37	I	-	不明	底	白磁	底径:4.0	-	淡黄	灰白	胴下部~高台内 無釉	良好		白皿 9類		目跡2か所 割高台,貫入	
	871	J41	Ia	-	不明	底	白磁	底径:(4.4)	-	白	灰白	胴下部~高台内 無釉	良好		白皿 9類		目痕1か所	
	872	K29	I	-	不明	底	白磁	底径:4.0	-	灰白	灰白	胴下部~高台内 無釉	良好		白皿 9類		目痕4か所 貫入	
	873	G43	IIa	-	碗	口縁	白磁	口径:(12.0)	-	灰白	灰白		良好		白皿 10類	森田E類		
	874	D28	I	-	碗	口縁	白磁	口径:(13.2)	-	灰白	灰白		良好		白皿 10類	森田E類		
	875	E30	IIb	-	碗	口縁	白磁	口径:(14.7)	-	灰白	灰白		良好		白皿 10類	森田E類		
	876	L29	II	33888	皿	口縁 ~底	白磁	口径:(11.6) 底径:(5.8) 器高:2.5	-	灰白	灰白	豊付釉剥	良好		白皿 10類	森田E2類	口縁付近一部 溶解	
	877	G32	I	-	碗	胴 ~底	白磁	底径:(7.0)	-	灰白	灰白	豊付釉剥	良好		白皿 10類	森田E2類	釉剥:浅黄,高 台に砂付着	
	878	E29	I	-	坏	胴 ~底	白磁	底径:(6.2)	-	灰白	灰白	豊付釉剥	良好		白皿 10類	森田E2類	基筒底 釉剥:灰白	
	879	F31	I	-	皿	胴 ~底	白磁	底径:(7.0)	-	灰白	灰白	豊付釉剥	良好		白皿 10類	森田E2類	釉剥:浅黄	
	880	K31	I	-	皿	胴 ~底	白磁	底径:(7.0)	-	灰白	灰白	豊付釉剥	良好		白皿 10類	森田E2類	釉剥:灰白	
881	F31	I	-	皿	胴 ~底	白磁	底径:(6.7)	-	灰白	灰白	豊付釉剥	良好		白皿 10類	森田E2類	基筒底 釉剥:灰黄		
882	L27	I	-	皿	胴 ~底	白磁	底径:(3.2)	-	灰白	灰白	一部釉剥	良好		白皿 10類	森田E3類	基筒底 釉剥:浅黄		
119	883	I28	III	29792	坏	完形	白磁	口径:10.5 底径:4.5 器高:2.8	-	淡黄	浅黄~灰白	見込み輪状釉剥	良好			III-1類		
	884	I36	IIIa	29264	鉢	口縁	白磁	口径:(20.0)	-	灰黄	灰白		普通				磁州窯,貫入 大型製品?	
	885	I31	II	28186	鉢	底	白磁	底径:6.5	-	灰黄	灰白		普通				磁州窯,見込 目跡,貫入 大型製品?	
	886	I30	II	24726	壺類	頸	白磁	頸部:(6.6)	-	灰	明オリブ灰		良好				口縁に耳剥落 痕	
	887	D32-33 E31-32 F28-31 G28-29-30-33 H30, I29 J28-30, L35	I, Ib, II, II a・b・ IIIb	18822 他	壺類	胴下 ~底	白磁	最大径:(18.0) 底径:(10.0)	-	灰白	浅黄,一部赤	内面の胴下~底 に釉,豊付~高台 内一部施釉	良好					内面凹凸が目 立つ
	888	F30	IIb	36523	合子 (蓋)	上面 ~受	青白 磁	-	外:草花文型押し,菊弁 文	灰白	明緑灰	口縁付近無釉	良好				C~D期	型づくり
	889	F31	I	-	合子 (身)	胴~ 底	青白 磁	-	外:菊弁文	灰白	明緑灰	口縁付近無釉	良好				C~D期	型づくり
	890	E31	IIa	16028	合子 (身)	口縁	青白 磁	口径:(6.6)	-	灰白	明オリブ灰	蓋受部・胴下部插 取, 内面一部施釉	良好					挿取:にぶい 黄橙,白磁の 可能性
	891	G30	II	24926	合子 (身)	口縁 ~胴	青白 磁	-	-	灰白	灰白	外面無釉	良好					
	892	J33	I	-	蓋	肩~ 受け	青白 磁	底径:(5.6)	-	灰白	灰白		良好					貫入
	893	I34	I	-	壺	口縁	青白 磁	口径:(9.6)	屈曲部内面:沈線	灰白	明緑灰		良好					盤口壺?

第 16 表 染付観察表

挿図 番号	掲載 番号	出土 区	層	取上 番号	器種	部位	種別	法量 (cm)	文様	胎土 色調	釉薬 色調	施釉 範囲	焼成	産地	永吉 分類	分類	備考
	894	J37	I	-	碗	口縁	染付	-	外:牡丹唐草文 内:四方禪文	灰白	灰白	-	良好	-	-	b群	
	895	K29	I	-	碗	口縁	染付	-	外:界線2条,矢羽根状文 内:界線2条	灰白	灰白	-	良好	-	-	-	
	896	D32	II	-	碗	口縁	染付	-	外:界線上1条・下2条,波濤文帯 内:界線1条	灰白	灰白	-	良好	-	-	-	
	897	F32	I	-	碗	口縁	染付	-	外:下界線上1条・下2条,波濤文帯,牡丹 文 内:界線1条	灰白	灰白	-	良好	-	-	-	
	898	G32	I	-	碗	口縁	染付	-	外:界線上下2条,波濤文帯 内:界線2条	灰白	灰白	-	良好	-	-	-	
	899	G43	IIa	-	碗	口縁	染付	-	外:界線上下2条,列点文,蓮華文 内:界線2条	灰白	明緑灰	-	良好	-	-	-	
	900	K37	I	-	碗	口縁	染付	-	外:界線1条,牡丹唐草文 内:界線1条	灰白	灰白	-	良好	-	-	-	
	901	L28	I	-	碗	口縁	染付	-	外:波濤文,唐草文 内:界線1条	灰白	灰白	-	良好	-	-	-	
	902	F31	I	-	碗	口縁	染付	-	外:花文 内:界線1条	灰黄	灰黄	-	良好	-	-	-	
	903	I38	IIb	-	碗	口縁	染付	-	外:唐草文? 内:界線1条	灰白	灰白	-	良好	-	-	-	
	904	E29	I	-	碗	胴	染付	-	外:雷文帯,芭蕉葉文	灰白	明緑灰	-	良好	-	-	-	
	905	H21	I	-	碗	胴	染付	-	外:雷文帯?,芭蕉葉文(波濤文?)	灰白	灰白	-	良好	-	-	-	
	906	D27	I	-	碗	底	染付	底径:(6.4)	胴:蔓唐草文,界線2条 腰:界線1条 見込み:圈線2条,花文	灰白	灰白	畳付釉剥	良好	-	-	-	
121	907	H35	I	-	碗	底	染付	底径:(5.0)	腰:界線1条 高台:界線2条 胴:不明文 見込み:不明文字	灰白	灰白	畳付釉剥	良好	-	-	-	
	908	G32	I	-	碗	底	染付	底径:(7.0)	高台:界線2条 胴:渦状文	灰白	灰白	畳付釉剥	良好	-	-	-	
	909	K25	I	-	碗	底	染付	底径:(7.0)	胴:連弁文 見込み:圈線1条,法螺貝文	灰白	灰白	畳付釉剥	良好	-	-	-	
	910	H32	I	-	碗	底	染付	底径:(5.6)	腰-高台:界線1条 見込み:圈線1条,法螺貝文	白	明青灰	畳付釉剥	良好	-	-	-	
	911	F31	I	-	皿	口縁	染付	口径:(14.0)	外:界線1条,唐草文 内口縁:界線1条 見込み:界線1条	灰白	灰白	-	良好	-	-	-	
	912	E29	I	-	皿	口縁	染付	口径:(10.0)	外:界線1条 内口縁:四方禪文帯 見込み:界線1条	灰白	灰白	-	良好	-	-	-	
	913	F31	I	-	皿	口縁	染付	-	外口縁・腰:界線1条 内口縁:四方禪文帯 胴内面:圈線2条	灰白	灰白	-	良好	-	-	-	
	914	G32	I	-	皿	底	染付	底径:(3.0)	外:芭蕉葉文,界線2条 見込み:圈線1条,唐草文	灰白	灰白	畳付釉剥	良好	-	-	-	碁笥底
	915	D- E42	I, IIa	-	皿	底	染付	底径:(2.6)	外:芭蕉葉文 胴内:連点文,界線2条 見込み:菊花文	灰白	明青灰	畳付釉剥	良好	-	-	-	碁笥底,底部砂目跡
	916	I26	II	-	皿	底	染付	底径:(3.4)	見込み:圈線2条,唐草文	灰黄	灰白	底部釉剥	良好	-	-	-	碁笥底,見込布跡,畳付・ 見込砂目跡
	917	H30	I	-	皿	底	染付	底径:(8.0)	腰:圈線2条 見込み:花樹文	灰白	灰白	畳付釉剥	良好	-	-	-	
	918	D26	I	-	皿	底	染付	底径:(12.0)	見込み:圈線2条,法螺貝文	灰白	灰白	畳付釉剥	良好	-	-	-	

第17表 中国陶器観察表

挿図 番号	掲載 番号	出土区	層	取上 番号	器種	部位	種別	口径 (cm)	調整		色調		胎土					焼成	備考	
									外面	内面	外面	内面	白石	茶石	黄白 石	黒石	赤茶 石			
122	919	F31, G42, J29・30, K29・30・36, L28・29	I, II, IIa・b, III, IIIa	23761 他	壺	口縁 ～底	中国 陶器	口径:9.8 底径:7.8 器高:20.6 胴最大径:15.4	ろくろ	ろくろ	釉:暗オリーブ	釉:暗オリーブ	○						良好	褐釉, 外面に凹線3条 底部目跡
	920	D32	II b	15941	壺	口縁	中国 陶器	口径:(15.6)	-	-	釉:暗オリーブ	釉:オリーブ 黄	○				○	良好	褐釉, 口縁内砂目跡	
	921	I41	II a	9191	壺	口縁	中国 陶器	口径:(7.2)	横ナデ	横ナデ	釉:灰褐	釉:灰褐	○				○	良好	褐釉, 釉葉比熱変色 胎土:橙	
	922	E31, F31～ 33, G31・ 32, H29・ 32, I30	I, II, II a・b	36581 他	壺	口縁 ～胴	中国 陶器	口径:(11.2)	丁寧な横ナ デ	丁寧な横ナ デ	にぶい黄橙 釉:淡黄	にぶい黄橙 釉:淡黄	○	○			○	普通	褐釉, 釉葉比熱変色 頸部凹線	
	923	F31	I	-	壺	肩	中国 陶器	-	横ナデ	横ナデ	灰白 釉:黒褐	灰白	○			○	良好	褐釉, 外面釉垂 肩部沈線2条		
	924	G・H30, I29	I・II	23393	壺	肩～ 胴	中国 陶器	最大径:13.6	横ろくろ	横ろくろ	釉:オリーブ 黒	浅黄胡麻	○	○		○	良好	四耳壺, 外面施釉		
	925	E31, F31 G30・31 H30・31	II, II b, III	16020 他	壺	胴～ 底	中国 陶器	最大径:(26.0) 底径:(10.6)	縦ナデ	ろくろ	釉:濁灰緑	オリーブ黄	○			○	良好	底部無釉 胎土:灰～にぶい橙		
	926	G43	I	-	壺	胴～ 底	中国 陶器	底径:(7.0)	ろくろ	-	暗灰黄 釉:明黄褐	暗灰黄	○	○			良好	褐釉, 外面釉垂		
	927	D32, E31・ 32, F31・ 32, G32, I38 J29, K30	I, II, II a・b, III a	11389 他	鉢	口縁 ～胴	中国 陶器	口径:(23.0)	横ナデ	横ナデ	釉:黄褐	にぶい黄	○	○			良好	肩部沈線, 口縁内砂目 外面光沢あり		
	928	E30, F31, G30, H30・31, I31	I, II, II b	28375 他	鉢	口縁 ～胴	中国 陶器	肩部最大径: (23.8)	-	-	釉:オリーブ 灰	釉:オリーブ 灰	○	○			良好	外面中央砂目2か所 内外光沢あり 口唇部欠損		
	929	E27, G41・42	I	18076	壺	底	中国 陶器	底径:8.8	横方向ヘラ ナデ	横方向ヘラ ナデ	にぶい褐 釉:オリーブ	にぶい褐 釉:オリーブ	○				良好	褐釉, 部分的に釉残 基筋底粘土目跡4か所		
	930	G41	II a	9165	皿	底	中国 陶器	底径:(3.8)	底:糸切	横ナデ	釉:暗オリーブ	釉:暗オリーブ	○	○		○	良好	緑釉, 内外とも粘土目痕 4か所		
931	H31	II	28424	碗	底	中国 陶器	底径:3.0	ろくろ	-	褐灰	釉:黒	○	○			良好	建窯産天目碗 内面釉厚く一部褐釉			
123	932	F31, I29, J28・29, K29	I, II	23552 他	甕	肩	中国 陶器	頸部径:19.7	格子叩き→ 縦・横・斜ナ デ	同心円当具 ・条痕→ ヘラナデ	灰	灰 頸部:にぶい 赤褐	○	○	○		良好	頸部付近に叩跡薄く残 存 無頸壺型甕		
	933	I29	II	24658	甕	胴	中国 陶器	-	格子叩き又 は条痕 →ナデ	同心円当具	極暗赤褐	黒褐	○		○	○	良好	光沢あり		
	934	G41	II a	9157	甕	胴	中国 陶器	-	格子叩き又 は条痕 →ナデ	同心円当具	極暗赤褐 釉:にぶい黄	黒褐 釉:にぶい黄	○		○	○	良好	内外施釉, 光沢あり		
	935	E31	II a	16050	甕	胴	中国 陶器	-	格子叩き又 は条痕 →ナデ	同心円当具	極暗赤褐 釉:にぶい黄	黒褐 釉:にぶい黄	○		○	○	良好	内外施釉, 光沢あり		
	936	D31	III	15980	甕	胴	中国 陶器	-	格子叩き又 は条痕 →ナデ	同心円当具	極暗赤褐 釉:にぶい黄	黒褐 釉:にぶい黄	○		○	○	良好	内外施釉, 光沢あり		
	937	F42	II a	9636	甕	胴	中国 陶器	-	格子叩き又 は条痕 →ナデ	同心円当具	極暗赤褐 釉:にぶい黄	黒褐 釉:にぶい黄	○		○	○	良好	内外施釉, 光沢あり		
	938	D31	II	-	甕	胴	中国 陶器	-	格子叩き又 は条痕 →ナデ	同心円当具	極暗赤褐 釉:にぶい黄	黒褐 釉:にぶい黄	○		○	○	良好	内外施釉, 光沢あり		

第 18 表 土製品観察表

挿図 番号	掲載 番号	出土 区	層	取上 番号	器種	部位	種別	法量 (cm)	調整		色調		胎土						焼成	備考	
									外面	内面	外・内面	白石	茶石	黄白石	石英	灰石	黒石	輝石			
124	939	D21	II	17964	土鍾	完形	土製品	径:2.9 長さ:3.3 孔径:1.0	ヘラナデ		灰白		○		○	○		○	○	普通	重さ:29 g
	940	I30	I	-	円盤形 土製品	完形	土製品	径:2.3 厚:0.8			灰白									普通	磨耗
	941	E20	II	-	円盤形 土製品	完形	土製品	径:1.8 厚:0.7	ミガキ	ミガキ	灰白									普通	坏転用
	942	H29	II	26403	円盤形 土製品	完形	土製品	径:3.4 厚:1.2	打欠整形		灰白		○					○	○	普通	坏転用
	943	J28	II	23572	円盤形 土製品	-	土製品	径:7.5 厚:0.9	丁寧なミガキ 底:ヘラ切		灰白							○	○	普通	坏転用
	944	H30	II	24861	円盤形 土製品	-	土製品	径:11.0 厚:0.8			灰白	○						○	○	普通	磨耗
	945	H36	II b	29063	円盤形 土製品	-	土製品	径:7.5 厚:0.9	打欠ミガキ 底:ヘラ切		灰白	○						○	○	普通	坏転用, 磨耗
	946	H30	II	24848	紡錘車	完形	土製品	径:6.5~7.3 厚:0.5~0.9 孔径:0.4	打欠→丁寧な ミガキ 底:糸切		外:にぶい赤橙~橙 内:橙		○		○				○	普通	坏転用
	947	G29	II	24582	紡錘車	完形	土製品	径:8.4~9.1 厚:1.0 孔径:0.7	打欠→丁寧な ミガキ		灰色		○		○					普通	内面コゲ (灯明皿に転用?)
	948	L30	II	33872	繻羽口	先端	土製品	-	ヘラナデ	ヘラナデ	外:暗灰 内:赤	○		○	○					普通	小礫含む, 外面鉄滓附着
	949	J30	II	25131	繻羽口	先端 付近	土製品	孔径:3.0程度	ヘラナデ	ヘラナデ	外:暗灰 内:橙~赤黒	○		○	○	○				普通	小礫含む, 外面鉄滓附着
	950	I30	II	26660 他	繻羽口	先端	土製品	孔径:2.8以上	ヘラナデ	ヘラナデ	外:灰白~暗灰 内:橙~赤黒	○		○	○	○				普通	小礫含む, 外面鉄滓附着
	951	F31	II b	37098	繻羽口	先端	土製品	-	ヘラナデ	ヘラナデ	外:灰 内:淡赤橙		○		○	○				普通	小礫含む, 外面一部鉄滓 附着

第19表 石器・石製品観察表

挿図 番号	掲載 番号	出土区	層	取上番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
125	952	I30・31	II	24721・28218	滑石製石鏃	滑石	-	-	-	179.4	口縁～鏃
	953	I30	II	24697	滑石製石鏃	滑石	-	-	-	105.0	鏃
	954	F32	II a	11404・28360	滑石製石鏃	滑石	-	-	-	112.4	鏃
	955	E31	II a	16303	滑石製石鏃	滑石	-	-	-	140.8	口縁～鏃
	956	I31	II	28280	滑石製石鏃	滑石	-	-	-	36.4	口縁
	957	J29	II	25114	滑石製石鏃	滑石	-	-	-	87.8	口縁～鏃
	958	F30	II	37389	滑石製石鏃	滑石	25.0	-	-	61.6	口縁
	959	F31	II	36790・39243	滑石製石鏃	滑石	-	-	-	34.8	口縁・穿孔途中
	960	G31	II	26494	滑石製石鏃	滑石	-	-	-	60.7	口縁
	961	F26	I b	18371	滑石製石鏃	滑石	-	-	-	76.2	胴部
	962	J28	II	25223	滑石製石鏃	滑石	-	(16.5)	-	101.6	底部
963	F31	II	37153	滑石製石鏃	滑石	-	(17.4)	-	69.1	底部	
964	F31	II	27515	滑石製石鏃	滑石	-	-	-	66.5	底部	
126	965	G31	II	28598	滑石製石製品	滑石	9.7	6.3	3.0	181.7	
	966	H38	II a	13657	滑石製石製品	滑石	4.2	3.9	1.6	21.2	
	967	G32	II b	39356	滑石製石製品	滑石	1.9	1.5	1.3	4.1	バレン状
	968	F31	II b	39444	滑石製石製品	滑石	2.9	2.2	1.0	4.6	バレン状
	969	G30	II	23949	滑石製石製品	滑石	3.0	1.9	1.2	6.7	
	970	I36	I	2014・296	滑石製石製品	滑石	9.9	8.4	2.4	278.8	
	971	G31	II	28075	滑石製石製品	滑石	6.9	2.7	1.7	31.4	穿孔
	972	J31	I	-	滑石製石製品	滑石	3.4	4.5	1.1	20.7	穿孔
973	F31	II b	39245	滑石製石製品	滑石	4.4	6.2	1.9	50.4	穿孔	
127	974	F31	II b	36757	滑石製石製品	滑石	5.0	4.9	2.6	108.5	
	975	H29	II	26422	滑石製石製品	滑石	3.5	4.8	1.8	46.6	
	976	F31	II b	36744	滑石製石製品	滑石	7.4	4.9	1.5	64.8	
	977	J28	II	23544	滑石製石製品	滑石	7.0	4.8	1.9	81.4	
	978	G30	II	24930	滑石製石製品	滑石	6.8	2.1	1.8	34.2	
	979	J29	II	-	滑石製石製品	滑石	5.1	1.9	1.6	18.0	
	980	F30	II	27468	滑石製石製品	滑石	3.5	2.2	1.9	14.3	
	981	H43	II a	-	滑石製石製品	滑石	2.3	2.0	1.0	7.9	
	982	D32	II	-	滑石製石製品	滑石	3.1	1.4	0.7	3.3	
	983	J29	II	-	滑石製石製品	滑石	3.2	1.8	0.8	6.9	
	984	E32	I	18359	滑石製石製品	滑石	4.8	8.1	1.7	88.0	線刻画
128	985	G26	II	19251	砥石	砂岩	(14.3)	(11.4)	(9.4)	2,390.8	
	986	D20	II	19789	砥石	砂岩	(8.6)	8.7	7.9	781.4	
	987	J28	II	23849	砥石	砂岩	(12.3)	(6.4)	3.9	520.6	
129	988	F29, G32, H27	I, II, II b	23501・18506・36930	砥石	砂岩	(11.5)	(5.6)	(5.0)	526.7	
	989	H37	II a	13538	砥石	砂岩	(8.1)	4.3	4.7	277.2	
	990	J28	II	23575	砥石	流紋岩	(3.8)	(6.1)	(5.0)	145.5	
	991	J32	I	-	砥石	流紋岩	(5.80)	3.10	(3.70)	78.7	
	992	G24	I	-	砥石	流紋岩	7.50	7.50	2.90	251.6	天草
	993	F27	I	-	砥石	流紋岩	(7.5)	(7.20)	(3.90)	247.8	天草
	994	L35	I	31585	砥石	流紋岩	(10.60)	(7.00)	(2.50)	224.8	天草
	995	K29	II	23810	砥石	砂岩	(5.6)	8.30	(2.2)	150.4	
	996	D28	II b	17175	砥石	砂岩	(8.3)	(6.3)	2.2	159.1	
	997	E27	I	18094	砥石	凝灰岩	6.9	7.5	2.0	92.1	
	998	G30	II	24896	砥石	砂岩	(5.1)	4.2	1.1	27.0	
130	999	E32	II a	11418	砥石	凝灰岩	(5.2)	3.2	1.2	21.6	
	1000	H30	II	-	砥石	砂岩	(4.1)	(4.2)	(1.1)	28.1	
	1001	D20	II	17967	砥石	頁岩	(4.1)	3.1	(0.9)	17.5	
	1002	G43	II a	9094	砥石	砂岩	(4.5)	2.9	0.8	20.1	
	1003	H30	II	24047	砥石	砂岩	(5.2)	3.5	0.9	28.3	
	1004	G30	II	26541	砥石	砂岩	(5.9)	(3.9)	(2.0)	64.1	
	1005	G32	II b	36902	砥石	砂岩	(6.40)	3.30	1.20	39.1	
	1006	J28	I	-	砥石	砂岩	(4.50)	(2.80)	(1.20)	24.5	
	1007	K27	II	23835	手水鉢	凝灰岩	15.7	9.4	4.3	660.0	
	1008	D29	II	17142	軽石製品	軽石	17.6	10.5	5.9	229.0	
	1009	H27	I	17893	軽石製品	軽石	12.0	4.8	2.5	51.7	
	1010	G31	II	27555	軽石製品	軽石	7.1	4.6	2.6	31.4	
	1011	G31	II	27637	軽石製品	軽石	6.9	5.1	2.8	36.4	

第 20 表 鉄製品観察表

挿図 番号	掲載 番号	出土区	層	取上番号	器種	部位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
132	1012	H21	II	21023	不明	刃先	(4.8)	2.3	2.5	7.2	薄い作り 背部は鎌の背のように外反
	1013	I29	II a	29403	刀子	柄～刃部	9.8 柄1.8	1.1 柄0.7		24.3	先端欠損
	1014	K37	III a	23234	刀子	刃	(5.3)	1.4	0.2	8.5	
	1015	K28	II	24398	刀子	刃	(4.8)	1.8	0.3	4.5	
	1016	I29	II	24939	小刀	刃先欠損	(13.7) 柄3.5	2.5 柄1.2～1.5	0.4 柄0.35	38.2	
	1017	L28	II	33912	鎌	柄部一部欠損	(5.5) 柄0.3	(2.5) 柄0.8	-	44.5	想定最大幅3.3cm長さ5.5cm以上
	1018	H29	II	23339	鎌	完形	4.3	1.6	0.5	7.2	
	1019	E31	II b	16181	鎌	完形	(6.55)	1.3	0.5 鏑0.9 茎0.3	8.2	
	1020	H43	II b	14179	鎌	完形	8.0	0.9	0.4、茎0.6	12.4	
	1021	H30	II	26569	鎌	先端欠損	(8.0)	0.5	0.8	9.6	
	1022	H30	II	26569	鎌	先端欠損	(3.9)	0.7	0.6		
	1023	H30	II	26590	鎌	基部欠損	8.9	0.8	0.8	10.4	基部は径0.3cm
	1024	E21	II	19587	鎌	茎部	(6.7)	0.5	0.5	4.3	基部は径0.3cm
	1025	G22	II a	18616	棒状鉄製品	柄部？(折れ)	4.5	0.5	0.5	3.9	
	1026	G29	II	24581	棒状鉄製品		4.4	0.6	0.3	3.1	
	1027	J28	II	23549	環	完形	外径約4.0	内径2.0～2.2	0.8	14.3	内外ともに錆進行
	1028	I29	II	24678	板状鉄製品		3.0～7.0	6	0.9	16.1	
	1029	F41	II a	9878	鉄製品	茎わずかに欠損	16.6	0.8	0.8	38.6	刃部幅0.6cm厚さ0.5cm茎部幅0.5cm厚さ0.5cm
	1030	I30	II	26668	釘？		4.0	0.6	0.8	2.9	基部は径0.4cm
1031	D21	II	19767	不明		2.7	1.8	0.7	6.2		
1032	E31	II a	16309	鉄製品	完形	3.9	1	1.1	7.9	くさび状	
1033	I27	I	18827	椀型滓	完形	直径9.5×10.0		4	478.9		

第 21 表 渡来銭観察表

挿図 番号	掲載 番号	出土区 (遺構)	層	取上番号	器種	分類	時期	初鑄年	書体	背面	銭径 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
133	1034	J35	III a	-	渡来銭	不明	-	-	-	-				
	1035	J35	III a	-	渡来銭	不明	-	-	-	-				
	1036	J35	III a	-	渡来銭	不明	-	-	-	-				欠損
	1037	I29	II b	25405	渡来銭	開元通寶	唐	960年	真書	-	24.2	1.1	2.2	
	1038	I29	II b	25406	渡来銭	至道元寶	北宋	995年	行書	-	24.9	1.3	1.8	1/8欠損
	1039	I29	II b	25408	渡来銭	嘉祐通寶	北宋	1056年	真書	-	25.1	1.0	1.5	
	1040	I29	II b	25407	渡来銭	元祐通寶	北宋	1086年	篆書	-	24.9	1.1	2.3	
	1041	I29	II b	25409	渡来銭	元豊通寶		1078年	篆書	-	24.0	1.2	2.5	朱付着
	1042	(SD33)	-	29791	渡来銭	元祐通寶	北宋	1086年	真書	-	(22.9)	1.1	1.3	裏面木片？付着
	1043	F25	I	18024	渡来銭	大觀通寶		1107年	真書	-				

第 22 表 近世遺構出土遺物観察表

挿図 番号	掲載 番号	出土区	層	取上 番号	器種	部位	分類	法量 (cm)	調整	胎土色調	釉の色調	施釉範囲	焼成	備考
137	1044	SD1	①	24479	甕か壺	胴～底	近世陶器	底径:(22.0)	ろくろ	明赤褐	オリーブ黒	-	良好	薩摩(苗代川系)
	1045	SD4	①	-	坏	底部	土師器	底径:(7.6)	横ナデ	淡黄	-	-	普通	
	1046	SD4	①	-	鉢	口縁	東播系	-	ヘラ横ナデ	灰白, 外口縁:褐灰	-	-	普通	軟質
	1047	SD4・F24	I	-	灯明皿	口縁	近世陶器	口径:(11.2)	横ナデ	灰・灰赤	黄褐	-	良好	薩摩(龍門司系)
	1048	F24・G25	I	19333 他	皿	胴～高台	青磁	底径:(7.2)	-	灰黄, 高台付 近:赤橙	オリーブ灰	外底中央釉剥	良好	龍泉窯, 厚い釉, 内外貫入 青皿2類
	1049	SD4・F24	I	-	碗	底部	青磁	底径:(6.2)	-	灰白	明緑灰 釉:透明	-	良好	青碗Ⅲ類
	1050	SD5	-	-	皿	口縁	青磁	-	-	灰白	オリーブ灰	-	良好	龍泉窯
144	1051	SD4・F24	I	-	碗	口縁	白磁	-	-	灰白	灰白 釉:透明	-	良好	
	1073	SK4・J33	①・ I	22954 他	土瓶	注ぎ口	陶器	-	-	褐	オリーブ黒	内面接合付近無 釉	良好	薩摩(苗代川系) 同一個体片1点
144	1074	SK4・J26	①・ II	22953 他	摺鉢	口縁～底	陶器	底径:(12.0)	-	にぶい赤褐	オリーブ黒	内面上部無釉	良好	薩摩(苗代川系) 内面・底部目跡
146	1089	P1	-	2398	蓋	受欠損	近世陶器	底径:(9.2)	ナデ	にぶい橙	外:灰 内:黄灰	外面施釉	良好	薩摩(龍門司)

第 23 表 近世遺構出土銭観察表

挿図 番号	掲載 番号	遺構 番号	層位	取上 番号	器種	分類	背面	銭径 (cm)	厚さ (cm)	重さ (cm)	備考	
141	1053	SK162	-	23865	古銭	寛永通寶	古	-	25.3	1.2	2.5	
	1054		-	23865	古銭	寛永通寶	新	-	24.7	1.3	3.3	
	1055		-	23865	古銭	寛永通寶	新	-	23.3	1.3	2.8	
	1056		-	23865	古銭	寛永通寶	新	文	25.3	1.5	4.0	
	1057		-	23865	古銭	寛永通寶	新	-	23.8	1.1	2.8	
	1058		-	23865	古銭	寛永通寶	新?	-	24.7	1.2	2.5	
142	1059	SK163	-	-	古銭	寛永通寶	新?	-	22.3	1.0	1.5	
	1060		-	-	古銭	寛永通寶	新	文	25.2	1.5	3.1	
	1061		-	-	古銭	寛永通寶	新	文	25.2	1.6	3.6	繊維付着
	1062		-	-	古銭	寛永通寶	新	-	23.4	1.1	2.4	
	1063		-	-	古銭	寛永通寶	新?	-	23.7	1.3	2.9	
	1064		-	-	古銭	寛永通寶	新	-	22.9	1.3	1.6	繊維付着
143	1065	SK164	-	23864	古銭	寛永通寶	新	-	24.3	1.4	2.6	
	1066		-	-	古銭	寛永通寶	古	-	24.9	1.1	3.1	
	1067		-	-	古銭	寛永通寶	古	-	24.2	1.3	3.7	
	1068		-	-	古銭	寛永通寶	新	-	23.2	1.0	2.6	
	1069		-	23866	古銭	寛永通寶	新	-	24.6	1.5	3.2	
	1070		-	23866	古銭	寛永通寶	新	-	24.3	1.1	2.4	
144	1071	SK165	-	23866	古銭	寛永通寶	新	-	23.3	1.1	2.5	
	1072		-	23866	古銭	寛永通寶	新	-	23.7	1.1	2.6	
	1075		-	-	古銭	寛永通寶	古	-	25.2	1.3	3.1	
	1076		-	-	古銭	寛永通寶	新	-	23.6	1.3	3.3	
	1077		-	-	古銭	寛永通寶	新	文	25.0	1.6	4.2	
	1078		-	-	古銭	寛永通寶	新	-	23.6	1.3	2.5	
145	1079	SK167	-	-	古銭	寛永通寶	新	元	22.1	1.5	2.7	
	1080		-	23862	古銭	寛永通寶	新	-	23.3	1.2	2.9	
	1081		-	23862	古銭	寛永通寶	古?	-	23.5	1.1	2.2	
	1082		-	-	古銭	寛永通寶	古	-	24.4	1.2	3.1	
	1083		-	-	古銭	寛永通寶	新?	-	22.3	1.0	1.9	
	1084		-	-	古銭	寛永通寶	新	-	23.2	1.3	2.5	
145	1085	-	23863	古銭	寛永通寶	新	-	24.2	1.5	3.6		
	1086	-	23863	古銭	寛永通寶	新?	-	22.5	1.3	2.5		
	1087	-	-	古銭	寛永通寶	新	文	25.1	1.2	3.5		
	1088	-	-	古銭	寛永通寶	古	-	23.9	1.1	2.8		

第24表 近世出土遺物観察表

挿図番号	掲載番号	出土区	層	取上番号	器種	部位	分類	法量 (cm)	文様	胎土色調	釉薬色調	施釉	産地	焼成	備考
147	1090	G43	I	-	碗	口縁	磁器	-	内: 圏線, 不明文	白	青		肥前系	良好	青磁釉, 18C中頃
	1091	I33	I	-	碗	口縁	磁器	-	外: 不明文	灰白	透明		肥前系	良好	18C中頃
	1092	J28	I	-	碗	底	磁器	底径: (4.2)	見込み: 「長命富貴, 金玉満堂」, 帯状文 高台: 圏線2条 高台内: 「長命富貴」	白	透明		肥前系	良好	18C中頃
	1093	H32	I	29654	碗	口縁 ~ 胴	磁器	口径: (10.0)	外: 草花文	灰白	透明		肥前系 (波佐見)	良好	18C中頃
	1094	G41	I	-	碗	口 ~ 胴下	磁器	口径: (11.0)	内: 圏線 外: 桜開山水文	灰白	透明		肥前系	良好	18C後半
	1095	G33	I	-	碗	口縁	磁器	-	内: 圏線	白	透明		肥前系	良好	18C後半
	1096	G25	V	-	碗	口縁	磁器	-		黄白	透明		薩摩	良好	18C後半
	1097	F43	IIa	-	筒型碗	口縁	磁器	-	内: 四方禰文	黄白	透明		肥前系	良好	18C後半
	1098	I33	I	-	筒型碗	口 ~ 胴下	磁器	口径: (8.0)	内: 四方禰文 外: 圏線, 山水文	白	透明		肥前系	良好	18C後半
	1099	D24	II	-	筒型碗	口 ~ 胴下	磁器	口径: (8.0)	外: 草花文	白	透明		肥前系	良好	18C後半
	1100	E43	IIa	9849	筒型碗	胴中 央	磁器	-	腰: 圏線2条	灰黄	灰白	外面釉切4か所	肥前系	良好	18C後半
	1101	D19	I	-	筒型碗	底	磁器	底径: (5.2)	内外: 圏線	灰	透明		肥前系	良好	18C後半
1102	F24	I	-	筒型碗	底	磁器	底径: (3.9)	外: 圏線	灰白	透明		肥前系	良好	18C後半	
148	1103	J32	I	-	端反碗	底	磁器	底径: (4.8)		灰	透明	見込み 蛇の目釉刺	肥前系	良好	19C初~前半
	1104	J37	I	-	端反碗	底	磁器	底径: (4.8)	見込み: 圏線, 岩波文	白	透明		薩摩	良好	19C初~前半
	1105	D27, E43	I, IIa	-	端反碗	底	磁器	底径: (3.8)		白	透明	見込み 蛇の目釉刺	薩摩	良好	19C初~前半
	1106	F41	I	-	端反碗	底	磁器	底径: 4.6		白	透明	見込み 蛇の目釉刺	薩摩	良好	19C初~前半
	1107	G25	I	19364	端反碗	ほぼ 完形	磁器	口径: 10.6 底径: 3.8 器高: 5.4	外: 山水文	白	透明	見込み 蛇の目釉刺	薩摩	良好	19C初~前半 見込み砂目
	1108	H35	I	-	碗	口縁 ~ 胴下	磁器	口径: (7.0)	-	白	透明		薩摩	良好	19C初~前半
	1109	C27・28	I	-	碗	胴 ~ 高台	陶器	底径: 4.6	-	黄褐・暗 赤褐	黄みを含む 黒	分厚い釉, 胴下~高台無釉	肥前	良好	16C末~17C初
	1110	I28	I	-	碗	底	陶器	-	-	黄灰	外: 銅緑 内: 透明	底面無釉	肥前系 (内野山系)	良好	17C後半~18C前半
	1111	C12	I	-	碗	口縁	陶器	-	-	淡黄	透明		肥前系	良好	
	1112	H31	I	-	碗	口縁	陶器	-	-	淡黄	透明		肥前系	良好	皿の可能性
	1113	D27	I	-	碗	胴 ~ 高台	陶器	底径: 4.2	-	浅黄	赤黒	畳付無釉, 見込み 蛇の目釉刺	薩摩 (龍門司)	良好	
	1114	J26	I	17937 他	碗	ほぼ 完形	陶器	口径: 11.5 底径: 4.5 器高: 6.0	-	にぶい 赤褐	暗赤灰	畳付無釉, 見込み 蛇の目釉刺	薩摩 (龍門司)	良好	
1115	J26	I	17936 他	碗	ほぼ 完形	陶器	口径: 10.9 底径: 4.4 器高: 5.3	-	黄灰	極暗赤褐	部分的に釉切, 見 込み蛇の目釉刺, 高台無釉	薩摩 (龍門司)	良好		
1116	G24	IIIa	-	碗	胴 ~ 高台	陶器	底径: 5.4	-	明赤褐	赤黒	見込み蛇の目釉 刺, 高台無釉	薩摩 (龍門司)	良好		
1117	F28	II	19356	碗	胴 ~ 高台	陶器	底径: (4.4)	-	明褐	黒褐	見込み蛇の目釉 刺, 高台無釉	薩摩 (龍門司)	良好		
1118	J26	II	-	碗	胴 ~ 高台	陶器	底径: 4.6	-	橙	暗オリーブ 灰	見込み蛇の目釉 刺, 高台無釉	薩摩 (龍門司)	良好		
1119	I26	IIa	-	碗	底 ~ 高台	陶器	底径: 5.0	-	明赤褐	黒褐	見込み蛇の目釉 刺, 高台無釉	薩摩 (龍門司)	良好		
1120	H27	I	-	碗	胴 ~ 高台	陶器	底径: 5.2	-	にぶい 赤褐	オリーブ褐	見込み蛇の目釉 刺, 高台無釉	薩摩 (龍門司)	良好		
1121	G33	I	-	碗	胴 ~ 高台	陶器	底径: (5.0)	-	にぶい 赤褐	灰赤	見込み蛇の目釉 刺, 高台無釉	薩摩 (龍門司)	良好		
1122	J26	II	-	碗	完形	陶器	口径: 11.6 底径: 5.0 器高: 5.3	-	暗赤褐	透明 白化粧: 灰 黄	見込み蛇の目釉 刺, 高台無釉	薩摩 (龍門司)	良好	外面上部~内面白化粧土	
1123	J26	攪乱	-	碗	口縁 ~ 胴	陶器	口径: 11.8	-	にぶい 赤褐	透明 白化粧: 灰 白	見込み 蛇の目釉刺	薩摩 (龍門司)	良好	外面上部~内面白化粧土	
1124	H27	I	-	碗	胴 ~ 高台	陶器	底径: 5.1	-	暗灰黄	透明 白化粧: 灰 白	釉垂数か所, 高台 内無釉	薩摩 (龍門司)	良好	外面上部~内面白化粧土, 高台幅が2.5mm ~6mmと広狭顕著	
1125	L32	I	-	碗	胴 ~ 高台	陶器	底径: 4.2	-	灰	透明 白化粧: 灰 オリーブ	胴下~高台無釉	薩摩 (龍門司)	良好	外面上部~内面白化粧土, 見込み砂目4か所	
1126	H33	I	-	小碗	口縁 ~ 胴	陶器	口径: 10.0	-	灰	透明 白化粧: 灰 白		薩摩 (龍門司)	良好	外面上部~内面白化粧土	
1127	E27	I	17913	碗	胴 ~ 高台	陶器	底径: 4.7	-	にぶい 赤褐	透明 白化粧: 灰 白	内面釉切2か所, 見込み蛇の目釉 刺, 高台無釉	薩摩 (龍門司)	良好	外面上部~内面白化粧土	
1128	L27	I	-	碗	底 ~ 高台	陶器	底径: 4.6	-	にぶい 赤褐	透明 白化粧: 淡 黄	見込み蛇の目釉 刺, 高台内無釉	薩摩 (龍門司)	良好	外面上部~内面白化粧土	

第24表 近世出土遺物観察表

挿図 番号	掲載 番号	出土区	層	取上 番号	器種	部位	分類	法量 (cm)	文様	胎土 色調	釉薬色調	施釉	産地	焼成	備考
149	1129	J37	I	-	碗	底～ 高台	陶器	底径:5.0	-	黄灰	透明 白化粧:灰 オリーブ	見込み蛇の目釉 剥,高台無釉	薩摩 (龍門司)	良好	外面上部～内面白化粧 土,量付と見込み 砂目
	1130	I26	I	-	碗	胴～ 高台	陶器	底径:4.4	-	にぶい 橙	透明 白化粧:灰 白	見込み蛇の目釉 剥,高台内無釉	薩摩 (龍門司)	良好	外面上部～内面白化粧 土,貫入
	1131	J37	IIIa	23133	碗	底～ 高台	陶器	底径:(4.7)	-	にぶい 赤褐	外:褐 内:明黄褐	見込み蛇の目釉 剥,量付～高台内 無釉	薩摩 (龍門司)	良好	見込み砂目
	1132	J33	I	-	碗	底～ 高台	陶器	底径:4.8	-	灰白	明オリーブ 灰	見込み蛇の目釉 剥,量付無釉	薩摩 (龍門司)	良好	高台上砂粒付着
	1133	D24	II	-	碗	口縁	陶器	口径:(12.0)	-	にぶい 赤褐	黒褐		薩摩 (龍門司)	良好	鉄釉
	1134	E・F24	I, II	-	碗	口縁	陶器	口径:(13.1)	-	暗赤褐	黒褐		薩摩 (龍門司)	良好	鉄釉
	1135	F40	Ia	-	碗	口縁	陶器	口径:(12.8)	-	明黄褐	黒褐		薩摩 (龍門司)	良好	鉄釉
	1136	F33	I	-	碗	口縁	陶器	-	-	橙	黒褐		薩摩 (龍門司)	良好	鉄釉
	1137	J37	IIb	-	碗	口縁	陶器	-	-	橙	黒褐		薩摩 (龍門司)	良好	鉄釉
	1138	E21	II	-	碗	口縁	陶器	-	-	褐灰	黒褐		薩摩 (龍門司)	良好	鉄釉
150	1139	J22	I	-	坏	胴～ 高台	陶器	底径:(3.4)	-	灰白	浅黄	胴下半～高台無 釉	不明	良好	貫入
	1140	E31	II	-	坏	底～ 高台	陶器	底径:(5.0)	-	黄白	白濁	量付～高台内無 釉	不明	良好	
	1141	H34	I	-	坏	底～ 高台	陶器	底径:(3.8)	-	灰	明オリーブ 灰	底部無釉	不明	良好	青磁釉,内面トチン 痕2か所
	1142	H35	I	-	小坏	胴～ 高台	陶器	底径:3.0	-	淡赤	灰白		肥前系	良好	
	1143	H34	I	-	小坏	胴～ 高台	陶器	底径:(3.1)	-	黄白	透明		不明	良好	目跡1か所
	1144	I25	I	18207 他	碗	ほぼ 完形	陶器	口径:(8.6) 底径:4.6 器高:6.2	外:楓文	にぶい 黄橙	透明 白化粧:灰 白	量付～高台内無 釉	薩摩 (龍門司)	良好	内面上～外面白化粧 土,鉢状
151	1145	L32	I	-	皿	口縁	磁器	-	内:菊唐草文	白	透明		肥前系	良好	18C,波佐見
	1146	D23	II	-	皿	口縁 ～胴	磁器	口径:(12.0)	内:菊唐草文,圏線 外:唐草文,圏線	白	透明	見込み 蛇の目釉剥	肥前系	良好	18C,波佐見
	1147	F30	I	-	皿	底	磁器	底径:(7.0)	内:草花状文 外:圏線	白	透明		肥前系	良好	18C
	1148	J28	I	-	皿	底	磁器	底径:(8.0)	内:草花状文 外:圏線	白	透明		肥前系	良好	18C
	1149	H44	II	-	皿	底	磁器	底径:(8.0)	内:草花文	白	透明	見込み 蛇の目釉剥	肥前系	良好	18C
	1150	H37	I	-	皿	底	磁器	底径:(11.0)		白	透明		肥前系	良好	18C
	1151	L35	I	-	皿	底	磁器	底径:(7.8)	内:十字四方襷文 外:圏線	白	透明		肥前系	良好	18C
	1152	I37	IIIa	29339	皿	底	磁器	底径:(4.6)		灰白	透明	見込み 蛇の目釉剥	肥前系	良好	
	1153	G42	I	-	皿	底	磁器	底径:(6.0)	内:圏線	白	透明	見込み 蛇の目釉剥	肥前系	良好	
	1154	J28, K28	I	-	皿	底	陶器	底径:8.0		灰白	透明	底部無釉	肥前系 (唐津か)	良好	16C末～17C初
	1155	H32	I	29652	皿	底	陶器	底径:4.0	-	灰	灰オリーブ, 一部黒	底部無釉	肥前系 (唐津)	良好	16C末～17C初
	1156	F28	I	-	碗	底	陶器	底径:4.2	三鳥手	赤褐	灰～灰白	量付無釉	肥前系	良好	17C初～前半,見込み トチン痕3か所
	1157	G33	I	-	碗	底	陶器	底径:(5.0)	三鳥手	赤褐	外:暗赤褐 内:暗赤褐・ 灰白		肥前系	良好	見込み2か所残存,量 付に砂目
	1158	F31	I	-	皿	口縁	陶器	-		暗赤褐	外:黒褐 内:灰白・黒 褐		肥前系	良好	
	1159	J27	IIIa	-	碗	口縁	陶器	-	-	灰	外:透緑 内:銅緑		肥前系 (内野山系)	良好	
	1160	I26	I	-	皿	底	陶器	底径:4.5	-	黄灰	外:浅黄 内:銅緑	見込み蛇の目釉 剥,胴下～高台無 釉	肥前系 (内野山系)	良好	高台上に3～4か所砂 目,見込みトチン痕4 か所
1161	I26	I	-	皿	底	陶器	底径:4.6	-	黄灰	外:浅黄 内:銅緑	見込み蛇の目釉 剥,高台無釉	肥前系 (内野山系)	良好	見込みと高台上に砂目	
1162	G33	I	-	皿	口縁	陶器	-	-	黄褐	外:暗黄灰 ～黄褐 内:黄褐・灰 白		肥前系	良好		
1163	J41	Ia	-	皿	口縁	陶器	-	-	灰白	黒褐		肥前系	良好	鉄釉	
152	1164	K37	IIb	-	蓋	蓋	磁器	-	内:四方襷文	灰白	外:明緑灰 内:透明		肥前系	良好	青磁釉
	1165	I33	I	-	蓋	蓋	磁器	-	外:不明文	白	透明		肥前系	良好	
	1166	H27	I	-	蓋	蓋	磁器	口径:(10.0) 器高:(2.8) 底径:(12.8)		黄	外:灰白		肥前系	良好	
	1167	I41, J42	Ia, IIa	-	土瓶 蓋	蓋	陶器	底径:(6.6)	-	にぶい 赤褐	外:黒褐	上面施釉	薩摩 (苗代川系)	良好	
	1168	F23	I	-	土瓶 蓋	蓋	陶器	底径:(8.8)	-	灰	外:灰	上面施釉	薩摩 (苗代川系)	良好	
	1169	E28, F27・28	I, II	18551 他	土瓶	口縁 ～底	陶器	口径:(6.0) 底径:3.6	-	褐	黒褐	上面施釉	薩摩 (苗代川系)	良好	胴下～底部はスス付 着で黒褐色を呈する

第 24 表 近世出土遺物観察表

挿図 番号	掲載 番号	出土区	層	取上 番号	器種	部位	分類	法量 (cm)	文様	胎土 色調	釉薬色調	施釉	産地	焼成	備考
152	1170	H38	I	-	土瓶	口縁	陶器	口径:(7.0)	-	にぶい 赤褐	外:極暗褐 内:下部灰 白	口唇部釉剥,内面 上部無釉	薩摩 (苗代川系)	良好	
	1171	K37	I	-	土瓶	口縁	陶器	口径:(6.0)	-	にぶい 黄褐	暗褐	口唇~内面上部 無釉	薩摩 (苗代川系)	良好	
	1172	J27	I	-	土瓶	胴	陶器	-	-	赤褐	黒褐	外面胴下部,内面 胴上部無釉	薩摩 (苗代川系)	良好	鉄釉
	1173	C51	I	-	土瓶	胴	陶器	-	-	にぶい 褐	灰オリーブ	腰部から無釉	薩摩 (苗代川系)	良好	厚くスス付着
	1174	J41	I a	-	土瓶	耳	陶器	-	-	にぶい 褐	黒褐		薩摩 (苗代川系)	良好	
	1175	H32 J33	I	-	土瓶	底	陶器	底径:(3.6)	-	灰褐	黒褐	外面腰部から 無釉	薩摩 (苗代川系)	良好	
	1176	I27	IIIa	22525	土瓶 か鍋	底	陶器	底径:(3.6)	-	褐	外内:暗灰 黄 底部:黒褐		薩摩 (苗代川系)	良好	
	1177	L35	I	-	鍋か	底	陶器	底径:(5.0)	-	明赤褐	オリーブ黒		薩摩 (苗代川系)	良好	鉄釉
	1178	J33	VI	37973	土瓶	注ぎ 口	陶器	-	-	にぶい 褐	暗オリーブ 褐		薩摩 (苗代川系)	良好	茶止め穴3つ
	1179	D27	I	-	土瓶	注ぎ 口	陶器	-	-	暗褐	外・内口:縁 暗オリーブ 灰		薩摩 (苗代川系)	良好	茶止め穴3つ
	1180	G43	I	-	土瓶	注ぎ 口	陶器	-	-	にぶい 褐	淡黄	接合部付近無釉	薩摩 (苗代川系)	良好	茶止め穴3つ?
1181	C50	I	-	土瓶	口縁	陶器	-	-	褐灰	灰褐	内面下部無釉	薩摩 (苗代川系)	良好		
153	1182	J31	I	-	徳利	口縁	陶器	口径:(6.4)	-	暗赤灰	オリーブ黒		薩摩 (苗代川系)	良好	鉄釉, 17C後半 堂平窯の可能性
	1183	H22	II a	-	徳利	口縁	陶器	口径:(6.6)	-	灰	オリーブ黒		薩摩 (苗代川系)	良好	鉄釉, 17C
	1184	F21	I	-	徳利	胴	陶器	-	-	灰黄色	外:黒褐	内面無釉	薩摩 (苗代川系)	良好	鉄釉, 17C後半~18C 前半
	1185	D32	I	-	徳利	胴	陶器	-	-	灰	オリーブ灰 ・黒の斑点: 鉄分?		薩摩 (苗代川系)	良好	17C後半~18C前半
	1186	H33・35	I	-	徳利	口縁	陶器	口径:3.1	-	褐灰	暗赤褐		薩摩	良好	
	1187	D27	I	-	徳利	口縁	陶器	口径:(8.4)	-	にぶい 褐	外:透明	白化粧土	薩摩 (龍門司)	良好	壺の可能性
154	1188	I32	II	-	片口 鉢	口縁	陶器	口径:(37.7)	-	灰褐	黒褐	口唇部無釉	薩摩 (苗代川系)	良好	鉄釉, 18C後半 口唇部に貝目
	1189	D27	I	-	片口 鉢	口縁	陶器	口径:(15.7)	-	暗褐	オリーブ黒	口唇部部分的に 無釉	薩摩 (苗代川系)	良好	18C後半
	1190	I・J 26・27	I	-	片口 鉢	口縁	陶器	-	-	赤褐	外:オリー ブ黒 内:灰褐	口唇部無釉部 あり	薩摩 (苗代川系)	良好	鉄釉, 18C後半 口唇部に目跡,内面 白色がかる
	1191	H33	I	-	鉢	口縁	陶器	口径:(35.1)	-	褐灰	オリーブ黒	口唇部無釉	薩摩 (苗代川系)	良好	鉄釉, 18C後半 内面口縁下に貝目
	1192	G33	I	-	鉢	口縁	陶器	口径:(25.2)	-	にぶい 赤褐	オリーブ黒	口唇部無釉	薩摩 (苗代川系)	良好	18C後半
	1193	E22	II	17995	鉢	口縁	陶器	口径:(24.0)	-	にぶい 赤褐	オリーブ黒	口唇部無釉	薩摩 (苗代川系)	良好	鉄釉, 内面白色がかる
	1194	H26	I	18526	鉢	底	陶器	底径:(13.3)	-	にぶい 赤褐	外:オリー ブ黒 内:暗褐	胴下部~底部 無釉	薩摩 (苗代川系)	良好	
	1195	F28	I	-	播鉢	口縁	陶器	口径:(29.9)	-	赤褐	外:黒褐 内:暗褐	口縁内面無釉	薩摩 (苗代川系)	良好	
	1196	J27	I	-	播鉢	口縁	陶器	口径:(25.8)	-	暗褐	黒褐	口唇部無釉	薩摩 (苗代川系)	良好	
	1197	I20	II	-	播鉢	口縁	陶器	口径:(25.4)	-	灰黄褐	オリーブ黒	口唇部無釉	薩摩 (苗代川系)	良好	
	1198	J27	I	-	播鉢	口縁	陶器	口径:(24.0)	-	褐灰	オリーブ黒	口唇部無釉	薩摩 (苗代川系)	良好	
	1199	D27	II b	20579	播鉢	底	陶器	底径:(18.8)	-	灰褐	外:黒褐 内:褐灰		薩摩 (苗代川系)	良好	
	1200	F24	I	18170	播鉢	底	陶器	底径:(22.2)	-	赤褐	外:オリー ブ黒 内:灰褐		薩摩 (苗代川系)	良好	
	1201	F31	I	-	播鉢	底	陶器	底径:(10.8)	-	褐灰	オリーブ黒	外面釉切あり	薩摩 (苗代川系)	良好	
	1202	J27	I	-	播鉢	底	陶器	底径:(12.6)	-	にぶい 赤褐	外:黒褐 内:暗赤褐		薩摩 (苗代川系)	良好	
	1203	G21	II a	18588	播鉢	底	陶器	底径:(14.6)	-	にぶい 赤褐	オリーブ黒	底部無釉	薩摩 (苗代川系)	良好	
	1204	E28	III a	-	播鉢	底	陶器	底径:(13.2)	-	にぶい 赤褐	黒褐		薩摩 (苗代川系)	良好	
1205	L34	III a	-	鉢か	底	陶器		-	灰	外:灰褐,白 胡麻 内:暗赤褐		不明	良好	中世の可能性 底黒褐	
1206	I・J 26・27	I	-	蓋	口縁	陶器	底径:(27.4)	-	褐	暗オリー ブ褐	口唇部無釉	薩摩 (苗代川系)	良好		
1207	I33	I	-	蓋	口縁	陶器	底径:(16.0)	-	暗赤褐	オリーブ黒	口唇部無釉	薩摩 (苗代川系)	良好	鉄釉	

第24表 近世出土遺物観察表

挿図番号	掲載番号	出土区	層	取上番号	器種	部位	分類	法量 (cm)	文様	胎土色調	釉薬色調	施釉	産地	焼成	備考
155	1208	H27	I	-	甕	口縁	陶器	口径:(51.8)	-	灰褐	オリーブ黒	口唇部一部無釉	薩摩 (苗代川系)	良好	鉄釉, 18C前半~中頃
	1209	K35	I	-	甕	口縁	陶器	口径:(44.4)	-	黄灰	褐		薩摩 (苗代川系)	良好	鉄釉, 18C前半~中頃
	1210	J27	I	-	甕	口縁	陶器	口径:(32.8)	-	にぶい赤褐	黒褐	口唇部無釉	薩摩 (苗代川系)	良好	18C
	1211	F28	II	19360	鉢	口縁	陶器	口径:(34.0)	-	にぶい黄	灰オリーブ	口唇部無釉	薩摩 (苗代川系)	良好	18C後半~19C
	1212	G31	I	-	甕	胴	陶器	-	外面に播落文	赤褐	オリーブ黒		薩摩 (苗代川系)	良好	鉄釉
	1213	J26	攪乱	-	甕	胴	陶器	-	外面に播落文	明赤褐	オリーブ黒		薩摩 (苗代川系)	良好	鉄釉 1214と同一
	1214	J27	I	-	甕	胴	陶器	-	外面に播落文	明赤褐	オリーブ黒		薩摩 (苗代川系)	良好	鉄釉 1213と同一
	1215	F28	I	18813	壺	口縁	陶器	口径:(18.2)	-	暗褐	外:オリーブ黒 内:灰白	口唇無釉部あり	薩摩 (苗代川系)	良好	口唇部に貝目跡 大型
	1216	J32	I	-	壺	口縁	陶器	口径:(14.0)	-	にぶい褐	黒褐	口唇部無釉	薩摩 (苗代川系)	良好	口唇部に貝目跡 大型
	1217	D27	I	-	壺	口縁	陶器	口径:(9.1)	-	灰	オリーブ黒	口唇・胴部無釉	薩摩 (苗代川系)	良好	中小型
	1218	D31	II	-	壺	口縁	陶器	口径:(12.2)	-	にぶい橙	外:黒褐		薩摩 (苗代川系)	良好	鉄釉, 中小型
	1219	J38	I	-	壺	口縁	陶器	口径:(11.0)	-	にぶい赤褐	暗褐	内面無釉	薩摩 (苗代川系)	良好	鉄釉, 中小型 口唇~内口縁砂目
	1220	H~J 26	I	17890 他	壺か 甕	胴~ 底	陶器	底径:(13.7)	-	褐灰	オリーブ黒		薩摩 (苗代川系)	良好	底部に目跡 鉢の可能性
	1221	E29	I	-	壺か 甕	底	陶器	底径:(20.0)	-	にぶい赤褐	オリーブ黒	底部は釉が まだら	薩摩 (苗代川系)	良好	筒状?
	1222	I53	I	-	壺か 甕	底	陶器	底径:(11.0)	-	暗灰黄	灰オリーブ		薩摩 (苗代川系)	良好	
1223	F28	I	-	鉢	底	陶器	底径:(12.2)	-	にぶい赤褐	にぶい黄	底部無釉	薩摩 (苗代川系)	良好		
156	1224	I・J 26・27	I	-	灯明皿	完形	陶器	口径:10.3 底径:4.4 器高:2.5	-	橙色	灰オリーブ	外面体~底部 無釉	薩摩 (龍門司)	良好	底部糸切 内面砂目4か所
	1225	G32	I	-	灯明皿	口縁	陶器	口径:(12.2)	-	灰	外・内口縁: オリーブ褐	外口縁~内面釉, 外面他無釉	薩摩 (龍門司)	良好	外面スス
	1226	F23	I	-	灯明皿	口縁 ~底	陶器	口径:(10.8) 底径:(5.0) 器高:2.8	-	灰黄褐	暗オリーブ		薩摩 (龍門司)	良好	底部糸切, 砂目跡 脚3か所残存
	1227	H35	I	-	灯明皿	口縁	陶器	-	-	黄灰	オリーブ黒	外面~内面に釉, 外面体~底面無 釉	薩摩 (龍門司)	良好	底部糸切 底部スス付着
	1228	J31	I	-	碗	口縁	陶器	-	-	にぶい褐	暗褐		薩摩 (龍門司)	良好	褐釉
	1229	H28	VII	-	碗	口縁	陶器	-	-	にぶい黄橙	オリーブ褐	内外上面 白化粧土	薩摩 (龍門司)	良好	化粧土に褐釉
	1230	F32	I	-	高坏	胴~ 脚台	陶器	底径:4.4	-	にぶい赤褐	オリーブ褐	脚部下~底無釉	薩摩 (龍門司)	良好	仏飯具
	1231	G33	I	-	高坏	胴~ 脚台	陶器	底径:3.8	-	赤橙	外:灰白 内:赤褐	脚部無釉, 白化粧土	薩摩 (龍門司)	良好	仏飯具 内面砂目
	1232	L37	IIIa	29757	碗	口縁	陶器	-	-	にぶい黄橙	外:黒褐	内面無釉	薩摩 (苗代川系)	良好	鉄釉, 仏具
	1233	J23, K25	攪乱 I	-	不明	口縁 ~胴	陶器	口径:(9.0)	-	にぶい黄橙	暗褐	見込み蛇の目 釉刺	薩摩 (龍門司)	良好	古手の小碗?

第25表 近世出土銭観察表

図版番号	掲載番号	出土区	層	取上番号	器種	分類	背面	銭径 (cm)	厚さ (cm)	重さ (cm)	備考
156	1234	F27	I	18363	銭	寛永通寶	新?	-	22.5	0.9	1.8
	1235	E27	I	17912	銭	寛永通寶	新	-	23.0	0.9	1.9
	1236	E27	I	17908	銭	寛永通寶	新	-	23.4	1.0	1.8
	1237	G41	II b	12009	銭	寛永通寶	古?	-	23.8	1.8	4.8

第5章 自然科学分析

第1節 自然科学分析の種類と目的

第2地点における自然科学分析は、平成25年度に「種実同定」と「放射性炭素年代（AMS測定）」、平成26年度に「出土試料の自然科学分析（年代測定、樹種同定）」を行った。

「種実同定」及び「放射性炭素年代（AMS測定）」では、竪穴住居跡・竪穴建物跡4基から採取した5試料の種実同定により、当時の植物利用に関する資料を得るとともに、種実同定作業を経て年代測定に適した試料を選定した上で、試料の年代を測定することによって、遺構の年代を知る手がかりとした。「出土試料の自然科学分析（年代測定、種実同定）」では、竪穴住居跡4基、土坑1基、溝状遺構1条から検出した炭化物10点について、放射性炭素年代測定を行い、遺構の年代を知る手がかりとするとともに、一部の試料は種実同定を行い、当時の植物利用に関する資料を得たが、種実同定については、本報告書対象年代とは異なる時代の遺構から採取された試料である。

分析結果については、第2節以降に詳細に記載しているので、譲ることとしたい。なお、今回は第2地点の古代・中世・近世に関する科学分析を対象とした。第1地点については、平成27年度刊行報告書に、第2地点（旧石器時代・縄文時代編）は平成28年度刊行報告書にそれぞれ記載済みで、第2地点（縄文晩期・弥生・古墳時代編）及び第3地点については、今後刊行する報告書において報告する予定である。このため、納品された報告書を基に第2地点（古代・中世・近世編）のみ再編を行い、体裁を整えて掲載している。また、平成25年度自然科学分析委託の「樹種同定」及び「放射性炭素年代（AMS測定）」については、委託業務の際には樹種同定によって分析対象となった炭化物に対して年代測定を行っているが、本報告書掲載に際しては、年代測定で対象試料を示した上で樹種同定の分析報告を記載する。

自然科学分析に関する一覧

掲載節	分析の内容	分析委託業者
第2節	放射性炭素年代（AMS測定）	株式会社加速器分析研究所
第3節	種実同定	株式会社加速器分析研究所
第4節	放射性炭素年代測定	株式会社パレオ・ラボ

第2節 永吉天神段遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）

（株）加速器分析研究所

1 測定対象試料

永吉天神段遺跡は、鹿児島県曾於郡大崎町永吉に所在し、持留川とその支流に挟まれた標高約35mの河岸段丘及び標高約50mのシラス台地に立地する。測定対象試料は、SI10、SI13、SI19、SI21から出土した炭化物や炭化種実の合計5点である（表1：表は、本報告書掲載遺構SI21＝中世竪穴建物跡のみ掲載）。試料は、調査現場にて採取された土の中からフローテーションにより回収され、種実同定（別稿種実同定報告参照）を行った後、年代測定に適した試料を選定した。試料5は、炭化イネ穎・胚乳（完形）3点のうち1点を測定試料とした。

試料が出土した遺構はⅢ層で検出され、弥生時代と推定されている。Ⅱ層は弥生時代、Ⅴ層は縄文時代早期の遺物包含層と捉えられている。

2 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1 mol/l（1 M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001Mから1 Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1 Mに達した時には「AAA」、1 M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO₂）を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

3 測定方法

加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置（NEC社製）を使用し、¹⁴Cの計数、¹³C濃度（¹³C/¹²C）、¹⁴C濃度（¹⁴C/¹²C）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOxII）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

4 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (%) で表した値である (第 26 表)。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ^{14}C 年代 (Libby Age : yrBP) は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期 (5568 年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。 ^{14}C 年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。 ^{14}C 年代と誤差は、下 1 桁を丸めて 10 年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2%であることを意味する。
- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMC が小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として第 27 表に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$) あるいは 2 標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下一桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線

および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal09 データベース (Reimer et al. 2009) を用い、OxCalv4.2 較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として第 27 表に示した。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。

5 測定結果

試料の測定結果を第 26, 27 表に示す。 ^{14}C 年代は、5 点のうち、試料 5 は明瞭に異なる年代値を示している。暦年較正年代 (1σ) は、1 が縄文時代後期前葉頃、2 ~ 4 が弥生時代中期頃、5 が中世から近世頃に相当する (小林編 2008, 藤尾 2009)。試料の炭素含有率はすべて 60%以上の十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

文献

- Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51(1), 337-360
- 藤尾慎一郎 2009「弥生時代の実年代」西本豊弘編『新弥生時代のはじまり 第 4 巻 弥生農耕のはじまりとその年代』雄山閣 9-54
- 小林達雄編 2008『総覧縄文土器』総覧縄文土器刊行委員会 アム・プロモーション
- Reimer, P. J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radio-

第 26 表 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (%) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-130195	5	SI21 P2 Ⅲ層	炭化イネ穎・胚乳	AaA	-26.20 ± 0.42	390 ± 20	95.23 ± 0.29

[#5806]

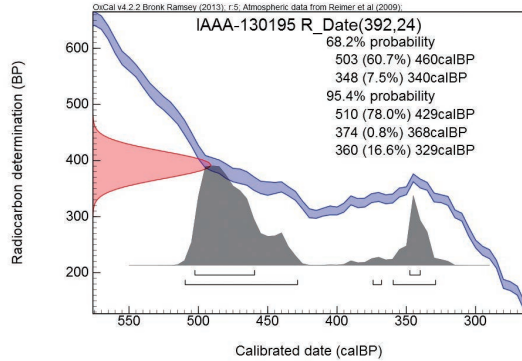
第 27 表 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值, 暦年較正用 ^{14}C 年代, 較正年代)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-130195	410 ± 20	94.99 ± 0.28	392 ± 24	503calBP - 460calBP (60.7%) 348calBP - 340calBP (7.5%)	510calBP - 429calBP (78.0%) 374calBP - 368calBP (0.8%) 360calBP - 329calBP (16.6%)

[参考値]

carbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 51(4), 1111-1150

Stuiver M. and Polach H. A. 1977 Discussion: Reporting of 14C data, Radiocarbon 19(3), 355-363



第157図 暦年較正年代グラフ (参考)

第3節 永吉天神段遺跡における種実同定

(株)加速器分析研究所

はじめに

永吉天神段遺跡は鹿児島県曾於郡大崎町永吉に所在し、持留川とその支流に挟まれる河岸段丘および台地上に位置する。本分析調査では、弥生時代と推定される遺構から出土した種実遺体の同定を実施し、当時の植物利用に関する資料を得る。

1 試料

試料は、SI10より1試料、SI13より1試料、SI19より2試料、SI21より1試料の合計5試料である(試料1～5)。以下では、本報告書該当試料である試料5：SI21試料1点のみを掲載する)。土壌のフローテーションによって回収され、乾燥した状態でポリ袋やアルミホイルに収納されている。各試料の詳細は結果とともに第28表に示す。なお、これら5試料の中から各1点について放射性炭素年代測定が実施されている(年代測定報告参照)。

2 分析方法

試料を双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて同定が可能な種実遺体を抽出する。種実遺体の同定は、現生標本および石川(1994)、中山ほか(2000)、吉崎(1992)等を参考に実施し、個数を数えて一覧表で示す。分析後は、種実遺体を分類群毎に容器に入れて保管する。

3 結果

全5試料を通じて、被子植物5分類群(草本のイネ、イネ科、カヤツリグサ属、マメ科(アズキ類?)、エノキグサ)14個の種実が抽出・同定された(第28表)。以下に試料5のみ状況を述べる。

・SI21 P2(試料5)

炭化した栽培種のイネの穎・胚乳が3個、胚乳が6個と、栽培種の可能性があるマメ科(アズキ類?)の種子が1個、計10個が確認された。種実以外では、炭化材(最大33mm)が多く、植物片、砂礫などが確認され、軽石類も多く含まれる。

以上の結果を踏まえ、検出された種実の形態的特徴を以下に述べる。また、炭化種実の写真を図版1に示す。

・イネ(*Oryza sativa* L.) イネ科イネ属

胚乳と胚乳を包む穎(果)は、炭化しており黒色。胚乳は、長さ3.7～5.2mm、幅1.5～2.8mm、厚さ1.5～2.1mmのやや扁平な長楕円体。基部一端には、胚が脱落した斜切形の凹部がある。表面はやや平滑で、2～3本の縦隆条がある(図版1-1～7)。SI21 P2より出土した胚乳9個中3個の表面には、穎の破片(初殻)の付着が確認された(図版1-1～3)。

穎は、完形ならば、長さ6～7.5mm、幅3～4mm、厚さ2～3mm程度のやや扁平な長楕円体。基部に大きさ1mm程度の斜切状円柱形の果実序柄と1対の護穎を有し、その上に外穎(護穎と言う場合もある)と内穎がある。外穎は5脈、内穎は3脈をもち、ともに舟形を呈し、縫合してやや扁平な長楕円形の稲穂を構成する。果皮は薄く、表面には顆粒状突起が縦列する。

・マメ科(Leguminosae)

第28表 種実同定結果

試料名	出土位置	重量	同定結果				枝番	計測値(mm)			備考	
			分類群	部位	状態	個数		高さ	幅	厚さ		
5	SI21 P2 Ⅲ層	6.671kg	イネ	穎	完形	炭化	3	1	4.3	2.8	2.1	・イネ胚乳：枝番3は別袋より確認 ・マメ科：半分厚、初生葉欠損 ・炭化材多い(最大33mm)、植物片、砂礫(軽石類多い)
								2	5.2	2.8	1.7	
								3	4.4	2.5	1.5	
				胚乳	完形	炭化	3	1	4.4	2.3	1.6	
								2	4.9	2.5	1.9	
								3	3.7	1.5	1.5	
			マメ科(アズキ類?)	種子	破片	炭化	1	-	4.4	+	3.4	1.6

種子は、炭化しており黒色。出土種子は、子葉の合わせ目から割れた半分未満の破片で、残存長4.4mm、幅3.4mm、半分厚さ1.6mmを測り、完形ならばやや偏平な楕円体となる。

子葉合わせ目から半割した面はやや平滑で、胚軸跡の溝が確認される。半割面は、北大基準（吉崎，1992）の「アズキグループ（幼根が臍の終わり程から急に立ち上がり、胚珠中央に向けて伸びる）」に該当する初生葉を欠損するが、その痕跡（図版1-8b）が確認されることから、アズキ類（*Vigna* subgen. *Ceratotropic* (Piper) Verdc.; ササゲ属）である可能性が高い。種皮は薄く、表面はやや平滑～粗面で、断面は柵状。

4 考察

種実同定の結果、SI21 P2 から炭化した穀類のイネ、SI21 P2 から栽培種の可能性があるマメ科（アズキ類？）が確認された。これらは、周辺で栽培されていたか、近

辺より持ち込まれたかは不明であるが、当時の本遺跡周辺域で利用された植物質食料と考えられ、火を受けて炭化したとみなされる。

また、SI21 P2 から出土したイネには、胚乳表面に穎の付着が確認されたことから、穎（糊）のついた生米の状態です火を受けたと判断される。

文献

石川茂雄 1994 『原色日本植物種子写真図鑑』石川茂雄図鑑刊行委員会 328p.

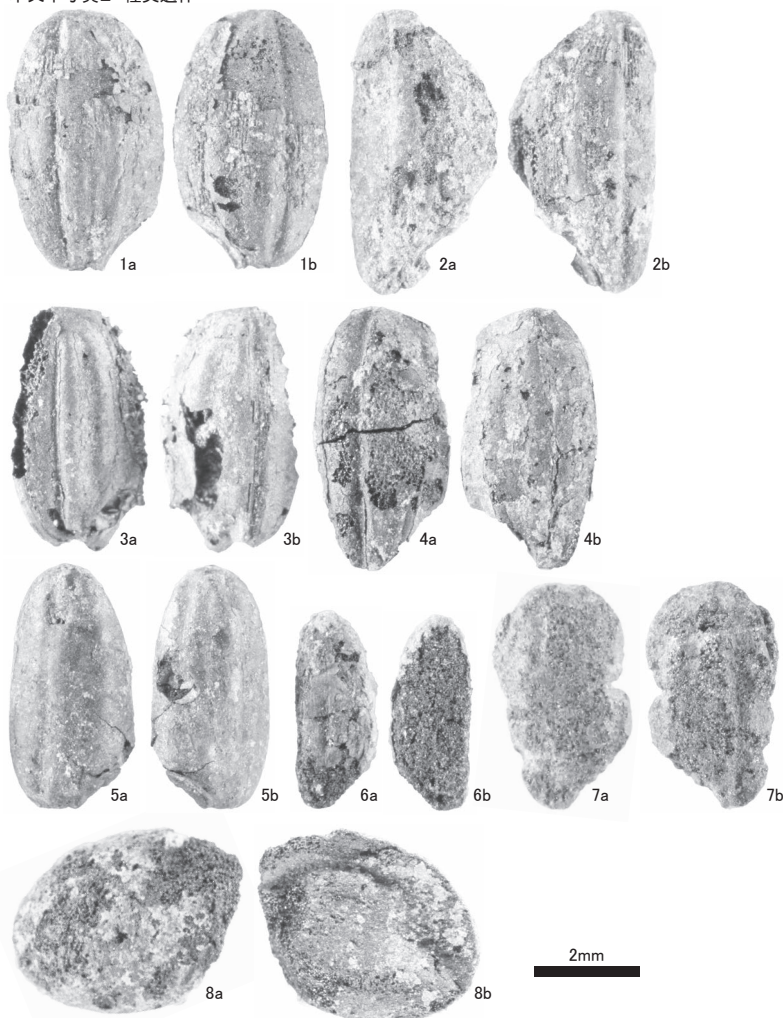
中山至大・井之口希秀・南谷忠志 2000 『日本植物種子図鑑』東北大学出版会 642p.

吉崎昌一 1992 「古代雑穀の検出」『月刊考古学ジャーナル』No.355, 2-14.

※ 本分析は、パリノ・サーヴェイ株式会社の協力を得て行った。

※ SI21 は、本報告書掲載の中世竪穴建物1号である。

本文中写真2 種実遺体



- | | |
|-------------------------------|-------------------------------|
| 1. イネ 穎・胚乳(試料5:SI21 P2) | 2. イネ 穎・胚乳(試料5:SI21 P2) |
| 3. イネ 穎・胚乳(試料5:SI21 P2) | 4. イネ 胚乳(試料5:SI21 P2) |
| 5. イネ 胚乳(試料5:SI21 P2) | 6. イネ 胚乳(試料5:SI21 P2) |
| 7. イネ 胚乳(試料2:SI13 西ベルト 床着 ①層) | 8. マメ科(アズキ類?) 種子(試料5:SI21 P2) |

第4節 放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

伊藤 茂・安昭 炫・佐藤正教

廣田正史・山形秀樹・小林紘一

Zaur Lomtadidze・Ineza Jorjoliani

・小林克也

1 はじめに

鹿児島県大崎町に位置する天神段遺跡より検出された試料について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。

2 試料と方法

試料は、SI45 から炭化材 2 点、SI34 の床直から炭化種実 1 点、SI34 の SK1 から炭化材 1 点、SI35 から炭化材 1 点、SI43 から炭化材 1 点、SI47 の SK4 から炭化材 1 点、SK99 から炭化材 2 点、SD25 から炭化材 1 点（試料 No.10: PLD-27798）の炭化材の、計 10 点である。以下は、本報告当該試料である試料 No.10 について記載する。

試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクト AMS: NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた¹⁴C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、¹⁴C 年代、暦年代を算出した。

3 結果

表 5 に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（ $\delta^{13}\text{C}$ ）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した¹⁴C 年代を、図 2 に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下 1 桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

¹⁴C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。¹⁴C 年代 (yrBP) の算出には、¹⁴C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した¹⁴C 年代誤差（ $\pm 1\sigma$ ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の¹⁴C 年代がその¹⁴C 年代誤差内に入る確率が 68.2%であることを示す。

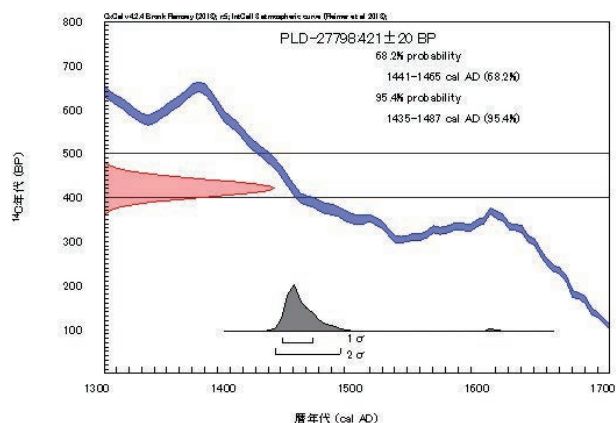
なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。暦年較正とは、大気中の¹⁴C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された¹⁴C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C 濃度の変動、および半減期の違い（¹⁴C の半減期 5730 ± 40 年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。¹⁴C 年代の暦年較正には OxCal4.2（較正曲線データ: IntCal13）を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された¹⁴C 年代誤差に相当する 68.2% 信

頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は 95.4% 信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は¹⁴C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

4 考察

測定結果を暦年較正結果に示した（第 158 図）。以下、 2σ 暦年代範囲（確率 95.4%）に着目して結果を整理する。

SD25 の試料 No.10 (PLD-27798) は 1435-1487 cal AD (95.4%) で、15 世紀代の暦年代を示した。これは、室町時代に相当する。



第 158 図 暦年較正結果

引用・参考文献

Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.

藤尾慎一郎 2009「弥生時代の実年代」西本豊弘編『新弥生時代のはじまり 第4巻 弥生農耕のはじまりとその年代』9-54, 雄山閣。

中村俊夫 2000「放射性炭素年代測定法の基礎」日本先史時代の 14C 年代編集委員会編『日本先史時代の 14C 年代』3-20, 日本第四紀学会。

Reimer, P. J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J. W., Blackwell, P. G., Bronk Ramsey, C., Buck, C. E., Cheng, H., Edwards, R. L., Friedrich, M., Grootes, P. M., Guilderson, T. P., Hafliadason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T. J., Hoffmann, D. L., Hogg, A. G., Hughen, K. A., Kaiser, K. F., Kromer, B., Manning, S. W., Niu, M., Reimer, R. W., Richards, D. A., Scott, E. M., Southon, J. R., Staff, R. A., Turney, C. S. M., and van der Plicht, J. (2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 55(4), 1869-1887.

※ SD25 は、発掘調査時に SD18 に統合された。本報告書では中世溝状遺構 15 号として掲載した。

第 29 表 測定試料及び処理

測定番号	遺跡データ	資料データ	前処理
PLD-27798	遺構：SD25 試料 No.10 遺物 No.19456	種類：炭化物（タケ亜科） 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 N, 水酸化ナトリウム：1.0 N, 塩酸：1.2 N）

第 30 表 放射性炭素年代測定及び暦年較正の比較

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
Pld-27798 SD25 試料No10	-27.51 \pm 0.19	421 \pm 20	420 \pm 20	1441-1465 cal AD (68.2%)	1435-1487 cal AD (96.4%)

第6章 総括

第1節 古代について

日向国から4郡を割いて設置された大隅国は、鹿児島湾奥の曾於郡に国府が置かれ、日向・肥後・薩摩国と結ぶ駅路は曾於郡のみを通り、豊前・豊後両国から公民200戸を移住させて律令制度の浸透・定着が図られた。奈良時代のうちに曾於郡から菱刈・桑原両郡が分置されたのに対し、半島部の大隅・始羅・肝属3郡は、郷の帰属、郡域・位置が流動的で、日向国との国境も不明瞭である。

大崎町周辺は近代以前には日向国に属していたが、奈良時代の断片的情報である「大隅国風土記逸文」に見える海村的な「必志里」は、大崎町菱田を遺称地とする可能性があり、その場合、大崎町域が大隅国に含まれることになる。考古資料においても、鹿児島湾奥並びに都城盆地周辺では、東九州自動車道建設に伴う調査等によって当時の様相が判明しつつあるが、大隅半島中・南部については、いまだに不明な点が多いのが現状である。

永吉天神段遺跡のうち、档ヶ山集落南東端の持留川を臨む第1地点で、掘立柱建物跡6棟と土坑7基などからなる、9世紀から10世紀前半頃の古代集落の存在が明らかとなった。その性格については、「交通の要衝地の一つとして、水滴や焼塩土器・鉄製品など特殊なものをもつ識字層が居住したと考えられる」としている(埋調査セ2016)。

第1地点の北西側にある第2地点では、古代の可能性のある柱穴が多数検出されたものの、古代の遺構と特定したのは黒色土器の可能性のある土器片を伴う1基のみであった。包含層出土物としては、土師器(耳皿状のものを含む)・黒色土器・内赤土師器・須恵器が29~32区の谷部分から集中して出土したが、第1地点の古代集落との関連については今後の課題である。

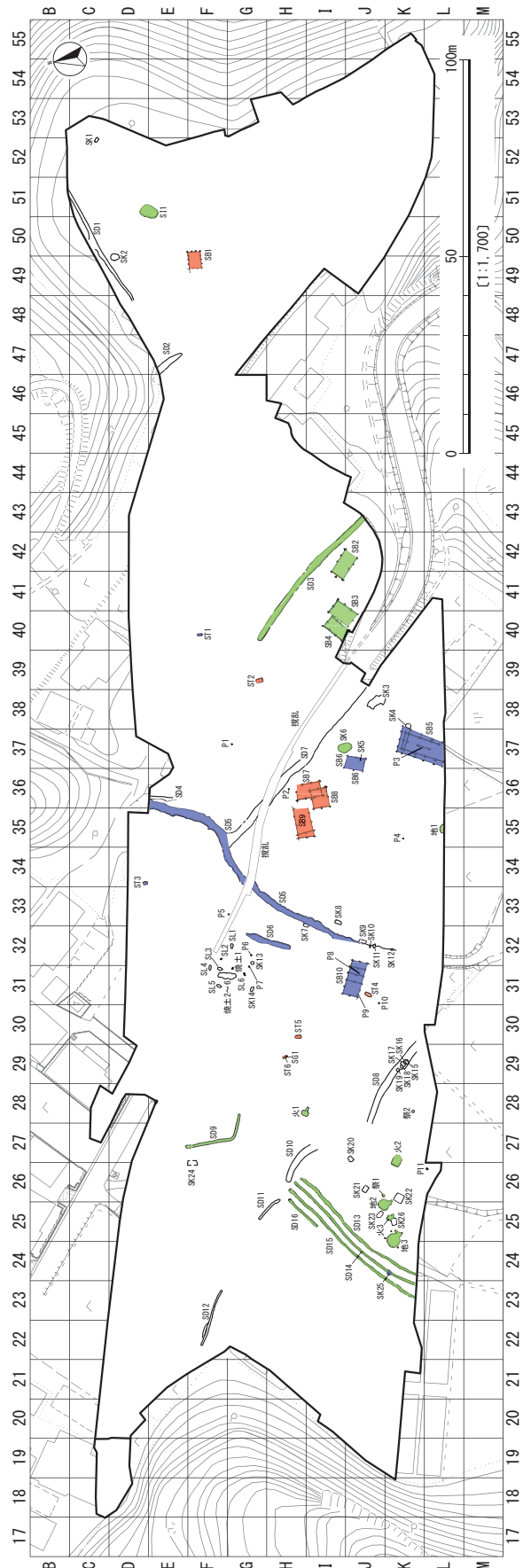
第2節 中世について

1 中世遺構について

掘立柱建物跡が10棟検出されたが、その主軸の向きから3グループに分かれ、さらに主軸と関連すると考えられる溝状遺構等からおおよその時期を推定する。

(1) 平安時代末の遺構

第2地点北東の微高地に独立している掘立柱建物跡1号、中央微高地の東側斜面の掘立柱建物跡7~9号の4棟は、ほぼ南北方向の主軸をもつ。この時期の遺構には、土坑墓2・4~6号の4基がある。土坑墓4~6号は、11世紀後半~12世紀前半のヘラ切底の土師器が副葬された墓である。土坑墓2号は、糸切底の土師器のミニチュア羽釜、白磁の端反碗、湖州六花鏡が出土しており、12世紀中頃の土坑墓と考えられる。



第159図 中世の遺構の推定年代(平安末、鎌倉時代、室町時代以降)

(2) 鎌倉時代の遺構

中央微高地東側斜面の掘立柱建物跡5・6号、西側斜面の掘立柱建物跡10号は、3棟にバラツキがあるが、おおむね北北東-南南西方向を主軸とし、掘立柱建物跡10号と平行する溝状遺構5・6号の2条との関係が考えられる。掘立柱建物跡10号の土師器は13世紀代と考えられる。溝状遺構5号は、遺構内遺物から13世紀後半~15世紀の時期設定ができる。土坑墓1・3号は、13世紀後半~14世紀前葉の糸切底の土師器が副葬されている。

(3) 室町時代以降の遺構

中央微高地の東側斜面の掘立柱建物跡2~4号の3棟は、N46~50°Eとなる北東-南西方向の軸を持ち、これと平行に走る溝状遺構3号と同時期のものと考えられる。これらの遺構は、本遺跡周辺の現在の区画割りに近い主軸方向をもつ。溝状遺構3号は、東播系須恵器の鉢や白磁碗、鎗蓮弁青磁碗の破片が出土しており、遺跡が所在する档ヶ山集落南麓の档ヶ山古石塔群へ通じていたと考えられる、中世に遡る道跡である。また、ほぼ同じ軸をとる溝状遺構13~16号(西側微高地の南側斜面)中の溝状遺構15号から検出された炭化材の放射性炭素年代は、15世紀代の暦年代を示している。室町時代以降の区画と捉えておく。

この時期の遺構に祭祀遺構がある。祭祀遺構2号は、明代(1368~1644)に铸造を開始した洪武通寶を含む癒着した古銭7枚と完形の備前焼播鉢が伏せられた状態で出土した14世紀末~15世紀の遺構であり、祭祀遺構1号は、遺構中央で、完形の糸切底の土師器小皿が底部を上に向けて出土した15世紀の遺構である。

火葬土坑については、3号は鎌倉時代まで遡る可能性があるが、概ね14~15世紀のものと考えられ、祭祀遺構や地下式坑とともに、中世の人々の精神世界を解明していくための貴重な資料となる。

また、南北方向を主軸とする掘立柱建物跡1号の近くに竪穴建物跡があるが、その主軸は北東-南西方向をとる。遺構内遺物から14世紀後半以降の竪穴建物跡と考えられる。柱穴内埋土中からも、16世紀前半~17世紀後半の炭化したイネ、栽培種の可能性があるマメ科が検出されている。

(4) 祭祀遺構について

祭祀遺構2号から出土した伏せた状態の備前焼播鉢は、笠下遺跡(宮崎県延岡市)や油須木城跡(鹿児島市郡山町)に類例がある。笠下遺跡では、一頭分の牛の歯と明銭を伴って完形品が伏せた状態で出土しており、密教や修験道との関連が指摘されている。油須木城跡では、15世紀後葉から16世紀前葉に相当する完形品が伏せた状態で出土しており、城普請等に伴う祭祀との関連が検討されている(有川2004)。また、長田遺跡(志布志市有明町)では、土坑墓と推定される楕円形の遺構から、

12世紀の玉縁口縁の白磁碗を覆って伏せた土鍋片が出土している(関東の「鍋被り葬」とは直接関係しないとしている)。15世紀~19世紀にかけて東日本でみられる鍋被り葬については、特定の病気の罹患者や旅行死亡人が村落境などに埋葬された可能性が指摘されている(櫻井・小中2016)。鉢・鍋類を伏せて埋納する行為については、南九州での類例の増加による検討の深化が期待される。

(5) 地下式坑について

本遺跡では、本県初の事例となる地下式坑が、第2地点で3基、第2地点北西の第3地点で7基検出された。第3地点の地下式坑については、別途作成される報告書にて掲載される。

地下式坑は、関東地方を中心に、九州北部では筑豊境の英彦山神宮が所在する英彦山周辺などにみられるが、遺構内遺物の大半が後世の流れ込みによるものと考えられ、遺構構築時期に伴う遺物の出土例が少ない遺構である。そのため、その用途も定説が定まっていない。本遺跡では、表土除去後の検出面においては竪坑部分の埋土がシラス混じりで確認されることが多く、近現代のものとして想定していたが、調査の進行に伴い本体部分が検出され、再考をせまられた。

この遺構については、第2地点調査時に福岡大学桃崎祐輔教授から地下式坑の可能性を示唆され、第3地点調査時には、鹿児島大学大学院理工学研究科井村隆介准教授に自然作用ではなく人為的なものとの所見を得、さらに大分県立博物館原田昭一企画普及課長から中世後期の地下式坑との指摘を受けた。竪坑平面の検出状況からすると、過去には、近現代のものとして調査されなかった場合もあった可能性がある。また、性格不明の大型土坑として報告された例(宮崎県都城市松原第1遺跡18号土坑)もみられ、他の地下式坑の立地環境との共通性や用途等、今後の検討が必要である。本遺跡が所在する档ヶ山集落の東端の持留川を臨む丘上には、天文四年(1535)再興棟札を取める彦三所大権現があり、信仰関連の立地・用途も検討する必要がある。

2 遺物について

遺物は、29~32区の谷部から集中して出土している。ヘラ切底の土師器や白磁は、谷部にはみられるが、西側微高地にはみられない。一方、糸切底の土師器は西側微高地にもみられる。中世前期は中央微高地から谷部までの範囲で人々の活動がみられ、中世後期に進むにつれて、人々の活動範囲が谷部西方の西側微高地に広がっていったと考えられる。

(1) 土師器について

本報告書では、土師器の坏・皿について、口径が10.5cm以上のものを坏、以下のものを小皿とした。日向国では、12世紀中葉以降、糸切底の土師器が出現するが、本遺跡

の12世紀相当の土坑墓4～6号から出土した土師器
 杯・小皿はいずれもヘラ切底で、13～14世紀相当の土坑
 墓1・3号出土の土師器杯・小皿は糸切底である。12世
 紀相当の土坑墓2号からは糸切底の土師器のミニチュア
 羽釜がみられるが、その他の遺構内遺物や包含層出土遺
 物を含めても、本遺跡の土師器の底部切離し技法がヘラ
 切から糸切へ移行する経過は不明である。本報告書掲載
 分の土師器杯・小皿の法量は第31表のとおりである。
 出土遺物の範囲では、ヘラ切底と糸切底の法量を比較す
 ると、ヘラ切底の杯・小皿の法量差は明確であるのに対
 し、糸切底の杯・小皿の法量差は不明瞭である。ヘラ切
 底に対し糸切底の杯・小皿は、口径・底径は小型化し、
 器高は深くなる。

第31表 中世土坑墓出土土師器法量

	底面	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)
杯	ヘラ切	12.8～15.1	9.0～11.5	2.1～3.25
	糸切	10.8～12.5	6.3～8.6	3.2～3.5
小皿	ヘラ切	8.25～10.0	6.6～8.0	1.1～2.0
	糸切	6.0～10.0	5.3～8.0	1.3～3.4

(2) 煮炊具について

本県出土の中世前半期の煮炊具に関する以前の検討
 では、中世前半期の資料は種類・数量ともに限られたも
 のであった(上床2004)。その後、調査件数の増加に伴
 い種類・数量とも増加してきた。県内出土資料を集成・
 検討した結果、以下のとおりの特徴がうかがえる。

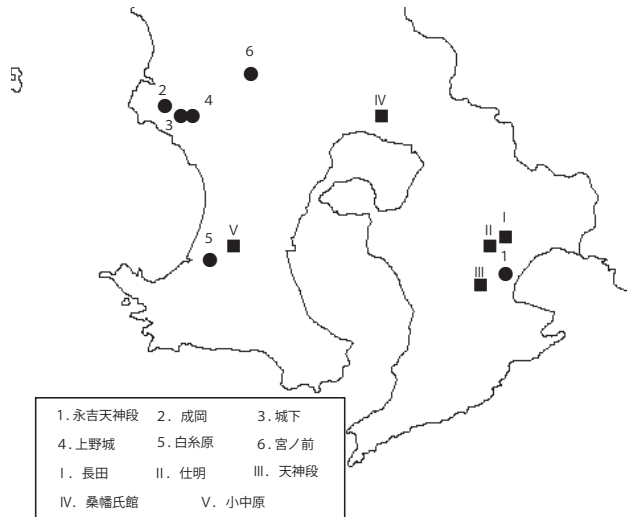
ア 釜に関しては、ほとんどの資料が白色を基調とする
 色調を呈する。これは、「畿内系土製煮炊具」の特徴で
 あり、本県資料群もその可能性が高いと考える。ただ
 し、さつま町宮ノ前遺跡出土例は茶褐色を呈しており、
 東海系の可能性がある。

イ 鍋に関しては、桑幡氏館出土のものが「京都産」だ

が、ほかの3点は産地不明である。いずれも、土坑墓
 もしくは土坑から出土していることが特徴といえる。

以上のことから、本県内においては「釜」「鍋」ともに
 畿内産のものが多い傾向にある。このような中で、本遺
 跡出土393(第91図)は、内面の口縁端付近が膨らみ、
 胎土に灰色石・茶色石・輝石などの小石が含まれ、これ
 までの本県出土例とは異なる形態・手法・胎土であった。
 そこで、西日本各地で実地調査を行い学識経験者の所見
 も得た結果、上述した特徴は、紀伊産の土師質釜、いわ
 ゆる「紀伊型釜」であることが判明した。

また、これまでの紀伊産土師質釜の出土地の南限は上
 ノ村遺跡(高知県土佐市新居)であり、本遺跡出土資料
 は国内の南限を新たに塗り替えるものであることも判明
 した。これまでの研究で、「畿内系土製煮炊具」や紀伊産
 土師質釜は、「広域流通品ではない」(徳永2009、池澤
 2010・2013)という指摘がされていたが、本遺跡の事例
 は、再検討を促す遺物の一つとして注目すべきである。



第160図 中世前半期土製煮炊具分布図

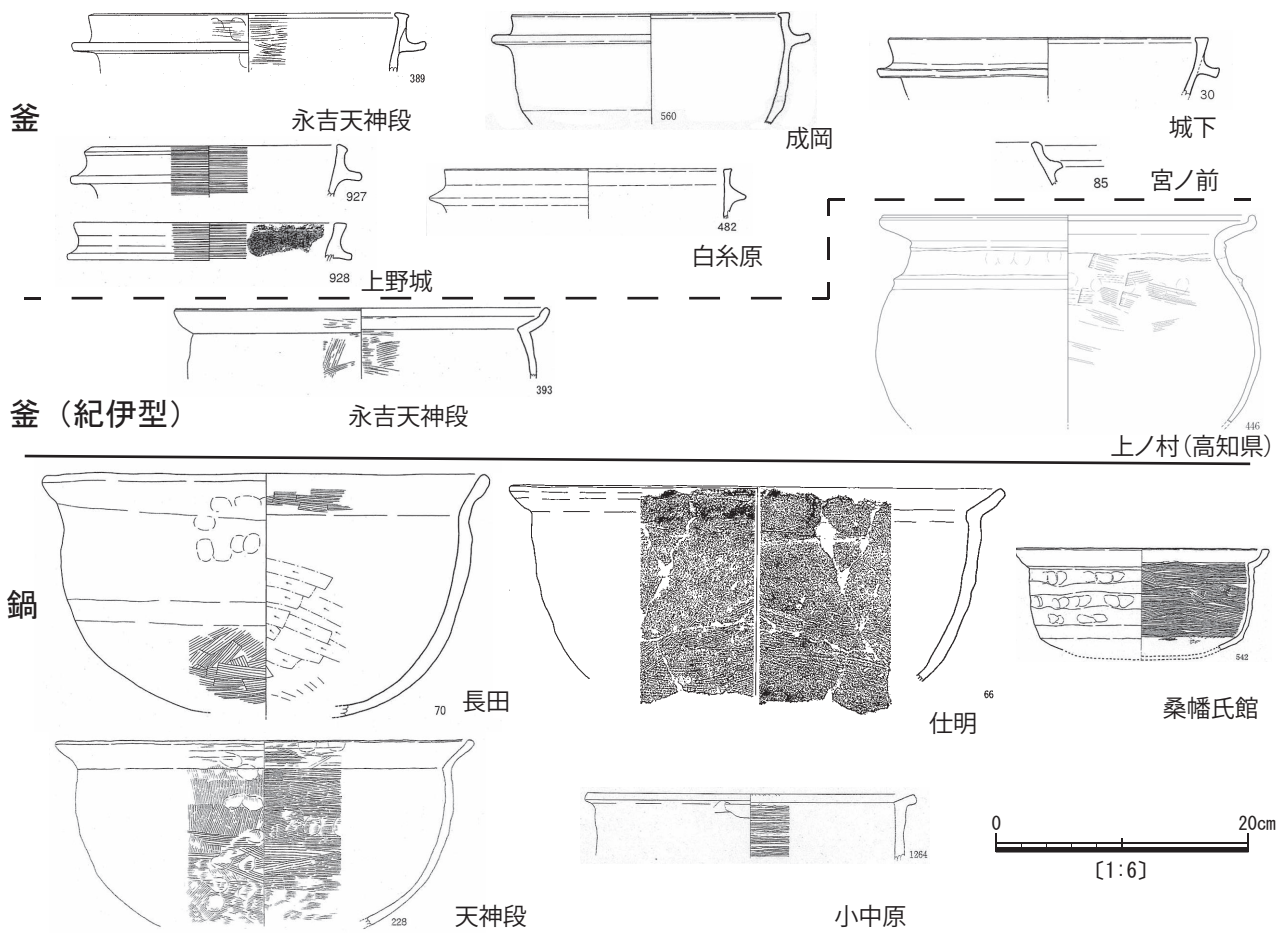
第32表 鹿児島県内の土製煮炊具

釜

番号	遺跡名	所在地	時期	備考	色調
1	永吉天神段	曾於郡大崎町永吉字天神	13世紀後葉頃か	紀伊産土師質釜	
2	成岡	薩摩川内市中福良町字成岡	溝2は12～13・不明(近世?)	羽釜・滑石製石鍋も出土	白色
3	城下	薩摩川内市百次町字城下	中世前半	羽釜	白色
4	上野城	薩摩川内市百次町字上野城	中世前半	羽釜・2点出土	黒色・浅黄色
5	白糸原	南さつま市金峰町大字宮崎字白糸原	13世紀後半の瀬戸瓶子も同一遺構内出土	羽釜・古道(溝状遺構)内から出土	灰白色
6	宮ノ前	薩摩郡さつま町求名字宮ノ前	土師質 瀬戸前期II～III頃(中世前半)か	羽釜・瀬戸おろし皿出土・東海系か	茶褐色

鍋

番号	遺跡名	所在地	時期	備考	色調
I	長田	志布志市有明町原田字長田	12世紀後半～13世紀前半	2号土壙中玉縁白磁と供伴	褐色
II	仕明	志布志市有明町蓬原字仕明	12世紀後半	16・17号土坑において青白磁合子と供伴	褐色
III	天神段	曾於郡大崎町野方字天神段	13世紀	土坑墓1号中出土・同安窯系青磁碗等と供伴	褐色
IV	桑幡氏館	霧島市隼人町神宮二丁目	13世紀(同一遺構内出土の土師器の年代観から)	第8号土坑内出土	
V	小中原	南さつま市金峰町大字新山字小中原	中世前半か		



第 161 図 鹿児島県出土の中世前半期土製煮炊具

第3節 近世について

1 遺構

近世の遺構は、第2地点の中央微高地周辺と、西側微高地の南側斜面及び西側斜面上に点在する。

(1) 溝状遺構

近世の溝状遺構1～3・6号の4条は概ね北東-南西方向に軸をもち、溝状遺構4・5号の2条は、これに直交する方向の軸をもつ。第2地点を北西から南東に通じる現道と集落各戸の区画は、これを基軸としているようにみえる。溝状遺構4号は、中世末～近代まで利用されていたと考えられ、中世後期の溝状遺構も概ね似た軸をもっていることから、本遺跡一帯では、中世のある時期以降、この基軸が意識されていたと考えられる。

(2) 土坑墓

J-26区では、土坑1基と、いずれも人骨と六道銭と考えられる古銭を伴う平面円形の土坑墓5基が、密集して検出された。六道銭は全て寛永通寶で、土坑墓1号は6枚、土坑墓2～5号は7枚が出土した。いずれも「文」字をもたない新寛永（铸造期間は1697～1712年）を主体とし、土坑墓1・3～5号は寛永13年（1638）铸造開始の古寛永を、土坑墓1・2・4・5号は寛文8年（1668）

铸造開始の背文銭を、土坑墓1・3号は背文銭と同時期の文無背銭を、土坑墓4号は寛保年間（1741～44）铸造の背元銭を含み、元文4年（1736）铸造開始の鉄銭は出土しないことから、概ね18世紀前半の銭貨流通状況を反映した土坑墓群と考えられる。このうち、土坑墓2・4号との切合い関係から土坑墓5号が最も古く、背元銭が出土した土坑墓4号が最も新しい可能性があるが、他の新旧関係は不明である。いずれも18世紀前半～中頃の土坑墓と考えられる。

いずれの土坑墓も木棺の痕跡を確認できなかったが、人骨の残存状況から、木棺内の空間が保たれている段階で頭骨が朽ちて棺底に落下したと考えられる。早桶タイプの木棺に座葬された成人の可能性が高いと推測され、土坑墓1・5号は西向き、土坑墓2号は北向きの座葬であったことがわかる（鹿児島女子短期大学下野真理子助手御教示）。本県近世墓の発掘調査成果によれば、平面円形の墓壇の場合は、遺体収納容器の平面形も円形の桶型木棺が想定でき、大隅半島ではこの組み合わせが多いとされる（藤井2013）。本遺跡第2地点で検出した近世土坑墓も、同じ傾向にある。

2 遺物

(1) 陶磁器

肥前系の陶磁器には、16世紀末～17世紀前半の陶器碗・皿、17世紀後半～18世紀前半の陶器碗、18世紀代の磁器皿、18世紀中頃～19世紀前半の磁器碗・筒型碗がみられ、近世の全時期を通じて、肥前系陶磁器が流入している。

龍門司系の薩摩焼では、外底面まで施釉された古手の碗や、德利、灯明皿が出土した。

苗代川系の薩摩焼には、18世紀前半以前の壺・甕類の底部、18世紀前半～19世紀にかけての甕、18世紀後半の鉢類などの他、仏具もみられる。17世紀後半～18世紀前半頃の徳利のなかで堂平窯産の可能性をもつものや、18世紀後半～19世紀の土瓶に、注口内側が1つ穴のものがみられ、用途による使い分けがみられる。

(2) 寛永通寶

土坑墓5基から、六道銭34枚と包含層から出土した4枚の計38枚の寛永通寶が出土した。寛永通寶の法量による分類(高橋2001, 川根・石川・植木2005)を参考に、本報告掲載寛永通寶を分類した。

掲載古銭のうち、鑄字体からA:古寛永(1053, 1066～67, 1075, 1082, 1088), B:背文銭(1056, 1060～61, 1077, 1087)と判断される古銭11枚は、いずれも、この法量と合致している。E:背元銭1枚(1079)を除く、残る26枚の古銭を銭径・銭厚・重量で分類すると、Bと同時期のC:文無背銭は3枚(1054, 1058, 1069), D:元禄～正徳期の新寛永は19枚(1055, 1057, 1059, 1062～64, 1068, 1071～72, 1076, 1078, 1080～81, 1083～84, 1086, 1234～36)の22枚が合致する。鑄字では新寛永にみえる3枚(1065, 1070, 1085)は、銭径がAのみに合致する。また、1237は、銭径・重量がAに合致するが、各分類の法量を超える1.8mmの銭厚を測る。この4枚を除く出土古銭34枚は、17世紀半ば～後半の50年間に鑄造されたA・B・Cの型が14枚、18世紀前半頃の50年間に鑄造されたD・Eの型が20枚となる。

鉄製・真鍮製の寛永通寶が鑄造されるようになる近世後期の銭貨が見えず、土坑墓は18世紀前半～半ば頃の時期にとどまっている。近世陶磁器は、17世紀代は少数で、大半が18世紀代のものと考えられる。調査対象範囲では住居跡等の遺構が検出されていないが、今回発掘調査された遺構・遺物からは、18世紀代が調査対象範囲における集落の中心的な時代と考えられる。

第4節 永吉天神段遺跡周辺の歴史的環境

1 永吉天神段遺跡所在地について

(1) 档ヶ山(まてがやま)

本遺跡は、曾於郡大崎町永吉の小字天神の台地に所在するが、一帯は档ヶ山と呼ばれる。地名の由来は不詳だが、参考までに大修館書店版『大漢和辞典』で「档」の字義を調べると、一こしかけ、木の名のほかに、二ふち、文書の意味があり、参照語の「档案」には、官署の案文書、官署の記録とある。地名に用いられるのは珍しく、同書には当地「档ヶ山」が特記される。字義との関連は確かめられないが、第1地点の古代集落には識字層の存在が指摘されている(埋調査セ2016)。また、第2地点F-44区土層断面における植物珪酸体分析では、IV a層時期にはシイ属などが生育する照葉樹林が広がっていたことが推定されるが、III a層時期にはイネ科植物の生育に適した定期的な刈り取りや火入れなどの人為的な植生干渉がなされていた可能性がある(埋調査セ2017)。档ヶ山の地名の由来として、前記の字義や、マテバシイ等の植生分布の可能性をあげておく。

(2) 天神

所在地の字「天神」については、周辺に天満宮に関するものは見当たらず、釈迦・観世音・阿弥陀を神体とする前述の彦三所大権現が所在する(『大崎名勝誌』)。筑豊境の英彦山神宮は天孫が下った地とされ、アメノオシホミミノミコト・イザナギノミコト・イザナミノミコトを祭神とするが、その本地仏は釈迦・千手観音・阿弥陀如来である。天神には、いわゆる天満宮の天神の意のほか、天神地祇の天津神の意味の天神がある。档ヶ山の小字天神は、彦三所大権現の神体が垂迹した天津神に関連するものととらえておく。

(3) 永吉

大崎町永吉は、大崎町南部の持留川右岸を指すが、南北朝期の正平十四年(1359)鳥津氏久寄進状には「日向国救二郷永吉東方比志田内地頭屋敷二ヶ所」と見え、永吉に隣接または包含される比志田に地頭屋敷が所在している。比志田は現在の大崎町菱田と思われ、近隣には領家、春日島などの近衛家領鳥津荘所縁の地名があった(『大崎町史』)。薩摩国では「永吉名」=「地頭名の各郡散在名」と考えられる(水上1955)。鎌倉時代末に救仁院・救仁郷地方の地頭代官として志布志宝満寺に所領を寄進する源太資清は、北条残党等による建武元年(1334)「鳥津庄日向方南郷濫妨狼藉謀叛人等交名」の、鎌倉幕府最後の執権である赤橋守時家人の救仁郷源太(『薩藩日記雑録』)と考えられる(五味1967)。大崎町永吉は、南北朝以前に、鳥津荘日向方惣地頭である赤橋系北条氏の地頭名であった可能性がある。

(4) 救仁郷(くにごう)

大崎町は、近代以前には大隅国ではなく、日向国諸県

郡救仁郷(救二郷)に属した。この状況は「建久図田帳」に日向国諸県郡の島津荘一円荘として救仁郷160町が見え、中世前期までさかのぼる。中世史料には、救仁郷内に蓬原・比志田・飯隈・益丸・永吉が見え、鹿児島県志布志市と大崎町の境を南流する菱田川を境に、右岸は救仁郷、左岸は救仁院(救二院)に分かれていた。

東九州自動車道(志布志IC～鹿屋申良JCT間)建設に伴う発掘調査対象遺跡としては、見帰遺跡・安良遺跡・小牧古墳群・次五遺跡・木森遺跡が救仁院、春日堀遺跡・平良上C遺跡・宮脇遺跡・荒園遺跡・永吉天神段遺跡・京の塚遺跡が救仁郷に該当する。

救仁院・救仁郷は、日向国の律令郡郷名に見えず(「倭名類聚抄」)、日向国の古代駅名に「救仁」がある(「延喜式」)が、古代駅路の西海道の推定経路から志布志湾岸は離れており、駅名「救仁」と、大崎町域の「救仁郷」を関連づけることは難しい。救仁郷は平安時代後期の郡郷制の改編を経て定着した郷名の可能性がある。全国的には、**●●国●●郡●●郷**と、国郡郷名が一致する例が散見するが、その変化例として、「クニ」郷が考えられる。救仁郷が、日向国日向郡日向郷と称されていたとは考え難く、中世以降に地名が失われた大隅国大隅郡大隅郷が比定される(平田1993)。

本来、大隅国にあった救仁郷は、平安時代後期の郡郷制改編を経て、日向国諸県郡に移管された可能性がある。平安時代末期から鎌倉時代初期にかけて、救仁郷・救仁院の弁済使等に薩摩平氏の救仁院・安楽氏が知られ、近隣の櫛間院(宮崎県申間市域)や大隅国肝属郡等の島津荘内の弁済使等と互いに姻戚関係を築いていた(「薩藩旧記雑録」「備忘録抄」「肝付系図」「櫛間院本主次第手継系図」)。救仁郷・救仁院が大隅国から日向国へ移管されたものであれば、その契機は、万寿三年(1026)に平季基によって立荘された島津荘の成立・拡大と関連するものと考えられる。

2 遺跡と文献資料から見る中世前期の志布志湾岸

中世前期には、薩摩平氏系の救仁院氏・安楽氏に代わり、救仁院に伴姓安楽氏、救仁郷には志布志市有明町蓬原を拠点に伴姓救仁郷氏など、肝付氏族が見える。中世遺構・遺物が豊富な川久保遺跡(鹿屋市申良町細山田)は肝付氏族北原氏の本貫地に隣接するが、北原氏は救仁郷氏から分出し、後に安楽氏から養子を迎えたと考えられ(『東申良町郷土史』)、菱田川から申良川の間で、救仁郷氏が活動していたと考えられる。日向・大隅両国の守護職と島津荘惣地頭職は、島津氏から北条氏一門に移り、救仁院宝満寺(志布志市)や柏原別府(肝属郡東申良町)を通じて種子島に至る航路・港湾権益を北条氏が握る(松尾2012)とともに、北条氏地頭代らの在地権益への浸食がみられる。志布志湾岸一帯で活動した北条氏の地頭代

や被官らは、南九州外から進出した者(大隅惣地頭名越系北条氏の地頭代肥後氏・布施氏・門貫氏、鹿屋院地頭代津野氏、櫛間院地頭代と考えられる河野氏または阿野氏や野辺氏等)や、もともと島津荘弁済使などの在地勢力の庶流から被官化したと考えられる者(救仁郷源太、救仁郷弁済使宗頼、救仁院図師馬入道西)がみられ、在来の弁済使らとの争論が絶えない。

中世後期以降、近世に至る救仁郷氏は、源姓を名乗っている。肝付氏族の系図によっては、伴姓救仁郷初代兼綱が養子を得て、その子孫は代々「宗」を通字(「伊地知季安著作集 肝付系図」)としており、源姓と考えられる救仁郷源太や弁済使宗頼は、この系統にあたるかもしれない。救仁郷氏の系譜の交替あるいは仮冒がみられ、肝付氏から離れていく。南北朝期には、本遺跡南方の胡麻ヶ崎城(曾於郡大崎町狩宿下)に後醍醐天皇近臣の千種忠顕の雑掌が入城したり、信濃国に由来すると考えられる楡井頼仲が志布志湾岸で活動したり、熊野水軍の南九州渡来などの争乱を経るが、その後は、南九州以外からの外来勢力の進入・定着はみられなくなる。広域流通品ではない紀伊産の土師質釜の出土南限を、高知県から南下させた本遺跡における出土例は、このような鎌倉・南北朝期の人の往来を念頭に検討する必要がある。後の日明貿易で堺を拠点に細川氏が活用する、紀伊半島から南九州に至る太平洋岸航路は、1340年代には既に存在していた(綿貫2010)。

本県や宮崎県では、湖州鏡の出土遺跡や奉納伝世された神社は、河川流域や周辺に水田をひかえた共通点があり、平安時代から鎌倉・室町時代にかけて、ある程度の政治力や経済力をもつ勢力の存在が想定でき、彼らが12世紀には末法思想を受容して湖州鏡を副葬したとされる(上村1994)。

また、紀伊産の土師質釜が出土した高知県上ノ村遺跡は、中世都市高岡町を支える13世紀の仁淀川下流域の川津機能を果たしていた(出原2010)。本遺跡では、第1地点の識字層と関わる古代集落、第2地点では、12世紀と考えられる中世土坑墓2号副葬の湖州六花鏡、鎌倉時代の太平洋岸の交易を推定できる紀伊産の土師質釜のほか、青磁・白磁・中国製壺や東海・播磨・備前産陶器の出土など、遠隔地との交流を行う政治・経済力を有する人々の存在が想定される。

近年の発掘調査の成果によって、従来不明瞭であった、大隅半島北部の中世の様相が、垣間見えてきている。郡元西原遺跡(宮崎県都城市)では、島津荘成立・拡大期の荘政所に関連すると想定される大溝が検出されている(現地説明会)。島津荘政所の荘務を預かる藤原姓富山氏の一族富山勾当安兼が百引村弁済使に補任(承安五年八月十四日付及び安元元年十二月日付「富山氏文書」『薩藩旧記雑録』前編卷一)された地の新田遺跡(鹿屋市輝北

町百引)、その南東約6kmの天神段遺跡(大崎町野方)では、古代・中世の遺構・遺物が豊富に発見され、大隅半島の南北方向や志布志湾との交通上の要衝の遺跡として注目されている。

本遺跡は、新田遺跡から天神段遺跡を経て、県道64号線で志布志湾へ向かう途上の持留川の対岸に所在する。大隅半島で古代駅路の存在を想定することは難しいが、今後の志布志湾岸など大隅半島各地の発掘調査成果の増加とともに、文献史との整理検討を進める中で、伝路などの古代交通路や島津荘内の交通路・港津施設の復元が深化されることで、本遺跡の志布志湾岸での古代・中世史上の位置づけの理解が深まると考えられる。

主な整理・報告書作成作業協力者(敬称略 50音順)

池澤 俊幸, 北野 隆亮, 斎木 巖, 佐藤 重聖,
柴田 圭子, 原田 昭一

引用・参考文献

- 有川孝行 2004『油須木城跡』郡山町埋蔵文化財発掘調査報告書 第4集
- 池澤俊幸 2010「南四国に搬入された中世土器・陶磁器と海運」『中世土佐の世界と一条氏』市村高男編
- 池澤俊幸 2013「南四国・仁淀川流域の遺跡と水運」『中近世土器の基礎研究』25 日本中近世土器研究会
- 石野弥栄 2015「鎌倉～南北朝河野氏の遠隔地所領支配」『中世河野氏権力の形成と展開』
- 出原恵三他 2010『上ノ村遺跡I』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター発掘調査報告書第107集
- 上床真 2004「鹿児島県における中世煮炊具の一樣相」『研究紀要・年報 縄文の森から』第2号 鹿児島県立埋蔵文化財センター
- 小野信彦 1990『傘下遺跡』北方町文化財報告書第1集
- 鹿児島県教育委員会 1983『成岡・西ノ平・上ノ原遺跡』鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書第28集
- 鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター 2017『永吉天神段遺跡2 第2地点-1 旧石器・縄文時代編』(公財)埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書(13)
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2002『鍛冶屋馬場遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書第39集
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2003『楠元・城下遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書第57集
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2009『市ノ原遺跡(第3地点)』鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書第140集
- 上村俊雄 1994「南九州出土の湖州鏡について」鹿児島大学法文学部紀要『人文学科論集』第39号
- 川根正教・石川功・植木真吾 2005「寛永通寶銅銭の形態的特徴と金属成分分析」『日本考古学』第20号 日本考古学協会編
- 北野隆亮 2005「和歌山平野における瓦器の分類と変遷—紀伊型瓦器碗の認識とその評価—」『紀伊考古学研究』第8号
- 北野隆亮 2006「紀伊型瓦器碗の編年と分布」『中近世土器の基礎研究』第XX号 日本中世土器研究会
- 霧島市教育委員会 2006「桑幡氏館跡」II
- 鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター 2016『永吉天神段遺跡 第1地点』(公財)埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書(8)
- 五味克夫 1967「島津庄日向方救二院と救二郷」『日本社会経済史研究』古代中世編 寶月圭吾先生還暦記念会編
- 五味克夫 1994「志々日家文書の再考察」『鹿児島女子大学研究紀要』Vol.15-No.2
- 阪本敏行 2011「熊野水軍 中世前期を中心として」『海の熊野』森話社 谷川健一・三石学編
- 櫻井準也・小中美幸 2016「鍋被り葬研究の成果と新発見例」『日本考古学協会第82回総会 研究発表要旨』一般社団法人日本考古学協会
- 薩摩町教育委員会 2001「寺屋敷遺跡・通山遺跡・宮ノ前遺跡・犬木屋遺跡」薩摩町埋蔵文化財調査報告書第3集
- 高橋照彦 2001「近世銭貨の生産と品質規格—寛永通寶と長崎貿易銭の法量計測的研究—」『奈良国立博物館研究紀要 鹿園雑集』第2・3合併号
- 出口順一郎・堂込秀人 2003『長田遺跡』有明町埋蔵文化財調査報告書(2)
- 徳永貞紹 2009「肥前における中世前期の畿内系土製煮炊具」『新東晃一代表還暦記念論文集 南の縄文・地域文化論考』中巻 南九州縄文研究会新東晃一代表還暦記念論文集刊行会
- 橋口亘 2006「鹿児島県出土の備前焼」『備前歴史フォーラム 備前焼・海の道・夢フォーラム 2006～備前焼の歴史と未来像をもとめて～』備前市教育委員会・備前市歴史民俗資料館
- 平田信芳 1993「古代の大隅地域—大隅郡の境域と日向への道—」『歴史の道調査報告書 第五集 大隅地域の道筋』鹿児島県教育委員会
- 藤井大祐 2013「発掘調査事例からみた鹿児島地域の近世墓」『鹿児島考古』第43号 鹿児島県考古学会
- 松尾剛次 2012「中世叡尊教団の薩摩国・日向国・大隅国への展開—薩摩国泰平寺・日向国宝満寺・大隅国正国寺に注目して—」『山形大学人文学部研究年報』第9号
- 水上一久 1955「南北朝内乱に関する歴史的考察—特に薩摩・大隅地方について—」『金沢大学法文学部論集哲学史学篇』
- 綿貫友子 2010「中世の太平洋海運」『海事博物館研究年報』38

写 真 图 版



溝状遺構3号とその周辺（北西から）



G・I - 42・43区 遺物出土状況（北西から）



鉄製品（1029）出土状況（F - 41区）



J・K - 28~30区 遺物出土状況と溝状遺構8号（西から）



石鍋転用品（984）出土状況（E - 32区）



掘立柱建物跡5号とその周辺（西から）



I・J-27~30区境 南面土層とその周辺（南から）



黒色土師器(381)出土状況(F-31区)



J・K-25・26区 中世遺構と近世墓群（東から）



青磁碗(581)出土状況(E-28区)



アカホヤブロック・礫出土状況（南東から）



土層（南西から）



南側の横穴（北から）



軽石出土状況（北東から）



完掘（北東から）

図版4 中世の掘立柱建物跡



1号 (西から)



2号 (北西から)



3号 (北東から)



4号 (北東から)



5号 (北東から)



6号



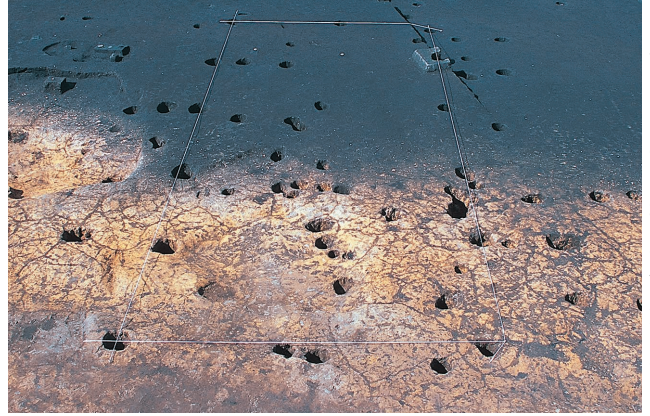
7号 (南から)



8号 (東から)



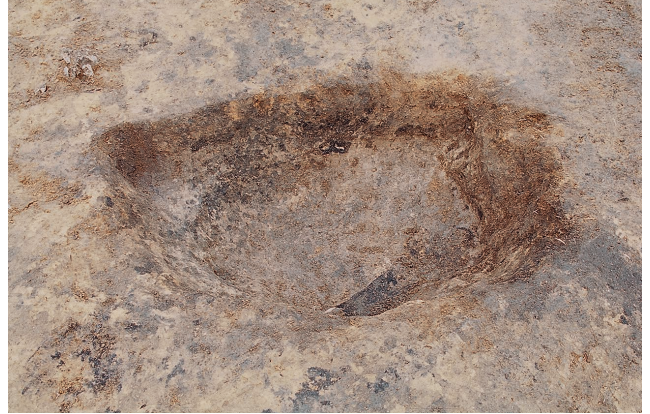
掘立柱建物跡9号（西から）



掘立柱建物跡10号（南東から）



土坑1号の検出状況（南西から）



土坑1号（南西から）



土坑2号（南東から）



土坑4号（北西から）



土坑3号の遺物出土状況（南東から）



土坑3号（西から）



5号 (南東から)



6号 (南西から)



7号 (南東から)



8号 (西から)



9号の土層 (西から)



9号 (西から)



10・11号 (西から)



12号 (南から)